

# 官報

號外 昭和十二年三月二十日

## ○第七十回衆議院議事速記録第二十六號

昭和十二年三月十九日(金曜日)

午後二時八分開議

議事日程 第二十七號

昭和十二年三月十九日

午後一時開議

第一 船員法改正法律案(政府提出) 第一讀會

第二 揮發油及アルコール混用法案(政府提出) 第二讀會

第三 貿易組合法案(政府提出) 第一讀會

第四 貿易調整法案(政府提出) 第一讀會

第五 工業組合法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第六 橫莊鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第七 製鐵事業法案(政府提出) 第一讀會

第八 大正九年法律第五十三號中改正法律案(關稅法及關稅定率法等ノ朝鮮ニ於ケル特例ニ關スル件)(政府提出) 第一讀會

第九 大正九年法律第五十六號中改正法律案(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)(政府提出) 第一讀會

第十 防空法案(政府提出) 第一讀會

第十一 海外移住組合聯合會ニ對スル政府貸付金ノ出資等ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第十二 農村負債整理資金特別融通及損失補償法案(政府提出) 第一讀會

第十三 帝國燃料興業株式會社法案(政府提出) 第一讀會

第十四 人造石油製造事業法案(政府提出) 第一讀會

第十五 日本銀行金買入法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第十六 昭和十二年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第十七 神戸商業大學移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第十八 肥料取締法中改正法律案(政府提出) 貴族院送付) 第一讀會

第十九 酒造組合法中改正法律案(政府提出) 貴族院送付) 第一讀會

第二十 日本無線電信株式會社法中改正法律案(政府提出) 貴族院送付) 第一讀會

第二十一 特許法中改正法律案(政府提出) 貴族院送付) 第一讀會

第二十二 商標法中改正法律案(政府提出) 貴族院送付) 第一讀會

第二十三 不正競争防止法中改正法律案(政府提出) 貴族院送付) 第一讀會

第二十四 裁判所構成法中改正法律案(政府提出) 貴族院送付) 第一讀會

第二十五 大正十年法律第百二號中改正法律案(定年ニ因ル退職判事檢事

ノ恩給ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

第二十六 兵役法中改正法律案(政府提出) 貴族院送付) 第一讀會

第二十七 產業組合中央金庫法中改正法律案(政府提出) 貴族院送付) 第一讀會

第二十八 產業組合自治監査法案(政府提出) 貴族院送付) 第一讀會

第二十九 軍機保護法改正法律案(政府提出) 貴族院送付) 第一讀會

第三十 刑事訴訟法中改正法律案(政府提出) 貴族院送付) 第一讀會

第三十一 外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法中改正法律案(政府提出) 貴族院送付) 第一讀會

第三十二 百貨店法案(政府提出) 貴族院送付) 第一讀會

第三十三 辨理士法中改正法律案(政府提出) 貴族院送付) 第一讀會

第三十四 輸出補償法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第三十五 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

昭和十年度第一豫備金支出ノ件

昭和十年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和十年度特別會計豫備費支出ノ件

昭和十年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件

自昭和十一年一月至同 年三月昭

和十年度第二豫備金支出ノ件

自昭和十一年一月至同 年三月昭

和十年度第二豫備金支出ノ件

### 第三十六

自昭和十一年一月至同 年三月昭  
和十年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件  
自昭和十一年一月至同 年三月昭  
和十年度特別會計第一豫備金支出ノ件  
自昭和十一年一月至同 年三月昭  
和十年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件  
昭和十一年度第二豫備金支出ノ件  
昭和十一年度特別會計第二豫備金支出ノ件  
昭和十一年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件

承諾  
ヲ求ムル  
件

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲  
茲ニ掲載ス〕  
一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ  
航空事業獎勵法案  
提出者 末松借一郎君 宮脇 長吉君

決議案(選舉公營ニ關スル件)  
提出者 加藤 鯛一君 小山 谷藏君  
一松 定吉君 工藤 鐵男君  
濱野徹太郎君 作田高太郎君  
牧野 良三君 加藤久米四郎君  
東郷 實君 宮古啓三郎君  
名川 侃市君 青木雷三郎君  
安部 磯雄君 清瀨 一郎君  
三浦 虎雄君 井坂 豐光君

治山治水ノ根本策ニ關スル決議案  
提出者  
木槍三四郎君 植原悅二郎君  
助川啓四郎君 一宮房治郎君  
工藤十三雄君 小林 鑄君  
小山 谷藏君 武田德三郎君  
高岡 大輔君 永山 忠則君  
升田 憲元君 小山邦太郎君  
三浦 虎雄君 川俣 清音君  
(以上三月十八日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ如シ  
國有鐵道赤穂線敷設ニ關スル質問主意書  
提出者 江藤源九郎君  
(以上三月十八日提出)

一昨十八日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ  
第一部選出豫算委員 永山 忠則君  
一昨十八日委員長及理事互選ノ結果左ノ如シ  
商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)委員  
委員長 依 孫一君  
理事 手代木隆吉君 池本甚四郎君  
角 源泉君 高橋 泰雄君  
松本 弘君 益谷 秀次君

一昨十八日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ  
商法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)委員  
辭任由谷 義治君 補關大石 大君  
樺太市制案(政府提出、貴族院送付)委員  
辭任田中 好君 補關片山秀太郎君  
農地法案(政府提出)委員  
辭任木村 武雄君 補關大石 大君  
衆議院議員選舉法中改正法律案(牧野賤男君外十一名提出)外一件委員  
辭任勝田 永吉君 補關田村 秀吉君

大正十二年法律第五十二號中改正法律案(司法官試補及辯護士ノ資格ニ關スル件)  
(小林鑄君外一名提出)外一件委員  
辭任立川 太郎君 補關立川 平君

○議長(富田幸次郎君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、御諮リ致シマス、第一部選出豫算委員 江藤源九郎君、第五部選出懲罰委員 永山忠則君、右常任委員辭任ノ申出ガアリマシタ、之ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可スルコトニ決シマシタ、其部ノ諸君ハ速ニ補關選舉ヲ行ヒ御届アラシコトヲ望ミマス  
諸君、昨日討論終局ノ動議採決ノ際ニ於キマスル前田幸作君及ビ龜井貫一郎君ノ行動ハ、議場ノ秩序ヲ紊シ、議院ノ騷擾ヲ醸シタルモノト認メマス(拍手ノ一)仍テ議長ハ議員前田幸作君、同龜井貫一郎君ノ兩君ヲ懲罰委員ニ付スルコトニ致シマス(拍手起リ)「反對々々」ト呼ビ其他發言スル者多ク議場騒然

○中山福藏君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第三十五ヲ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス  
○議長(富田幸次郎君) 中山君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第三十五、鐵道敷設法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長清瀬規矩雄君

第三十五 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)  
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書  
一鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也  
昭和十二年三月十八日  
委員長 清瀬規矩雄

衆議院議長富田幸次郎殿  
○清瀬規矩雄君 簡單デアリマスカラ、當席カラ御許ヲ願ヒマス  
○議長(富田幸次郎君) 登壇ヲ願ヒマス  
〔清瀬規矩雄君登壇〕

○清瀬規矩雄君 只今上程ト相成リマシタ鐵道敷設法中改正法律案ノ委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、本案ハ極メテ簡單ナル案デアリマシテ、省線櫻木町驛カラ横須賀線ノ北鎌倉驛ニ連絡スル新線ヲ新ニ設ケタイト云フデアリマス、委員會ハ慎重審議致シマシタ結果、本案ニ賛成スベキモノト決定致シマシタ、此段御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ  
○中山福藏君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通リ可決セラレンコトヲ望ミマス  
○議長(富田幸次郎君) 中山君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス  
鐵道敷設法中改正法律案 第二讀會(確定議)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ(拍手)日程第一、船員法改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス—— 遞信大臣兒玉秀雄君

第一 船員法改正法律案(政府提出) 第一讀會  
船員法  
第一章 總則

第一條 本法ニ於テ船員トハ日本船舶ニシテ左ニ掲グル船舶以外ノモノニ乘組ム船長及海員ヲ謂フ  
一 船舶法第二十條ニ規定スル船舶  
二 平水區域ヲ航行スル船舶  
三 總噸數三十噸未滿ノ漁船  
前項ノ海員トハ左ニ掲グル者以外ノ乘組員ヲ謂フ  
一 船舶所有者以外ノ者ニ雇傭セラルル者  
二 何人ニモ雇傭セラレズシテ業務ヲ營ム者  
三 其ノ他勅令ヲ以テ定ムル者

第二條 船員、船員タラントスル者、船舶所有者又ハ船長ハ船員又ハ船員タラントスル者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得  
第三條 未成年者ガ船員ト爲ルニハ其ノ法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス前項ノ許可ヲ得タル者ハ雇入契約ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

第四條 十五歲未滿ノ者ハ船員トシテ、十八歲未滿ノ者ハ石炭夫又ハ火夫トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ勅令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
第五條 十八歲未滿ノ者ハ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外船内勞働ニ適スル

船員法改正法律案(政府提出) 第一讀會

コトヲ證明シ且署名シタル醫師ノ健康證明書ヲ有スル場合ニ非ザレバ船員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第六條 船員ハ船員手帳ヲ受有スルコトヲ要ス  
船員手帳ノ交付、訂正、書換、保管及返還ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二章 船長

第七條 船長ハ海員ヲ指揮監督シ且船内ニ在ル者ニ對シ其ノ職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第八條 船長ハ船舶ヲ港ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ其ノ他船舶ニ危險ノ虞アルトキハ甲板ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第九條 船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ船長ハ人命、船舶及積荷ノ救助ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其ノ他船内ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非ザレバ船舶ヲ去ルコトヲ得ズ

第十條 船舶方衝突シタルトキハ船長ハ五ニ人命及船舶ノ救助ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、所有者、船籍港、發航港及到達港ヲ告グルコトヲ要ス但シ自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 船長ハ他ノ船舶ノ遭難ヲ知りタルトキハ人命ノ救助ニ必要ナル手段ヲ盡スコトヲ要ス但シ自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アル場合及勅令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 船舶航行中船内ニ在ル者死亡シタルトキハ船長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ水葬ニ付スルコトヲ得

第十三條 船内ニ在ル者死亡又ハ行方不明ト爲リタルトキハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外船長ハ船内ニ在ル遺留品ヲ保管スルコトヲ要ス

第十四條 外國ニ駐在スル帝國ノ外交官、領事官又ハ貿易事務官ガ法令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民ノ送還ヲ命ジタルトキハ船長ハ正當ノ事由アルニ非ザレバ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

送還費用ノ償還ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ船長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ管海官廳ニ其ノ旨ヲ報告スルコトヲ要ス

一 衝突、乗揚、滅失、沈没、火災、機關ノ損傷其ノ他ノ海難發生シタルトキ  
二 人命若ハ船舶ノ救助ニ從事シ又ハ航行中他ノ船舶ノ遭難ヲ知りタルトキ

三 船内ニ在ル者死亡シ又ハ行方不明ト爲リタルトキ  
四 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ  
五 船舶ガ抑留又ハ捕獲セラレタルトキ其ノ他船舶ニ關シ著シキ事故アリタルトキ

第十六條 船長ガ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタルトキ又ハ之ヲ指揮スルコト能ハザル場合ニ於テ他人ヲ選任セザルトキハ運航ニ從事スル海員ハ其ノ職掌ノ順位ニ從ヒ船長ノ職務ヲ行フ

第十七條 第二十一條、第二十三條、第二十九條、第三十條及第三十二條ノ規定ハ船長ニ之ヲ準用ス

第三章 海員  
第十八條 海員ノ雇入契約ノ成立、終了、更新又ハ變更アリタルトキハ船長及海員ハ遲滞ナク管海官廳ニ出頭シテ其ノ公認ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ船長ガ公認ヲ受クルコト能ハザルトキハ船舶所有者之ヲ受クルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルトキハ代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコトヲ得

第十九條 海員ハ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタル爲職務ニ從事セザル期間ニ付テモ給料ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ疾病又ハ傷痍ニ付海員ニ過失アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

海員ハ其ノ職務ヲ行フニ因リテ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項但書ノ規定ニ拘ラズ疾病又ハ傷痍ニ付海員ニ故意又ハ重大ナル過失ナキ限り同項ニ規定スル給料ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十條 海員ノ給料及手當ノ支拂方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 船舶所有者ハ海員ノ乗船中勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ食料ヲ支給スルコトヲ要ス

第二十二條 船舶所有者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ船舶ニ醫師ヲ乘組マシメ又ハ醫療設備ヲ爲スコトヲ要ス

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ海員ノ雇入契約ハ終了ス

一 船舶ガ滅失又ハ沈没シタルトキ  
二 船舶ガ全ク運航ニ堪ヘザルニ至リタルトキ

船舶ノ存否ガ一月間分明ナラザルトキハ船舶ハ滅失シタルモノト推定ス

第一項ノ規定ニ依リ雇入契約終了シタル場合ト雖モ海員ハ人命、船舶又ハ積荷ノ應急救助ノ爲必要ナル勞務ニ服スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ雇入契約ハ仍存續スルモノト看做ス

第二十四條 海員ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ船長ハ之ヲ雇止ムルコトヲ得

一 著シク職務ニ不適任ナルトキ  
二 著シク職務ヲ怠リ又ハ職務ニ關シ重大ナル過失アリタルトキ

三 疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ職務ニ堪ヘザルトキ  
四 船長ノ指定スル時迄ニ船舶ニ乗込マザルトキ

五 其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アルトキ

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ海員ハ雇止ヲ請求スルコトヲ得

一 船舶ガ國籍ヲ喪失シタルトキ  
二 海員ガ疾病ニ罹リ又ハ傷痍ヲ受ケ職務ニ堪ヘザルトキ  
三 海員ガ船長ヨリ虐待ヲ受ケタルトキ

前項ニ掲グル場合ノ外海員ハ船長ノ適當ト認ムル後任者ヲ提供シテ雇止ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 期間ノ定ナキ海員ノ雇入契約ハ船長又ハ海員ヨリ書面ヲ以テ二十四時間ヲ下ラザル期間ヲ定メ豫告ヲ爲ストキハ該期間ガ滿了シタル時ニ於テ終了ス

前項ノ期間ガ滿了シタル時ニ於テ船舶ガ積荷ノ陸揚ヲ爲シ又ハ旅客ガ上陸スベキ港ニ碇泊中ニシテ其ノ港ニ於ケル積荷ノ陸揚及旅客ノ上陸ノ港ニ碇泊中ナルトキハ第一項ノ規定ニ拘ラズ船舶ガ積荷ノ陸揚ヲ爲シ又ハ旅客ガ上陸スベキ次ノ港ニ到着シテ其ノ港ニ於ケル積荷ノ陸揚及旅客ノ上陸ガ終了タル時ニ於テ雇入契約ハ終了ス

前二項ノ規定ハ期間ノ定アル海員ノ雇入契約ガ期間ノ滿了ニ因リ終了スル場合ニ之ヲ準用ス

第三項ノ規定ハ第二十四條及前條第一項ノ規定ニ依リ海員ノ雇入契約ガ終了スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 前條第一項乃至第四項ノ規定ニ依リ海員ノ雇入契約ガ適當ナル海員ヲ補充シ得ル港以外ノ港ニ於テ終了スルトキハ船長ハ船舶ガ適當ナル海員ヲ補充シ得ル港ニ到著シ積荷ノ陸揚及旅客ノ上陸ガ終ル時迄雇入契約ヲ存續セシムルコトヲ得

第二十八條 相續其ノ他ノ包括承繼ノ場合ヲ除クノ外船舶所有者ノ變更アリタルトキハ海員ノ雇入契約ハ終了ス

前項ノ場合ニ於テハ雇入契約終了ノ時ヨリ海員ト新所有者トノ間ニ從前ノ雇入契約ト同一條件ノ雇入契約存スルモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ海員ハ第二十六條第一項乃至第三項ノ規定ニ從ヒ雇入契約ヲ終了セシムルコトヲ得

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ雇入契約終了ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 船舶所有者ハ海員ガ疾病ニ罹リ若ハ傷痍ヲ受ケタルトキ、雇入契約終了シタルトキ又ハ死亡シタルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ扶助シ、之ニ手當ヲ支給シ又ハ之ガ葬祭ノ費用ヲ負擔スルコトヲ要ス

第三十條 船舶所有者ハ雇入契約終了シタル海員ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ雇入港又ハ其ノ希望スル地迄送還スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ海員ハ送還ニ代ヘテ其ノ費用ヲ請求スルコトヲ得

第三十一條 海員ハ船長ニ對シ其ノ勤務ノ成績ニ關スル證明書ヲ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十二條 海員ノ船舶所有者ニ對スル債權ハ二年ヲ經過シタルトキハ時効ニ

因リテ消滅ス船舶所有者ニ對スル葬祭ニ關スル債權亦同ジ

第三十三條 第二十九條ノ規定ニ依リ海員ガ扶助又ハ手當ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ葬祭ノ費用ヲ受クルノ權利亦同ジ

第四章 紀律

第三十四條 海員ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ船長ハ之ヲ懲戒スルコトヲ得

一 上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ

二 職務ヲ怠リ又ハ他ノ乘組員ノ職務ヲ妨ゲタルトキ

三 船長ノ指定スル時迄ニ船舶ニ乗込マズ又ハ船長ノ許可ヲ得ズシテ之ヲ去リタルトキ

四 船長ノ許可ヲ得ズシテ點火若ハ焚火シ又ハ端艇其ノ他ノ重要ナル屬具ヲ使用シタルトキ

五 食料又ハ淡水ヲ濫費シタルトキ

六 喧嘩シタルトキ、酩酊シテ事理ヲ辨ゼザルトキ又ハ禁止セラレタル場所ニ於テ喫煙シタルトキ

七 其ノ他船内ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ

第三十五條 懲戒ハ左ノ四種トシ勅令ノ定ムル所ニ依リ船長之ヲ行フ

一 監禁 三日以下トシ船内ノ一室ニ拘留ス

二 上陸禁止 七日以下トシ此ノ期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノミヲ算入ス

三 減給 給料月額十分ノ一以下ヲ減ズ但シ三月ヲ超ユルコトヲ得ズ

四 譴責

前項第一號及第二號ノ期間ニハ初日ヲ算入ス

第三十六條 海員ガ兇器、爆發若ハ發火シ易キ物、劇藥其ノ他ノ危險物又ハ酒

類ヲ所持スルトキハ船長ハ其ノ物ヲ保護管又ハ放棄スルコトヲ得

第三十七條 海員ガ船内ニ在ル者ノ生命若ハ身體又ハ船舶ニ危害ヲ及ボスベキ行爲ヲ爲サントスルトキハ船長ハ必要ノ期間其ノ者ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

第三十八條 船長ハ必要アルトキハ旅客其ノ他船内ニ在ル者ニ對シテモ前二條ニ規定スル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 海員ガ雇入契約成立ノ公認アリタル後船長ノ指定スル時迄ニ船舶ニ乗込マズ又ハ船長ノ許可ヲ得ズシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ之ヲ強制シテ船舶ニ乗込マシムルコトヲ得

海員ガ雇入契約終了ノ公認アリタル後遲滞ナク船舶ヲ去ラザルトキハ船長ハ之ヲ強制シテ船舶ヲ去ラシムルコトヲ得

第四十條 船長ハ其ノ命令ニ服從セザル者アル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ管海官廳、地方官廳又ハ海軍艦船ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第五章 雜則

第四十一條 管海官廳ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ依リ第三章ニ規定スル事項ニ關シ船舶所有者、船長及海員ノ間ニ生ジタル事件ノ解決ニ付斡旋ヲ爲スコトヲ得

第四十二條 管海官廳ハ必要アリト認ムルトキハ船舶所有者又ハ乗組員ヲシテ書類帳簿ヲ提出セシメ若ハ報告ヲ爲サシメ、之ヲ呼出シテ質問ヲ爲シ又ハ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證票ヲ携帯スベシ

管海官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スル事實アリト認ムルトキハ船舶所有者又ハ船長ニ對シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

管海官廳ハ必要アリト認ムルトキハ旅客其ノ他船内ニ在ル者ニ就キ質問ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 本法及本法ニ基キテ發スル命令中船舶所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ在リテハ船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテハ船舶借入人ニ之ヲ適用ス

第四十四條 本法ニ依リ管海官廳ノ行フベキ事務ハ外國ニ在リテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國ノ領事官又ハ貿易事務官之ヲ行フ

第四十五條 本法ニ依リ管海官廳ノ行フベキ事務ニ付テハ主務大臣ハ市町村長、町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズル者ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十六條 左ニ掲グル船舶ノ乘組員ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

一 國又ハ北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ノ所有ニ屬スル船舶

二 其ノ他勅令ヲ以テ定ムル船舶

第四十七條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第一條第二項各號ニ掲グル者ニ之ヲ準用ス

第四十八條 地方長官ハ第一條第一項各號ニ掲グル船舶ノ乘組員ノ監督ニ關シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ設クルコトヲ得

第六章 罰則

第四十九條 船舶所有者又ハ船長ガ第四條ノ規定ニ違反シ十五歳未満ノ者ヲ船員トシテ、十八歳未満ノ者ヲ石炭夫若ハ火夫トシテ之ヲ使用シタルトキ又ハ

第五條ノ規定ニ違反シ健康證明書ヲ有セザル者ヲ船員トシテ使用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ規定ニ違反シ健康證明書ヲ有セザル者ヲ船員トシテ使用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ規定ニ違反シ健康證明書ヲ有セザル者ヲ船員トシテ使用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ規定ニ違反シ健康證明書ヲ有セザル者ヲ船員トシテ使用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ規定ニ違反シ健康證明書ヲ有セザル者ヲ船員トシテ使用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ規定ニ違反シ健康證明書ヲ有セザル者ヲ船員トシテ使用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ規定ニ違反シ健康證明書ヲ有セザル者ヲ船員トシテ使用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ規定ニ違反シ健康證明書ヲ有セザル者ヲ船員トシテ使用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ規定ニ違反シ健康證明書ヲ有セザル者ヲ船員トシテ使用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ規定ニ違反シ健康證明書ヲ有セザル者ヲ船員トシテ使用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ規定ニ違反シ健康證明書ヲ有セザル者ヲ船員トシテ使用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ規定ニ違反シ健康證明書ヲ有セザル者ヲ船員トシテ使用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ規定ニ違反シ健康證明書ヲ有セザル者ヲ船員トシテ使用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ規定ニ違反シ健康證明書ヲ有セザル者ヲ船員トシテ使用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ規定ニ違反シ健康證明書ヲ有セザル者ヲ船員トシテ使用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽其ノ他ノ不正行為ヲ以テ船員手帳ノ交付、訂正又ハ書換ヲ受ケタル者

二 詐偽其ノ他ノ不正行為ヲ以テ海員ノ雇入契約ニ關スル公認ヲ受ケタル者

三 他人ノ船員手帳ヲ行使シタル者

第五十一條 船長ガ船内ニ在ル者ニ對シ其ノ職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條 船長ガ第九條ノ規定ニ違反シ船舶ヲ去リタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第五十三條 船長ガ第十條ノ規定ニ違反シ人命及船舶ノ救助ニ必要ナル手段ヲ盡サザルトキハ三年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 船長ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十一條ノ規定ニ違反シ人命ノ救助ニ必要ナル手段ヲ盡サザルトキ

二 正當ノ事由ナクシテ船舶ヲ遺棄シタルトキ

三 正當ノ事由ナクシテ外國ニ於テ海員ヲ遺棄シタルトキ

第五十五條 船長ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第八條ノ規定ニ違反シ自ラ船舶ヲ指揮セザルトキ

二 第十條ノ規定ニ違反シ告知ヲ爲サザルトキ

三 第十四條第一項ノ規定ニ違反シ送還命令ヲ拒ミタルトキ

第四十五條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

第五十八條ノ規定ニ違反シ公認ヲ受ケザルトキ

六 商法第五百六十一條ノ規定ニ違反シ検査ヲ爲サザルトキ

七 商法第五百六十二條第一項ノ規定ニ違反シ書類ヲ備置カズ又ハ同條同項第二號乃至第五號ニ掲グル書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキ

八 商法第五百六十三條ノ規定ニ違反シ船舶ヲ去リタルトキ

九 商法第五百六十四條ノ規定ニ違反シ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

第五十六條 船長ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ水葬ニ付シタルトキ

二 第十三條ノ規定ニ違反シ遺留品ノ保管ヲ爲サザルトキ

第五十七條 海員ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ二年以下ノ懲役ニ處ス

一 船舶ニ急迫ノ危險アル場合ニ於テ船長ノ許可ヲ得ズシテ之ヲ去リタルトキ

二 第九條乃至第十一條ノ規定スル場合ニ於テ船長ガ人命、船舶又ハ積荷ノ救助ニ必要ナル手段ヲ爲スニ當リ上長ノ命令ニ服從セザルトキ

三 第二十三條第三項ノ規定スル場合ニ於テ人命、船舶又ハ積荷ノ應急救助ノ爲ニ必要ナル勞務ニ服セザルトキ

第五十八條 海員ガ上長ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條 海員ガ脱船シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ船員ガ勞働爭議ニ關シ團結シテ勞務ヲ中止シ又ハ作業ノ進行ヲ阻害シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 船舶ガ外國ノ港ニ在ルトキ

二 人命又ハ船舶ニ直接ノ危險ヲ及ボス虞アルトキ

三 船員又ハ其ノ代表者ガ相手方ニ對シ爭議事項ニ關シ交渉ヲ開始シタル後一週間ヲ經過シ且二十四時間前ニ豫告ヲ爲シタルニ非ザルトキ

第六十一條 船舶所有者ガ第二十條乃至第二十二條、第二十九條又ハ第三十條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 船舶所有者又ハ乗組員ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 管海官廳ノ命令ニ違反シ書類帳簿ノ提出ヲ爲サズ又ハ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

二 管海官廳ノ呼出ニ應ゼズ又ハ管海官廳若ハ當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキ

三 當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルトキ

第四十二條第二項ノ規定スル管海官廳ノ處分ニ違反シタルトキ

第六十三條 本章中船長ニ適用スベキ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者アル場合ニ於テハ其ノ者ニ之ヲ適用ス

第六十四條 船舶所有者ハ其ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者ニ第二十條乃至第二十二條、第二十九條又ハ第三十條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ違反スル所

爲アリタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第六十五條 船舶所有者ガ未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ在リテハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ其ノ者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ニ依リ法人ノ代表スル者ニ之ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第六十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令中船舶所有者ニ適用スベキ罰則ハ國又ハ北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ニハ之ヲ適用セズ

附則

第六十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十八條 船員最低年齢法ハ之ヲ廢止ス

船舶安全法第二十八條中「遭難者救助」ヲ削ル

商法第五百七十五條及第五編第二章第二節ハ之ヲ削除ス但シ商法其ノ他ノ法令ノ規定ノ適用上ニ之ニ依ルベキ場合ニ於テハ仍其ノ效力ヲ有ス

第六十九條 本法施行前ニ生ジタル事項ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ刑法第六條ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第七十條 本法施行ノ際現ニ船員トシテ使用セラルル十四歳以上十五歳未満ノ者ヲ本法施行後引續キ使用スル場合ニ於テハ第四條ノ規定ヲ適用セズ

第七十一條 第一條第一項各號ニ掲グル船舶ノ乗組員ノ監督ニ關シ地方長官ノ設ケタル規則ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リテ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

國務大臣(伯爵兒玉秀雄君登壇)

○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君登壇) 只今上程セラレマシタ船員法改正法律案ノ理由ノ御説明申上ゲマス、近時我國海運ハ長足ノ進歩發達ヲ遂ゲマシテ、社會情勢モ亦著シイ變遷推移ヲ見ツ、アルニモ拘リマセズ、現在船員ノ保護監督ヲ規律致シマスル船員法及ビ海商法ハ、何レモ制定以來三十有餘年ノ歲月ヲ經過致シマシテ、現下ノ實情ニ副ハザル點ガ紛クナイノデアリマス、隨ヒマシテ船員法改正ノ要望ハ漸ク熾トナツタノデアリマス、此情勢ニ鑑ミマシテ、逡信省ニ於キマシテハ、先年臨時海商法令調査會ヲ設ケマシテ、船主及ビ船員ノ團體ノ代表者ヲ初メトシ、關係各方面ノ官民相會シマシテ、法律改正ノ審議ヲ行ヒ、其結果改正要綱ニ關スル決議ヲ得マシタノデ、今回此決議ヲ骨子ト致シマシテ、現行船員法及ビ海商法中海員ニ關スル規定、竝ニ船員最低年齡ヲ整理統一一致シマシテ、之ニ適當ナル改正ヲ加ヘ、他面海運ノ國際的性質ヲ考慮致シマシテ

(議長退席、副議長著席)

曩ニ國際勞働總會ニ於テ採用セラレマシタル四箇ノ條約案、即チ船舶ノ滅失又ハ沈没ノ場合ニ於キマスル失業ノ補償ニ關スル條約案、海員ノ雇入契約ニ關スル條約案、海員ノ送還ニ關スル條約案、及ビ船員ノ最低年齡ニ關スル條約案ノ趣旨ヲ採入レマシテ、是等ヲ綜合致シマシタル單一ノ船員法ヲ制定致シ、時代ノ要求ニ應ジテ海上勞働問題ヲ整理シマスルト同時ニ、船員ノ生活ノ安定ヲ圖リ、以テ海運界ノ平和ト、其健全ナル發展トヲ圖リ度イト存ジマス、是レ本案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、尙幸御審議ノ上、御協賛アラシコトヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(岡田忠彦君) 質疑ノ通告ガアリ

マス、順次之ヲ許シマス——松田竹千代君

(松田竹千代君登壇)

○松田竹千代君 私人船員法ニ付テ簡單ニ二三ノ點ヲ御伺致シマス、先ヅ此種社會立法ニ對スル政府ノ態度ニ付テ私ハ一言致シタイト思フノデアリマス、由來我國ノ社會立法ハ其法ノ對象トスル側ノ熾烈ナル要求ニ基イテ立案サレタト云フヨリハ、政府ノ「イニシヤチーブ」、政府ノ發案ニ基イテ立案サレタモノガ多イ、言換ヘルト、遮二無二勞働者ノ團結ノ力ニ依ツテ挾取ツタト云フヤウナ形デナシニ、政府ノ方カラ進ンデ立案シテ來タヤウナモノガ多イノデアリマシテ、縱シソレハ國際勞働會議アタリノ刺戟ニ依ルモノデアルト致シマシテモ、是ハ我國ノ特長トシテ、寧ロ多トスルニ足ルコトト私ハ考ヘルノデアリマス、併ナガラ其社會立法タルヤ極メテ微温的ナモノデアリマシテ(ヒヤ〜)洵ニ其社會立法タルノ名ヲ恥カシムル體ノモノガ多イ感ジガ致スノデアリマス、然ルニ近年相踵イデ發生致シマシタル未曾有ノ不祥事件ノ其動機ニモ、其一部ニハ極メテ純真ナル氣持カラ、社會正義ニ立脚シテ、非常ニ強イ要求ノアツタト云フ事實ハ、是ハ見通スコトハ私ハ出來ヌト思フノデアル、然ルニ我國デハ遺憾ナガラ言論ノ自由ト云フコトハ十分デアル、隨テ是等ノ要求ト云フモノハ、往々ニシテ陰慘ナ形ヲ執ツテ來ルト云フコトニ對シテハ、是ハ爲政者タル者ノ大ニ注意ヲ要スル所デアルト思フノデアル、然ルニ我國ノ政府ノ爲スル所見マシテ云フト、所謂喉元過ギレバ熱サヲ忘レテシマツテ、全ク晏如タルノ觀ノアリマスルコトハ、實ニ遺憾ニ堪ヘナイノデアリマス、現政府モ繰返シテ言ヘル、如クニ、急激ナル社會改革ト云フモノハ出來ルモノデハナイ、果シテ然ラバ、社會立法ト云フモノニ對シテ、モット眞劍ニ本腰ヲ入レテ掛ラナケレバナラスト思フノデアリマスルガ、内務

大臣ハ居リマセヌガ、政府ハ此點ニ對シテドウ考ヘテ居ルノデアリマスカ

ル規定ヲ設ケルトカ、或ハ給料ノ支拂方法ヲ定メルトカ、或ハ船員ノ最低年齡ヲ十四歳カラ十五歳マデ引上ゲルトカ云フヤウナ、洵ニ細カイ改正デアリマスルノミナラズ、大體是等ノ事柄ト云フモノハ、現在既ニ行ハレテ居ル所ノ事柄デアリマス、又勞働會議ニ關シテ取締規定ヲ設ケテ、爭議ニ對シテ一定ノ軌道ヲ與ヘルト云フコトモゴザイマスケレドモ、是ハ寧ロ船員側ニ取ツテハ、非常ナ不利ナ結果ニ陥ルノデハナイカトサヘ、考ヘラレルヤウナ事モアルノデアリマス、要スルニ本案ハ現在ノ社會情勢及ビ我國海運界ノ實情ニ照シテ之ヲ見マスル時ニ、未ダ社會立法的精神ガ横溢シテ居ル所ノ案ナリト考ヘラレヌノデアリマス、ノミナラズ茲ニ吾々ノ最モ遺憾ト致シマスルコトハ、政府ハ此改正案ヲ提出スルニ當ツテ、長イ間船員ノ間ニ於テ非常ナ熱誠ヲ以テ政府當局ニ陳情シ、要望シ來ツ所ノモノ、ソレハ即チ船員ニ對スル所ノ極メテ不合理ナル刑罰問題、此刑罰問題ノ解決ニ向ツテ、一大英斷ヲ示シ得ナカッタト云フ點ニアルノデアリマス、即チ海難ニ基ク船員ノ業務上ノ過失ニ關シ、刑法上ノ規定ニ對シテ除外例ヲ設ケテ、心理上ノ負擔過重ニ惱ム所ノ船員ヲシテ、安ンジテ其職務ニ從事スルコトガ出來ルヤウニ、本案ニ明確ナル規定ヲ設ケ得ナカッタト云フコトハ、何トシテモ其認識ニ於テ、政府當局ハ時代錯誤ノ甚シイモノデアルト謂ハネバナラスト思フノデアリマス、何トナレバ、明治三十二年ニ現行法ガ制定セラレマシテカラ、明治四十一年刑法改正ニ至ルマデ約十年間、現行船員法ノ第七十三條ニ依リマシテ、即チ船員カ著シク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆没シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處スルトアル此規定ニ基イテ、重大ナル船員ノ過失ニ對シテノミ處罰サレテ

尤モ此案ハ嘗テ人情大臣ノ聞エ高カッタ小泉遞相時代ニ、臨時海商法令調査會ヲ設ケテ、各方面ノ權威者ヲ網羅シテ研究調査シ得タル綱領ヲ基礎トシテ出來タモノデアヤウニ、國際勞働會議ニ於テ、十數年前カラ我國ガ贊成シテ採擇サレテ來テ居ル所ノ條約案ノ要綱ヲ取入レテ居ルノデアル、サウ云フヤウナ點カラ考ヘマスルナラバ、本案ハ棚晒シノモノデアルケレドモ、現行法ニ比ベテ見ルナラバ、相當進歩的ナ點モアルノデアリマシテ、先ヅ吾々ハ此點ニ好意ヲ寄セルコトハ出來ルノデアル、併シソレハ單ニ細カイ點デアル、例ヘバ船員ニ對スル食料ノ標準ヲ設ケルトカ、或ハ醫療ニ關ス

ル規定ヲ設ケルトカ、或ハ給料ノ支拂方法ヲ定メルトカ、或ハ船員ノ最低年齡ヲ十四歳カラ十五歳マデ引上ゲルトカ云フヤウナ、洵ニ細カイ改正デアリマスルノミナラズ、大體是等ノ事柄ト云フモノハ、現在既ニ行ハレテ居ル所ノ事柄デアリマス、又勞働會議ニ關シテ取締規定ヲ設ケテ、爭議ニ對シテ一定ノ軌道ヲ與ヘルト云フコトモゴザイマスケレドモ、是ハ寧ロ船員側ニ取ツテハ、非常ナ不利ナ結果ニ陥ルノデハナイカトサヘ、考ヘラレルヤウナ事モアルノデアリマス、要スルニ本案ハ現在ノ社會情勢及ビ我國海運界ノ實情ニ照シテ之ヲ見マスル時ニ、未ダ社會立法的精神ガ横溢シテ居ル所ノ案ナリト考ヘラレヌノデアリマス、ノミナラズ茲ニ吾々ノ最モ遺憾ト致シマスルコトハ、政府ハ此改正案ヲ提出スルニ當ツテ、長イ間船員ノ間ニ於テ非常ナ熱誠ヲ以テ政府當局ニ陳情シ、要望シ來ツ所ノモノ、ソレハ即チ船員ニ對スル所ノ極メテ不合理ナル刑罰問題、此刑罰問題ノ解決ニ向ツテ、一大英斷ヲ示シ得ナカッタト云フ點ニアルノデアリマス、即チ海難ニ基ク船員ノ業務上ノ過失ニ關シ、刑法上ノ規定ニ對シテ除外例ヲ設ケテ、心理上ノ負擔過重ニ惱ム所ノ船員ヲシテ、安ンジテ其職務ニ從事スルコトガ出來ルヤウニ、本案ニ明確ナル規定ヲ設ケ得ナカッタト云フコトハ、何トシテモ其認識ニ於テ、政府當局ハ時代錯誤ノ甚シイモノデアルト謂ハネバナラスト思フノデアリマス、何トナレバ、明治三十二年ニ現行法ガ制定セラレマシテカラ、明治四十一年刑法改正ニ至ルマデ約十年間、現行船員法ノ第七十三條ニ依リマシテ、即チ船員カ著シク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆没シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處スルトアル此規定ニ基イテ、重大ナル船員ノ過失ニ對シテノミ處罰サレテ

來夕、然ルニ改正以來ハ輕微ナル過失ニ對シテモ、此刑法ノ規定ヲ受ケテ處罰サレシヤウニナツテ來夕ノデアリマス、其結果ト致シマシテ、船員ノ多クハ大體其海難ノ原因ガ明白デナイ、明白デナイ所ノ海難事故ニ對シテ、直チニ海員懲戒法ニ依ツテ、海事審判所行政上ノ處分ヲ受ケル、免狀ノ行使ノ停止ヲ受ケル、失業シテ其上ニ更ニ刑法訴追ヲ加ヘラレテ囹圄ノ辱メヲ受ケル、場合ニ依ツテハ其上ニ多額ノ損害賠償ヲ取ラレルト云フヤウナ、謂ハハ二重、三重、四重ノ苦シミヲ受ケルト云フノデアリマシテ、是デハ餘リニモ不合理デハナイカ、餘リニモ刑罰ガ過重デハナイカト云フノデアリマス、政府ハ何ガ故ニ此船員多年ノ要望ニ對シテ、少シモ耳ヲ傾ケラレナイノデアリマスカ、聞ク所ニ依リマスレバ、遞信當局ハ其主張ハ時代ニ即シタモノデアルト致シマシテ、大イニ其實現ニ努力サレタト云フコトデアルケレドモ、獨リ司法當局ハ一般ノ交通取締法規ト矛盾スルト云フコトデアリ、要スルニ司法當局ハ、海上事故ノ發生、其原因、及び其船員ノ實情ト云フモノニ對シテ、正シイ認識ト理解ヲ持チ得ナイ結果デアルト斷ゼザラ得ナイノデアリマス(拍手)

船員ハ決シテ船員ニ對スル過失罪ノ規定ヲ悉ク回避セントスルモノデハナイノデアリマス、唯海難ニ對シテ船員ノ過失ノ有ルカ無イカト云フコトヲ決定スルト云フコトハ實ニ至難ナコトデアリマシテ、動モスレバ、不可抗力ノ場合、又ハ他人ノ行爲ニ對シテ過失ノ認定ヲ受ケテ、全ク冤罪ヲ被ル危險ガ極メテ多イノデアリマシテ、船員ニ對スル特別法タル所ノ船員法ニ現在存スル所ノ規定、即チ七十三條ノ刑法ニ優先的ニ適用致シマシテ、明白ナル所ノ重過失ニ對シテノ刑罰ヲ科セラレタラ宜イデハナイ

カ、斯様ニ主張スルノデアリマス、由來海難ハ水路狀況、濃霧、暴風、潮流、暗礁、航路標識ノ不備、其他未知未測ノ障碍等極メテ多イノデアアル、不可抗力ノ原因ニ基クモノガ甚ダ多イノデアリマス、殊ニ最近ノ海上ノ情勢ト云フモノハ、益々困難ナル實情ヲ呈シテ來テ居ルノデアリマシテ、例ヘバ一例ヲ舉ゲマスルナラバ、瀬戸内海ト云フヤウナ方面、ア、シタ海上ヲ航行スル時ニ、彼ノ石炭ヲ運ブ船、運炭曳船ト云フモノガ五艘、六艘、八艘ト云フヤウニ、或ル場合ニハ其長サ三千米ニ及ブト云フノデアリ、サウ云フ長イモノガ蜿蜒長蛇ノ如ク、而モソレハ潮流ニ沿ウテ「エス」字型ニ進行デ行クノデアアル、ソレバカリデハナイ、尙ホサウ云フ時ニ最近出來テ來夕所ノ「スピード」ノ速イ、所謂海上ト「トラック」ト云フモノガ横行シテ居ルノデアアル、サウ云フ事情ノ下ニ於テ縱シ事故ガ起ツト致シマシテモ、ソレヲ直チニ舵ヲ持ツ船員ノ過失ト云フコトニ歸スルト云フコトハ、餘リニモ無理デアアル、餘リニモ妥當ヲ缺クモノデアルト云フコトハ誰ニモ分ル、獨リ司法當局ガソレヲ承知シナイ、陸ニ生レ陸ニ育チ、朝カラ晩マデ法律ノ條文バカリヲ金科玉條ト考ヘテ居ルヤウナ人達デモ、試ミニ咫尺ヲ辨ジナイヤウナ濃霧ノ中ヲ運航シテ來テ、港灣ニ差掛ツタ時ニ、斯ウ云フ人ヲアノ「ブリッジ」ノ上ニ立タシメテ、サウシテ唯アノ汽笛ト「ベル」ト自分ノ勘デ重大任務ヲ果シテ行カケレバナラヌ船長ノ立場ヲ考ヘタラ果シテドウデアアル、ソレバカリデハナイ、試ミニ「コンパス」一ツヲ頼リシテ暴風怒濤ノ眞只中ヲ航進スル眞暗ノ暗夜ノ船ヲ考ヘテ見タラドウダ、海洋ノ神祕ト自然ノ猛威ト闘フ船員ト云フモノハ、常ニ全力ヲ盡シテ其業務ニ當ツテ居ルノデアアル、ソレバカリデハナイ、神佛ニマデ頼ツテ其責任ヲ果サントシテ居ルノガ實情デアリマス、然

ルニ其船員ノ輕過失ニ對シテサハ、嚴罰ヲ以テ臨ムト云フ結果ハドウデアアルカト云フニ、決シテソレハ海難事故ヲ減少セシメテ居ル結果ニハナツテ居ラナイ、唯徒ラニ脅威ヲ與ヘ、精神上ノ落著ヲナクシテ、其結果未然ニ避クベキ方法モ講ズルコトガ出來ナイヤウニナリ、却テ海難ヲ發生セシメルト云フヤウナ珍現象ヲ呈スルニ至ツテ居ルノデアリマス、而シテ此刑罰過重ノ事實ハ、一方ニ於テハ有能ノ船員、練達堪能、技術優秀ナル船長、其他ノ船員ヲドシ、陸上ニ追上ゲテ行ツテ居ルト云フヤウナ狀態デアリマシテ、我國ノ海運策カラ考ヘテ見テ、洵ニ是ハ憂慮スベキ實情デアルト考ヘテ居ルノデアアル

ソレ故ニ先進海運國ニ於キヤシテハ、法律ハ縱シ存シマシテモ、海難事故ニ對シテハ刑法上ノ處罰ヲ課スルト云フコトハ殆ド見ラレナイノデアアル、海難事故ニ對シテ刑法上ノ處罰ヲ科シテ見テモ、ソレハ海難防止ニ何等ノ效果ノナイト云フコトヲ認メテ、何レノ國モ刑罰ヲ科スルト云フコトハ差控ヘテ居ル、事實上刑罰ヲ科シタ例ハ殆ドナイノデアアル、而シテ此見解ニ對シマシテハ、千九百三十三年ノ「オスロー」ノ萬國海法會議、或ハ千九百二十九年ノ國際聯盟技術會議等ニ於テモ、亦實ニ我國ノ帝國海軍ニ於テモ、此點ニ付テハ裏書ヲ致シテ居ルノデアアル、斯ノ如ク海難取締ニ對シテ、刑罰ヲ以テ船員ヲ脅威スルト云フコトハ、海上ノ安全ヲ圖ル效果ノ手段デナイト云フコトハ、今日デハ世界ノ輿論ニナツテ居リマス、又同時ニ是ガ將來ノ立法ノ指導精神トナツテ居ルノデアリマス、政府ハ此船員法改正ニ際シマシテ、現行船員法第七十三條ノ趣旨ヲ新法ニ移シテ、以テ本法ヲシテ社會立法トシテノ精彩アラシメル御決心ガアリヤ否ヤ、司法大臣ニモ御伺スル次第デアリマス

次ニ尙ホ一點ダケ御伺致シタイコトハ、政府ハ海難豫防ニ對シテ如何ナル努力ヲ拂ハレントスルノデアアルカト云フコトデアリマス、政府ハ明年年度ノ豫算ニ於テ、或ハ優秀船建造ノ補助、或ハ遠洋航海ノ補助、或ハ船舶金融、又ハ船員ノ養成ト云フヤウナコトニ對シテ、非常ニ多額ノ金額ヲ豫算ニ計上シテ來テ居ル、海運國策上洵ニ結構デアルト思ツテ、吾々ハ贊成シテ來テ居ルノデアリマス、併ナガラ海難豫防ノ方面ニ對シテ如何ナル施設ヲ御考ニナツテ居デニナルノデアリマスカ、我國海難豫防施設ト云フモノハ極メテ不完全ナモノデアリマシテ、或ル人々ニ言ハシムルト、支那ノ狀態ヨリモマダ惡イト言ハレテ居ル、海運國ヲ誇ル帝國トシテ、洵ニ恥カシイ程度ノモノデアルト言ハレテ居ルノデアアル、政府ハ苟モ船員ノ保護監督ノ規定ヲ設ケルト云フ時ニ當ツテ、此海難ヲ豫防スルト云フ見地カラ、此角度カラ十分ニ御考ニナラナケレバナラヌト思フノデアリマスガ、遞信當局ハドウ云フ御考ヲ持ツテ居ルノデアアルカト云フコトヲ御伺致シマス

(國務大臣鹽野季彦君登壇)  
○國務大臣(鹽野季彦) 松田君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、船舶ノ操縦ハ洵ニ困難ナルモノデアアルコトハ御説ノ通りト考ヘテ居リマス、併ナガラ船舶操縦者ノ過失ニ付キマシテ、刑事責任ヲ輕減致シマスルコトハ、他ノ交通機關ノ操縦者ノ刑事責任、即チ鐵道トカ、或ハ航空等ニ於キマスル操縦者ノ刑事上ノ過失責任ト、均衡上之ヲ變ヘルト云フ特殊ノ事情ガナイト存ジテ居ルノデアリマス、船舶ハ多數ノ人命、若クハ巨額ノ財貨ヲ運搬スルモノデアリマスルカラ、其當事者ノ責任ハ重大ナモノデアリマシテ、當事者ニ於キマシテ、自ラ其責任ノ大ナルヲ感ズルト同時ニ、世間一般ノ人モ船舶操縦者ノ責任ノ大ナルヲ考ヘテ居ルノ

デアリマスルカラ、其船舶操縦者ノ刑事責任ヨリ任ヲ、他ノ交通機關操縦者ノ刑事責任ヨリモ輕カラシムルト云フコトハ、國民ノ感情ニモ反スルコトデアリマシテ、刑罰法規ヲ作ル上ニ於キマシテハ、餘程考フベキコトト考ヘルノデアリマス、ノミナラズ現行ノ刑法ニ於キマスルト、船員デナイ通常ノ人ガ、輕過失デアラウト、重過失デアラウト、荷モ過失ニ依リマシテ船舶ヲ顛覆、沈没、又ハ破壞致シマシタル際ニハ、ヤハリ刑事上ノ責任ヲ負ハセテ居リマス、サル爲ニ、御説ノヤウニ現行海員法七十三條ヲ改正法ニ持ツテ參リマシテ、尙ホ輕キ過失ヲ罰セズト致シマスルコトハ、甚シキ不合理ヲ生ズルノデアリマス、船舶操縦者其モノガ責任ヲ問ハレナイデ、サウシテ普通ノ人ガ刑事責任ヲ負フト云フコトニナリマスルカラ、此點ハ非常ナ不權衡ヲ生ズルノデアリマス、左様ナ次第デアリマスルカラ、刑罰法ト致シマシテハ、刑法ノ改正トカ、若クハ他ノ交通機關ノ操縦者ノ責任ニ關スル問題ト相括メテ、サウシテ將來ニ於テ新シク立法致シマスル際ニ、海員ノ責任ニ付テモ考フベキモノト考ヘテ居ル次第デアリマス、殊ニ今回ノ海員法ニ於キマシテ、現行海員法七十三條ヲ除イテアリマスルコトハ、寧ろ海員ノ爲ニ非常ナ利益ヲ來シテ居ルノデアリマス、現行ノ海員法七十三條ノ規定ニ依リマス、重キモノハ五年ノ體刑ニマデ處セラレルノデアリマス、是ガ今回除カレタル結果ハ、普通刑法ニ依リマシテ、重キモノガ三年マデト云フコトニナルノデアリマス、詰リ刑罰ガ二年ダケ低下シタコトニナルノデアリマス、左様ナ次第デアリマス、司法當局ト致シマシテハ、御説ノヤウニ特ニ七十三條ノ重キ過失ヲ罰シテ、輕キ過失ヲ罰セズト云フ御意見ニハ、承認スルコトガ出來ナイヤウナ次第デアリマス、併ナガラ船舶ノ操縦ニ付キマシテハ、

洵ニ御説ノ通りニ風波、濃霧又ハ潮流、暗礁等、其他ノ事故ニ依リマシテ、自然ノ力ニ左右セラレ、コトモ多々アルノデゴザイマスルカラ、其事情ハ篤ト斟酌ヲ致ス必要ガアルノデゴザイマス、刑法ノ運用ヲ致シマスル際ニ當ツテハ、慎重ニ其點ヲ考慮ニ置キマシテ、起訴ニ付キマシテハ、十分ナル注意ヲ致サナケレバ相成ラヌト考ヘテ居リマス、隨テ今後ニ於キマシテハ、檢事全體ニ對シマシテ然レバ訓示スル所アリマシテ、以テ萬遺憾ナキコトヲ期シヨウト思ツテ居ル次第デアリマス

〔國務大臣伯爵兒玉秀雄君登壇〕

○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君) 松田君ノ御質問ニ御答申上ゲマス、社會立法ニ對シマスル政府ノ態度ニ付テノ御質問デアリマシタガ、社會立法ハ國民ノ各般ニ向ツテ重大ナル關係ヲ有スルモノデアリマスルカラ、其時ノ社會狀態並ニ輿論ノ趨勢ヲ深く察シマシテ、而シテ出來ルダケ知識ヲ集メテ之ヲ立法スルノ必要ヲ痛切ニ感ジテ居ル次第デアリマス、而シテ只今問題ニナツテ居リマスル船員法ハ、松田君ノ御説ニナリマシタ通りニ、前年臨時海事法令調査委員會ニ於キマシテ、船主側、船員團體、及ビ國際勞働會議ニ於キマスル條約ノ骨子ヲ取入レマシテ、此點ニ付テハ十分注意ヲシテ立法致シタルモノデアアルノデアリマス

次ニ船員ノ刑罰問題ニ付キマシテハ、只今司法大臣ヨリ述ベラレマシタ通りニ、ドウモ法ノ性質上刑法ノ改正ヲ俟タナケレバ、完全ヲ期シ難イト云フ立法上ノ事實ガゴザイマス、遞信當局ト致シマシテハ、船長ノ重大ナル責任ヲ深く尊重致シマシテ、裁判所ニ於ケル取扱ニ於キマシテモ、亦將來刑法其他ノ改正ノ機會ニ於テハ、船長ノ特別ナル地位ニ付テ十分ナル同情ヲ致シタイモノト期待シテ居ル次第デアリマス、最後ニ海難防止ノ施設ニ付キマシテハ、

現在ニ於キマシテハ船舶安全法ニ依リ、又ハ船舶職員法ニ依リマシテ、海難防止ノ方法ヲ講ジマスルト同時ニ、本年度ニ於キマシテハ、特ニ燈臺ノ増設ニ關スル經費ヲ倍加致シマシテ、海難ノ防止ニ極力努メルコトニ致シテ居ルノデアリマス、尙ホ今後ニ於キマシテモ、十分御趣旨ニ副フヤウナ風ニ努メタイト思ツテ居リマス(拍手)

○松田竹千代君 簡單デアリマスカラ此席

○副議長(岡田忠彦君) 御許シ致シマス

○松田竹千代君 遞信大臣ノ御答辯ハ大體諒承致シマシタガ、司法大臣ノ御答辯、即チ海員ハ非常ニ重大ナル生命財産ニ關係スル責任ヲ持ツテ居ルノデアアルカラ、飽マデモ嚴罰主義ヲ進マナケレバナラヌト云フヤウナ御言葉モゴザイマシタケレドモ、其點ニ對シテハ洵ニ不滿ニ感ズル者デアリマス、併ナガラ今日ハ陸上ノ一般交通ニ於キマシテモ、飛行機、自動車、其他非常ニ複雑ナル狀況ニナツテ來テ居ルノデアリマス、是等ノ海上、陸上ノ兩面ノ交通取締ニ對シテ、必要ナル刑罰法ノ改正ヲ至急ニヤラナケレバナラヌト云フコトダケハ、御認メニナツテ居ルヤウデアリマスカラ、少クとも刑法ノ改正ヲヤカマシク言ハレテ居ル今日ニ於テハ、本當ニ眞剣ニ御力ヲ御入レニナツテ、此永イ間苦シデ居ル海員ノ實情ヲ十分理解サレテ、ソレニ副フヤウナ立法ヲ速ニセラレンコトヲ望ムデ、此場合ハ満足致シテ置キマス(拍手)

○副議長(岡田忠彦君) 板谷順助君

〔板谷順助君登壇〕

○板谷順助君 私ハ本案ニ對シマシテ概括的ニ四箇條ノ點ニ付テ質問致シマシテ、遞信大臣ノ御答辯ヲ煩ハシタイノデアリマス、先ヅ第一ニ本案ノ如キ勞資協調ニ重大ナル所ノ關係ニアル法案ヲ、會期切迫、餘ス所正味五日間、此間ニ於テ貴衆兩院ニ於テ審

査スルト云フコトハ困難デアリマスルカラ、此際撤回ヲシテ、更ニ次ノ議會ニ出ス意思アリヤ否ヤ、第二ハ此法案ニ關聯致シマシテ、最モ重大ナル關係ニアリマス、我國ノ海運國策ニ對スル所ノ所見如何、第三ハ多年ノ問題トナツテ居リマス、海事行政ノ統一ニ付テ斷行スル意思アリヤ否ヤ、第四ハ海事金融ニ對スル所ノ特設機關ヲ設置スル意思アリヤ否ヤ、此四點ニ付キマシテ簡單ニ其内容ヲ説明致シマシテ、遞信大臣ノ明快ナル御答辯ヲ願ヒタイト思フノデアリマス

本案ハ只今遞信大臣ノ述ベラレマシタル通り、大體ニ於テ國際勞働會議ニ於ケル所ノ成案ヲ基礎トシテ、勞働立法トシテ出來上ツタモノデアリマス、成程海事法令調査會ニ之ヲ掛ケテ、或ハ船主又ハ船員ノ同意ヲ得タト云フ御話ガアリマスケレドモ、只今松田君ノ質問サレタ通り、船員側ニ於キマシテモ修正スベキ箇所ガ相當ニアリ、又船主ト致シマシテモ、之ヲ丸呑ミニスルコトハ出來ナイノデアリマス、併ナガラ勿論今日海上勞働問題ヲ調整致シマシテ、船員ノ生活ノ安定ヲ圖リ、以テ海運業ノ發展ヲ圖ルト云フコトニ付キマシテハ、誰シモ異存ガアル譯ハナイノデアリマス、併ナガラ此問題ヲ取扱フニ付キマシテハ、最モ慎重ノ態度ヲ要スルコトト私ハ感ズルノデアリマス、何トナレバ、歷代ノ政府ガ社會立法或ハ勞働立法ヲ立案サレルニ付キマシテ、机上ノ論ニ甚ダ失禮ナ言葉デアアルカモ知レヌケレドモ、或ハ外國カブレラ致シマシテ、果シテ我國ノ今日ニ適應スルヤ否ヤ、此點ニ付キマシテ或ハ政府ノヤリ方ガ割合ニ行過ギテハ居ラナイカ、私ハ今日勞働問題ヲ解決スルニ付キマシテハ、急激ナル所ノ勞働條件ハ寧ろ産業ヲ萎靡セシメ、又一面ニ於テ勞働者ニ於テモ失業苦ヲ嘗メナケレバナラヌト云フ、結論ニナルノデハナイカト



云フコトヲ、私ハ非常ニ心配ヲ致シテ居ルノデアリマス、例ヘバ外國ニ於キマシテハ御承知ノ通り個人單位デアル、デアルカラ自分サハ賃銀ガ高ケレバ宜イト云フヤウナヤリ方デアル、併ナガラ我國ハサウヂヤナイ、所謂家族ガ單位デアッテ、假令賃銀ハ相當ニ出シマシテモ、企業家ガ或ハ衛生ノ設備、或ハ娛樂ノ機關、有ユル機關ヲ設ケマシテ、即チ共存共榮、共ニ働キ俱ニ樂シムト云フコトガ我國ノ美風デアリ、又我國ガ今日健全ナル發達ヲシテ居ル所以デアルト、私ハ信ジテ居ル者デアリマス、最近世界ニ於ケル情勢ハ相當ニ變リツ、アリマス、現ニ最近ニ於ケル所ノ獨逸ニ於キマシテハ、「マルクス」ノ對立の階級思想ハ絕對ニ排撃ヲシテ、「ストライキ」ハ認メナイ、即チ政府資本家或ハ労働者ガ一致團結ヲ致シマシテ、協同會ナルモノヲ作ッテ、其會長ニ資本家ナル者ガナッテ、出來ルダケ勞資ガ一致協力シテ、其國ノ發展ヲ圖ルコトヲ企圖シテ居ルデアリマス、又其政策ノ方法ト致シマシテ、賃銀ハ當分上ゲサセナイ、其代リニ物價ハ抑制シテヤル、成程勞銀ガ或ル程度マデ高クナツタナラバ、隨テ一般ノ生活費ガ高クナルカラ何ニモナリハシナイ、賃銀ガ上レバ物價ガ上ル、其結果トシテ外國貿易、即チ對外ノ關係ニ於テ、外國ニ壓迫サレルノミデアルト云フコトヲ言ッテ居ルノデアリマス、今日我國ガ御承知ノ通り世界的ニ海外貿易ガ非常ニ發展シテ居ル、其原因ガ何處ニ在ルカト云フコトニ思フ及ボシマシタナラバ、此點ハ私ハ一面ノ眞理ガアルト信ズル者デアリマス（拍手）

又此法案ノ内容ヲ見マスルト、肝要ナル箇所ハ勅令ノ定ムル所トナッテ居ルノデアリマス、更ニ又現在施行サレテ居リマスル所ノ労働組合法、或ハ労働者災害扶助法、又退職積立金法、其他現行法及ビ此度改正サレマスル所ノ商法、是等ニ比較研究調査スル必要ガアルノデアリマスカラ、此短時日ニ於テ此問題ヲ解決スルト云フコトハ私ハ困難ト考ヘル、寧ロ此際逕信大臣ニ勸告ヲ致シマシテ、此次ノ議會ニ、吾々船員或ハ又船主ノミナラズ、此議員ニ對シテモ十分ニ審査スルノ餘地ヲ御與ヘニナル御考ガアルヤ否ヤ、是ハ先ツ第一ノ質問デアリマス

更ニ此問題ニ關聯ヲ致シマシテ重要ナル問題、即チ我國ノ海運國策ニ對スル根本方針如何、我國ハ現在海運業ガ非常ニ發達致シテ居リマシテ、世界ニ雄飛ヲ致シテ居リマス、即チ貿易外ノ海運收入ニ於キマシテモ、昭和九年ニ於キマシテハ二億五千万圓、又昭和十年ニ於キマシテハ三億三千万圓、更ニ昨年ニ於キマシテハ、未ダ大藏省ノ發表ハアリマセスケレドモ、恐ラクハ三億三千万圓ニ達シテ居ルト思フノデアリマス、斯ノ如ク我國ノ國際貨借ノ改善ノ上ニ於テ、非常ニ貢獻ヲ致シテ居ルト云フコトハ、諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、又更ニ我國ガ海外ニ輸出致シ、或ハ輸入ヲ致シマシマスル所ノ貿易品ノ七割ハ、本邦ノ船舶ヲ以テ之ヲ運シテ居ルト云フコトモ、既ニ諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、デアリマスカラ吾々ハ我國ノ如キ四面環海、地域ガ狭ク、資源ニ乏シイ國柄デアリマスカラ、將來海運立國ヲ以テ國ヲ立テナケレバナラヌト云フコトヲ、多年主張シテ居ルノデアリマス、所ガ幸ニシテ前廣田内閣當時ニ於ケル、時ノ頼母木遞信大臣ガ非常ナル熱意ヲ以テ、甚ダ不十分デアリマスケレドモ、大ニ時代ヲ認識ヲサレ、海運國策ニ對スル所ノ努力ヲ拂ハレタノデアリマス、即チ優秀船ノ建造助成、或ハ遠洋航海ノ助成、海軍金融ノ施設、或ハ船舶試驗所ノ擴張、又ハ海員ノ養成、是等ニ對シマシテ出來ルダケノ豫算——勿論不十分デアリマスケレドモ、時代ヲ認識ヲシテ計上サレタト云フコトニ

付キマシテハ、吾々ハ國民トシテ頼母木前大臣ニ對シテ感謝セネバナラヌノデアリマスカラ、然ルニ内閣ハ迭リ林内閣トナリ、結城財政ノ結果、此海運國策ニ對スルモノニ如何ナル斧鉞ガ加ヘラレタカ、成程項目ハ並ベテアル、項目ハ並ベテアルガ、先ツ第一ニ優秀船ノ建造ノ如キハ年限ガ繰延ヘラレ、或ハ遠洋航海ノ助成ノ如キハ十五萬圓ガ十萬圓トナリ、海軍金融ニ對シマシテハ一億圓ガ七千万圓トナッテ縮小サレタノデアアル、之ニ對シテ遞信大臣ハ何ト一體考ヘテ居ラレマスカ、申ス迄モナク今日我國ノ海外貿易ノ發展ハ、海運ニ俟タナケレバナラヌト云フコトハ當然デアリマス、又優秀船ノ建造ニ對シマシテモ、陸海軍大臣ハ非常ニ要望シテ居ル、一朝有事ノ際ニ於テ、用兵作戰上下ウシテモ缺クベカラザル所ノ優秀船デアアル、デアアルカラ一日モ早ク之ヲ建造セネバナラヌト云フ重大ナ秋ニ於テ、吾々ラシテ言ハシメルナラバ、海軍ノ豫算ニ並行シテ——軍部ノ豫算ト並行シテ、之ヲ出來ル限リ主張ナサラナケレバナラヌノデアアル、然ルニ之ニ對シテ削減ヲ加ヘテ、或ハ大臣ハ遅ク就任ヲサレタノデアリマスカラ、其事情ガ分ラヌト言ハレ、バソレ迄ノコトデアリマスケレドモ、此善後處置ニ對シ如何ナル御考ヲ持ッテオ居デニナリマスカ、殊ニ又政府ノ誤レル所ノ統制經濟ノ結果、鐵ノ飢饉ヲ來シテ、鐵材ガ暴騰シテ居ル、造船材料ノ如キハ殆ド六割以上騰ッテ居ルノデアリマス、デアアルカラ優秀船ノ補助ニ對シテ、現在ノ豫算ニ於テ如何ナル按排ヲナサル御考デアアルカ、之ヲ承リタイ

第三點ト致シマシテ、海軍行政ノ統一デアリマス、今日内地、外地ニ於テ何等變ル事情ハアリマセヌ、此問題ハ多年ノ懸案デアリマシテ、當局者ノ方ハ十分御承知ノ筈デアアル、デアアルカラ内地外地ヲ通ジタ

ル所ノ海軍ノ行政、又今日日滿不可分ノ關係ニ於テ、日滿ノ海運ノ協定、此問題ヲ解決スルニ非ザレバ、決シテ海運業ノ發達ヲ期スルコトハ出來ナイノデアリマス、船舶統制法ノ如キモノヲ設ケラレタカラト云ッテモ、此問題ヲ解決セザル限リハ、決シテ海運ノ發達ナド望ムコトハ出來ナイノデアリマス、此點ニ對シテ現在ノ遞信大臣ハ、前ニ拓務大臣トナッテ居ラレタノデ、アナタハ能ク其事情ヲ御承知ノ筈デアリマス、デアアルカラシテ——只今又御答辯ニ於テ、考慮中デアルトカ、研究中デアルト云フヤウナコトハ、モウ既ニ聞キ飽キテ居リマス、デアアルカラシテ現内閣ニ於テ之ヲ斷行スル意思アリヤ否ヤ、是ガ第三點デアリマス

第四點ト致シマシテ、今日我國ノ海軍ニ關スル所ノ金融施設デアリマス、先程御話申シマシタ通り、海軍金融ト致シマシテ、五箇年間七千万圓ノ金ヲ融通スルト云フコトニナッテ居リマスケレドモ、コンナ事ヂヤ決シテ海運ノ發達ヲ企圖スルコトハ出來マセヌ、今日世界ニ於ケル所ノ海運國ニ於テハ、皆相當ニ特別ノ施設ヲシテ居ル、デアアルカラシテ、獨リ新造船バカリデナク、或ハ從來ノ船舶ニ對シ、又運行資金ニ對シテモ融通ノ途ヲ開カケレバナラヌト云フコトヲ、私共ハ痛切ニ感じテ居ルノデアリマス、大體私ハ自分ノ所論ト致シマシテ、今日補助制度ト云フモノハ餘リ感心ヲシナイ、獨リ海運關係バカリデハアリマセヌ、有ユル方面ニ於テ補助政策ガ行ハレテ居ルノデアリマスガ、是ハ一利一害デアアル、例ヘバ日本ノ船舶ニ對シテ政府ハ或ル程度ノ補助ヲスル、必ズ相手ガアルノデアリマスカラ、相手國ハ之ニ對シテヨリ以上ノ補助ヲシタナラバ、何等效果ナドアリハシナイ、ソレヨリハ寧ロ——特殊ノ航路ハ別問題デアリマスルガ、金融ノ便ヲ圖ッテ、出來得ルダケ船舶ノ運用ヲ期スト云フコトガ、

最モ適切デアルト私ハ信ズル者デアリマス、私ハ此補助問題ニ付テ、此場合諸君ニ一例ヲ御話申上ゲタイ、私共ハ先年南洋航路ニ對シテ命令航路ヲヤツテ居ルノデアリマス、此航路ニ對スル補助金ガ、初メハ二十萬圓デアツクモノガ、段々下ツテ十六萬圓トナツク、所ガ世間ノ人々ハ補助ヲ貰フテ居ルノデアルカラ、餘程旨イコトデモシテ居ルノドウラウ、斯ウ想像サレテ居ルノデアリマス、何ゾ圖ラン、此二十年ノ間ニ於テ殆ド無配當デアツテ、吾々ハ國家ノ犠牲トナツクデアアル、然ルニ諸君モ御承知ノ通り、先年日蘭海運會商方決裂ヲスルヤ、俄ニ政府ガ郵船會社或ハ商船會社ノボロ船ヲ集メテ新會社ヲ作り、又之ヲ保護センガ爲ニ、船船統制法ナルモノヲ政府ノ權力ヲ以テ設ケタノデアリマス、斯ル姑息ノ策ヲ以テ海運界ノ發達ヲ圖ルナドトハ以テノ外デアアル、デアリマスルカラシテ、將來ニ於テ、只今申上ゲタル通り、特殊ノ航路ニ對シテハ已ムヲ得ザルコトデアアルケレドモ、出來ルダケ自由航海ト致シマシテ、一面ニ於テ金融ノ便ヲ圖リ、兩々相俟ツテ進ムト云フコトガ、最モ海運界ノ發達ニ策ノ得タルモノデアルト私ハ信ジマスルガ、遞信大臣ハ如何ナル御考ヲ持ツテ居リマスカ、以上ノ點ニ對シマシテ明快ナル御答辯ヲ求メマス(拍手)

(國務大臣伯爵兒玉秀雄君登壇)

○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君) 御答申上ゲマス、船員法ハ先ニ申上ゲマシタ通り、我國ニ於キマスル海上勞働問題ノ解決、船員ノ生活ノ安定、竝ニ海運界ノ發達ヲ來シマスル所謂社會立法デアリマス、而シテ此法案ハ既ニ委員會ニ於キマシテ、各方面ノ權威者ヲ集メテ研究ヲ致シマシタル結果、茲ニ提案スルニ至リマシタルモノデアリマスルノデ、一日モ早ク本案ノ成立ヲ見テ、而シテ海運界ノ發達ニ資シタイト考ヘテ居リマスルガ故ニ、政府ハ

之ヲ撤回スルノ意思ハ毫モ持ツテ居リマセマス、次ニ海運國策ノコトニ付キマシテ御話ガゴザイマシタガ、只今御話ノアリマシタ通りニ、此海運國策ハ前遞相賴母木君ニ依ツテ樹立セラレタル所ノモノデアリマス、其政策ヲ尊重致シマシテ、財政ノ許ス範圍ニ於キマシテ、之ヲ遂行セント試ミツ、アル所ノモノデアリマス、優秀船ノ建造ニ付キマシテ、鐵ノ値上リノ爲ニ之ニ支障ヲ生ジナイカト云フ御尋デゴザイマスガ、此點ハ大イニ考慮ヲ要シナケレバナラスコトト考ヘマスガ、造船業者ト船主トノ間ニ於キマスル協調ニ依リマシテ、成ベク便宜ノ方法ニ依ツテ、低廉ナル鐵ノ買入ヲ期待シテ居ルト同時ニ、幸ニ海運界ノ今日ノ好況ニ臨ミマシテ、此造船ニ付キマシテハ、大シタル支障ナキモノト考ヘテ居ル次第デアリマス、

次ニ海運行政ノ統制ノ問題デアリマス、此問題ハ多年ノ懸案デアリマスルノデ、速ニ之ヲ解決セント期シテ居ルデアリマスルケレドモ、今日直チニ之ヲ實行スルノ困難ナルノ事情ガアルノデアリマス、併ナガラ此一定ノ地域ニ固著シタル所ノ問題ヲ除キマシテ、共通ノ問題ニ付キマシテハ、一日モ早ク内地外地海運行政ノ統一ヲ期セント欲スル者デアリマス、最後ニ海運金融ノコトニ付テノ御話ガゴザイマシタガ、此海運金融銀行ノ設立ハ多年ノ問題デアリマス、海運ノ進展ヲ圖ラントスルノニハ、滑カナル金融機關ヲ要スルコトハ無論ノ話デアリマス、併ナガラ海運金融銀行ナルモノハ、果シテ收支相償フベキヤ否ヤト云フコトニ付テハ、經濟的ニ大ニ考慮スベキ點ガアルト思フノデアリマスルガ、假令特殊ノ銀行ヲ設立セズトモ、海運金融ニ對シテ、其圓滑ヲ期スルコトノ必要ナルコトハ無論ノ話デアリマス、御説ノ通りニ補助ハ決シテ其目的ヲ十分達スル所ノ方法デハナイノデアリマス、須ク海運業者ソレ自身ノ自力更生ニ依リ、

其足ラザル所ヲ補ツテ、以テ海運國策ノ遂行ヲ期セバナラスト考ヘテ居リマス

○板谷順助君 簡單デアリマスカラ此席カラ御許ヲ願ヒマス

○副議長(岡田忠彦君) 許シマス

○板谷順助君 本案ヲ撤回スル御意思ガナイト云フコトデアリマスルカラ、詳細ノコトハ委員會ニ於テ質問致シマス、又海運行政ノ統一ニ付テ、困難ト云フ御話デアリマスルガ、私ハ困難ナル事情ハナイト思フノデアリマス、唯各省ノ事務官ノ權限爭ヒノ結果、未ダニ此問題ガ解決ヲサレナイノデアリマス、デアアルカラ大臣ハ思フ此處ニ及ボサレテ、所謂政治的ノ解決トデモ申シマスルカ、此場合此問題ヲ解決スルニアラザレバ、先程申上ゲマシタヤウニ、如何ニ船船統制法ヲ御設ケニナツタカラト云ウテモ、效果ハ海運界ノデアリマス、此點ハ十分ニ一ツ御考慮ヲ重ネテ願フテ置キマス、此程度デ質問ヲ打切りマス

○副議長(岡田忠彦君) 平川松太郎君

○平川松太郎君 私人質問ハ頗ル多岐ニ互ツテ居リマスルカラ、議事ノ進行上委員會ニ讓リマス、仍テ本會議ニ於ケル質問ノ通告ヲ取消シマス(拍手)

○副議長(岡田忠彦君) 岡崎憲君

(岡崎憲君登壇)

○岡崎憲君 本議案ハ吾々海員ガ多年要望シテ來マシタ所ノモノデアリマシテ、昭和七年、遞信大臣ガ述ベラレマシタ通り、臨時海運法令調査會ト云フモノヲ設ケラレマシテ、勞働側ノ代表或ハ資本側ノ代表ヲ加ヘラレテ審議ヲ遂ゲラレ、今日茲ニ上程サレタノデアリマス、私ハ寧ろ遞信當局ニ對シマシテ、其勞ヲ多トスル者デアリマス、ガ併シ吾々海員カラ見マスルナラバ、幾多不滿ノ點ガアルノデアリマス、殊ニ前ノ松田議員ガ述ベラレマシタ所ノ、船長ニ對スル刑罰デアリマス、此點ヲ私ハ他ノ角度カ

ラ申上ゲテ見タイト思フノデアリマス、御承知ノ通り、我が海運ハ海軍ト共ニ車ノ兩輪ノ如クニ發達シテ來タモノデアリマス、サウデアリマスルカラ、船長船員ヲ養成スル爲ニハ、莫大ナル國家ノ費用ヲ投ジテ、練習船ヲ造リ、或ハ官立商船學校ヲ造ル、サウシテ海軍ニ於ケル海軍兵學校ト同ジヤウニ、船員ヲ養成シテ來タノデアリマス、ソレデアリマスルカラ、私ハ海軍ニ特別法ガアルト同ジヤウニ、吾々海員ニ取リマシテモ、特別法ニ依ツテ刑罰ト云フモノヲ處分シテ戴キタイ、斯ウ思フノデアリマス、是ハ從來吾々ノ船長ノ處罰ト云フモノハ、船員法ニ依ツテ處罰サレテ來タノデアリマスルガ、現行法タル新刑法ガ實施サレマシテカラ、其問題ハ刑法ニ移ツテ來タノデアリマス、デアリマスルカラ、私ハヤハリ是ハ昔ノ通り船員法ニ依ツテ吾々ノ處罰ヲ取扱フテ戴キタイ、ソレハ重過失ガケラ認メテ貫ヒタイト云フノデアリマス、是ハ輕過失ト云フモノハ、判定ニ付キマシテハ非常ニ困難ナモノデアリマス、果シテ過失デアルカ否カト云フコトハ、決定スルニ困難ナモノデアリマス、ソコデ私共ハ特別ニ、所謂特別法ニ依ツテ特別ナ取扱ヲヤツテ貫ヒタイト云フ趣意デアリマス、是ハ英國ニ於キマシテハ、ヤハリ輕過失ト云フモノハ處罰シタイト云フコトニナツテ居リマス、英國ハ海運ニ於キマシテ世界最大ノ國デアリマス、ソコデ吾々ノ元ノ船員法ト云フモノハ、英國ニ倣フテ作ツタモノデアナイカト思フノデアリマスガ、英國ニ於キマシテモ同様今日マデ特別ニ扱ハレテ居ルノデアリマス、又獨逸ニ於キマシテハ、我が新刑法ト同ジヤウナ業務上ノ過失ヲ認メテ居リマス、ケレドモ今ヨリ二十年以前ニ於キマシテ、汽船「ウメア」號ガ汽船「エレン」號ト「ビスケー」灣

所ハ「ウメア」號船長ニ對シテ一箇月ノ禁錮

フ言渡シタノデアリマス、サウスルト獨逸船員社會ハ非常ニ恐ルベキ法規ガアルト云フコトヲ初メテ知リマシテ、一大猛運動ヲ起シタノデアリマスガ、社會モ亦之ヲ支持シマシテ、是ハ優秀ナル船長ヲ海上カラ驅逐スルモノデアルト云フコトニナリマシテ、サウシテ今日ハ此輕過失ニ對シマシテハ、處罰シナイコトニナッテ來テ居ルノデアリマス、サウ云フ風ニ、私ハ何モ外國ノ眞似ヲセヨト言フノデハナイ、眞似ヲシテ呉レト云フ意味デハアリマセヌガ、併シ吾々ハ世界各國航海シテ歩クノデアリマス、外國ニ於キマシテハ處罰サレナイ所ノモノガ、日本ニ歸ッテ來テ處罰サレルト云フヤウナ状態デアリマシテハ、吾々ハ安心シテ航海ニ從事スルト云フコトハ出來ナイノデアリマス(拍手)

ソコデ私ハ如何ニ輕過失ノ判定スルニ困難ナモノデアルカ、吾々海員ノ過失ト云フモノガ、如何ニ困難ナモノデアルカト云フコトヲ、簡單デアリマスルカラ一例ヲ取ッテ申上ゲテ見タイト思ヒマス、最近新聞紙上ヲ賑ハシマシタ所ノ漁船大隆丸、是ハ七十六噸デアリマス、アレガ四十二日間漂流致シタノデアリマスガ、乗組員ハ最早死ノ一步手前デ、ヤハリ漁船大成丸ニ救助サレタノデアリマス、其時ニ此問題ハ船長ガ油ヲ不足シテ居ッタ、漁船ノ油所謂燃料ガ不足シタト云フコトヲ言ハレテ居ルノデアリマス、最近新聞ヲ見マスルト云フト、此問題ハ横須賀裁判所ニ廻サレテ、或ハ起訴サレレデアラウト云フコトヲ言ハレテ居リマスガ、併シ此問題ヲ能ク考ヘテ見マスナラバ、賢明ナル檢事ハ之ヲ不起訴ニスルデアラウト思ヒマスガ、是ハ油ガ足ラナカッタ、ソレハ足ラナカッタデアラウト思ヒマスガ、併シ油バカリデ走ルノデハナクシテ、油ガ足リナカッタ時ニハ帆ヲ以テ走ルトカ、色々方法ガアル、ノミナラス四十二日間モ保ツ

ダケノ食糧ハ持ッテ居ッタノデアリマス、サウ云フコトカラ考ヘテ見マシテモ、單ニ油ガ足ラナカッタカラト云ウテ之ヲ責メル譯ニ行カナイ、併シ檢事ガオ前ハ油ガ足ラナイデヤナイカト言ウタ時分ニ、成程足ラナイト言フデアリマセウガ、是ハ自分ハ船ヲ失ヒ、乗組員ヲ死ノ一步前マデ押詰メテ居ッタノデアリマスカラ、自分ノ責任上サウ感ズルト思フノデアリマス、若シモ之ヲ本當ノ過失デアルカ否カト云フコトヲ見ルニハ、重大ナル他ノ問題ガアルト思フノデス、サウ云フ意味合ニ於キマシテ、是ハ先程申シマシタ通り、「ラスト」或ハ帆ト云フモノガアリマシテモ、四十二日間漂流シテ居ル間ニ、幾度カ暴風雨ニ遭ッテ不能ノ状態ニナッテ居ッタノデ、サウ云フコトヲ考ヘテ行キマスルナラバ、是ハ果シテ眞ノ船長ノ過失デアルカドウカト云フコトハ疑ヒ得ルノデアリマス、況ヤ此船長ノ名前ハ泉ト云フノデ、泉船長デアリマシタガ、大成丸ニ救ハレマシタ時ニハ、船長ハ船ト運命ヲ共ニスルト云フノデ、殘ラントシタノデアリマスガ、其泉船長ノ弟ガ居リマシタノデ、他ノ乗組員ト共ニ船長モ、此大成丸ニ乗ッテ歸ルヤウニト言ウテ勸メタノデ、初メテ泉船長ハ不本意ナガラ救助サレタノデアリマス、サウ云フ状態デアリマシテ、重過失ト云フヤウナ場合ハ、船長ハモウ自ラ船ト共ニ沈没スルト云フ考ハ、獨リ泉船長バカリデナク、總テノ船長ガ持ッテ居ル、ソレデアリマスカラ、重過失ト云フモノヲ或ハ五年ノモノガ三年ニサレタ所デ、是ハ何ノ意味ヲナサナイノデアリマス、サウ云フ考デ居リマスルノデ、私共ハ此輕過失ト云フモノノ判定ガ非常ニ困難デアルカラ、ソレデ輕過失ト云フモノハ處罰シテ戴キタクナイ、斯ウ云フコトヲ主張シテ居ルノデアリマス、此點重

ネテ司法大臣ニ御同致シマス  
次ニ此問題ト關聯致シマシテ、ヤハリ水

先人或ハ船長ト云フモノハ同ジデアリマス、輕過失ニ依リマシテ一旦罪ガ決定サレマスト云フト、是ハ民事上ノ損害賠償ガ附イテ來ルノデアリマス、デアリマスルカラ、吾吾ハ日夜戦々兢兢トシテ働イテ居ルト云フ状態デアリマシテ、此損害賠償ト云フモノニ對シテモ、一ツノ限定ヲシテ貰ヒタイ、是ハ英國ニ於キマシテハ限定シテ居ルノデアリマス、サウ云フ風ニ船長ト水先人ニ對シマシテハ、損害賠償ノ限定シテ貰ヒタイ、今日ハ直接ニ船長、水先人ニ損害賠償ヲ要求シテ來ルノデアリマス、此新刑法ガ行ハレマシテ以來サウナノデアリマス、ソコデ私共ハ此水先法ニ對シテ改正シテ下サルカドウカ、又サウ云フ御意思ガアルカドウカト云フコトヲ逓信當局ニ御尋致シマス

次ニ此海員法ニ依リマシテ——船員法ニ依リマシテ保護監督サレナイ所ノ船員ハドウスルカ、所謂二十噸未満ノ船舶、平水航路ヲ航行スル所ノ船舶、或ハ三十噸未満ノ漁船ト云フモノハ、ドウ云フモノニ依ッテ保護監督サレモカ、御承知ノ通り此小サイ所ノ、所謂小型船乗組員ト云フモノハ、今日マデ何等保護監督ト云フモノハ受ケテ居ナカッタ、ソレハ丁度朝ニ海ニ出テ、夕ニハ家ニ歸ル、或ハ一夜ヲ海ニ送ッテ家ニ歸ル、サウ云フ状態デアリマス、又舢舨、運送、所謂漕業ニ從事スル所ノ舢舨ト云フモノハ、船諸共海上ニ出マシテ、サウシテタ方ニハ陸岸ニ著クト云フ者ガアルノデアリマス、サウ云フ人達ノ保護監督ト云フモノハ、今日マデ何等ナイノデアリマス、此船夫ト云フヤウナ人達ハ、丁度陸上ニ住居ラシテ居ルト同様ナモノデアリマス、然ルニ今日マデハ勞働者災害法トカ、或ハ健康保險ト云フモノノ恩典ニハ浴シテ居ナイノデアリマス、ソコデ謂ハ、此人達ハ陸上ト海上ト中間、宙ブラリシテ居ラシマシテ、數十年間、今日マデ何等保護監督ト云フモノハ

受ケテ居ナイノデアリマス、ソコデ此人達ノ爲ニハ如何ナル保護監督ヲヤルカ、又サウ云フ保護ヲスル用意ガアルカドウカト云フコトヲ逓信當局ニ御尋申上ゲマス

次ニ私ハ海員ニ對シマシテハ、養老年金制度ヲ作ッテ戴キタイト云フコトヲ主張スルノデアリマス、逓信當局ハドウ云フ考ヲ持ッテ居ルカ、或ハ其用意ガアルカドウカト云フコトヲ御伺申シマス、此海員ト云フモノハ若イ時ダケガ使用サレル、謂ハ、青年時代カラ壯年時代ニ掛ケテ勞働ヲ提供或ハ擲取サレルノデアリマス、サウ云フ關係デ、人間ハ四十年カラト云フノニ、最早海員ニ於キマシテハ四十五ニナリマスルト癡人同様ニナルノデアリマス、勞働ニ堪ヘ兼ネテ陸上ニ上ルト云フ状態ナノデアリマス、又之ヲ使用スル所ノ船主側カラ言ヒマシテモ、勞働ノ能率ガ擧ラヌト云フノデ誠ニシテ、陸上ニ上ゲテシマフノデアリマス、是程海員ト云フモノハ勞働ガ激シクテ、サウシテ機敏ヲ要スルモノデアリマス、デアリマスカラ、私ハ一般船員法トカ云フヤウナモノデナクシテ、是ニハ老後ノ保障ヲ與ヘル意味ニ於キマシテ、養老年金ヲ與ヘルト云フコトニナラナケレバイカヌ、是ハ今申上ゲマシタ通り、養老年金制度ヲ海員ノ爲ニ設ケテ戴キタイ、ソレハ海洋勞働ト云フモノハ非常ニ若イ時ダケノモノデアリマス、所謂若イ時ノ勞働デアリマスルガ、而モ數ト云フモノハ少イ、海上生活ヲ二十年或ハ三十二年勤メ上ゲルト云フ人ハ極ク少數デアリマス、ダカラ此少數ノ人ノ爲ニ海軍軍人ト同様ニ、恩給ト云フ、所謂養老年金ト云フモノノ制度ヲ作ッテ呉レト云フノデアリマス、此制度ハ彼ノ海運最大國デアアル所ノ英國ニ於キマシテ、古クカラ實施サレテ居ル所ノモノデアリマス、デアリマスカラ、政府ハ此海員ノ若イ時ノ勞働ニ報ユルト云フ意味ヲ以テマシテ、又海運國策ノ立前カラ、養

六六九

老年金制度ヲ施行シテ戴キタイ、斯ウ云フコトヲ吾々ハ主張シマシテ、逕信大臣ノ御考ハドウデアルカト云フコトヲ御聽スル次第デアリマス

以上四ツノ點ヲ以チマシテ、其他ハ委員會ニ於テ御聽シタイト思フノデアリマシテ、之ヲ以テ私ノ質疑ヲ終リマス

〔國務大臣伯爵兒玉秀雄君登壇〕

○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君) 第一ノ船員ノ刑罰問題ニ付キマシテ、先ニ司法大臣並ニ私ヨリ御答辯申上ゲマシタコトニ依リマシテ、御諒承方願ヘルコトト思フテ居リマス、次ニ小型船ノ乗組員ニ對スル保護問題ニ付キマシテハ、御承知ノ通りニ其船ノ形竝ニ其性質ノ上カラ致シマシテ、本船員法ニ於キマシテハ、小型船舶ハ除外シテアルノデアリマス、引續キマシテ政府ト致シマシテハ、小型船舶ノ乗組員ノ方ニ關シテモ、慎重ナル考慮ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、次ニ船員養老年金ノコトトゴザイマスルガ、此問題モ大切ナ問題デアリマスルガ、我國ニ於キマシテハ未ダ其制度ヲ見ルニ至ラナイノデアリマス、是モ最重要ナル一事項ト致シマシテ研究スルコトニ致シマス

〔國務大臣鹽野季彦君登壇〕  
○國務大臣(鹽野季彦君) 岡崎君ニ御答ヲ致シマス、先刻松田君ニ御答ヲ致シマシタト同様ニ、一般普通ノ人々方過失ノ輕重如何ヲ問ハズ處罰セラレテ居ルノデアリマシテ、之ヲ船員法ニ於キマシテ、海員ダケハ重キ過失ハ罰セラレテ、輕キ過失ハ罰セラレナイト云フ規定ヲ設ケマスルコトハ、洵ニ不權衡ナコトニナリマスルノデ、是ハ追テ法律改正等ノ場合ニ十分考慮シタラ宜カラウカト考ヘテ居ル次第デアリマス、尙英國法ノ御話ガゴザイマシタガ、私共ノ取調ベテ居ル所ニ依リマスルト、英國商船法ハ條文ガ澤山ゴザイマシテ、御説ノヤウニ船長ガ重過失ニ依ッテ罰セラレル場合ハ、四百十

九條二項デアリマシテ、衝突規則ノ違反ノ場合ニ限ルノデアリマス、一般的ニハ同法ノ二百二十條ニ依リマシテ、船長、海員又ハ見習員ハ故意過失又ハ泥酔ニ依リ左ノ各號ヲ爲シタル者ハ之ヲ罰スルト云フ規定ガゴザイマス、兎ニ角詳シイコトハ委員會ニ於テ御説明モ致シマスルガ法制ノ上ニ於キマシテハ、海員法ニ於テ特ニ海員ノ刑事責任ヲ輕減スルト云フコトハ、如何カト存ジテ居ル次第デアリマス、是ハ法ノ運用ノ上ニ於キマシテ、先刻申上ゲマシタヤウニ、十分ノ檢察當局ナリ、裁判當局ニ對シテ注意ヲ與ヘテ、遺憾ノナイヤウニ致シタイト存ジテ居ル次第デアリマス

〔岡崎憲君登壇〕

○岡崎憲君 是ハ私ノ考ヘマスルニハ、船ガ陸上ト違フト云フコトデアリマス、司法大臣ノ言ハレル所ニ依リマスルト、機關車或ハ自動車ト船ト云フモノヲ一緒ニ見ナケレバナラス、私ハ其反對ニ船ト云フモノハ別デアアル、謂ハハ是ハ海ト云フモノニ對スル一ツノ認識ガ足ラナイカラデアアルト私ハ思フノデアリマス(拍手)モウ少シ海ト云フモノヲ認識スルナラバ、是ハ自ラ理解シ得ルモノデアリカト思フノデアリマス、日本ノ海運ト云フモノガ今日ノ隆盛ヲ見マシタコトハ、是ハ商船教育ニ從事シテ居ル所ノ人達、或ハ海運界ニ於キマスル所ノ、有力ナル人達ノ非常ナ努力ノ結果、今日ノ基礎ヲ作り上ゲタノデアリマス、私ハ斯ウ云フ人達ニ對シマシテハ、國家モ社會的ノ地位ヲ與ヘルトカ、或ハ色々ナ方法ヲ以テ此人達ニ報イナケレバナラス、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマスルガ、是ハ獨リ斯ウ云フ人バカリデナク、吾々海員ニ於キマシテハ、何等社會的ノ地位ト云フモノモナケレバ、或ハ國家的優遇ト云フモノモナイノデアリマス、是ハ外國ニ於キマシテハ、海軍士官ト同様非常ナル待遇ヲ受ケテ居ルノデアリ

〔岡崎憲君登壇〕

マス、私共ハ單ニ海軍豫備員デアリマスルケレドモ、其待遇以外ニ何等一ツノ優遇ト云フモノハナイノデアリマス、私ハ今日マデ海運ノ爲ニ盡シテ來タ所ノ人達、或ハ商船教育ノ爲ニ盡シタル所ノ人達ニ對シマシテ、之ヲ勅選議員ニ選任スルト云フコトモ、一ツノ優遇方法デアラウト思フノデアリマス、斯ウ云フ人ニ勅選議員ノ一人モ無イト云フコトガ、如何ニ日本ノ海國デアアルト云フコトヲ、國民或ハ政府當局ガ認識シテ居ナイカト云フコトヲ、物語ッテ居ルノデアリカト思フノデアリマス(拍手)デアリマスルカラ私ハ此點ニ於キマシテ、海ノ認識ヲ深メルコトニ依ッテ、此問題ハ自ラ解決スルモノト思フノデアリマス(拍手)

〔答辯ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(岡田忠彦君) 答辯ハアリマセヌ

○中山福藏君 本案ニ對スル質疑ハ、此程度ニテ終局セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕贊成「反對」マダ時間ガアルデヤナイカ(其他發言スル者多シ)

○副議長(岡田忠彦君) 中山君ノ質疑終局ノ動議ヲ採決致シマス、中山君ノ質疑終局ノ動議ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔贊成者起立〕  
〔定足數ヲ缺イテ居ル〕「憲法違反ダ」  
其他發言スル者多シ

○副議長(岡田忠彦君) 起立多數、仍テ質疑ハ終局ニ決シマシタ(拍手)

〔異議アリ〕定足數ヲ缺イテ居ル」其他發言スル者多シ

○副議長(岡田忠彦君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮ヲ致シマス

○中山福藏君 本案ハ議長指名十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成〕贊成「異議アリ」下呼フ者アリ

○副議長(岡田忠彦君) 中山君ノ動議ニ御

異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス

〔異議アリ〕議長橫暴」其他發言スル者多シ

○副議長(岡田忠彦君) 仍テ動議ノ如ク決シマシタ—日程第二乃至第五ハ、便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第二、揮發油及アルコール混用法案、日程第三、貿易組合法案、日程第四、貿易調整法案、日程第五、工業組合法中改正法律案、右四案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス—商工大臣伍堂卓雄君

第二 揮發油及アルコール混用法案 (政府提出) 第一讀會

第三 貿易組合法案(政府提出) 第一讀會

第四 貿易調整法案(政府提出) 第一讀會

第五 工業組合法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

揮發油及アルコール混用法案

第一條 揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者其ノ工場若ハ貯油所ヨリ揮發油ヲ搬出セントスルトキ又ハ其ノ工場若ハ貯油所ニ於テ揮發油ヲ使用シ若ハ之ヲ他ノ者ニ引渡サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ揮發油ニア

ルコイルヲ混入スベシ但シ勅令ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

政府ハ前項ノ規定ニ依リ揮發油ニアルコイルヲ混入スベキ割合ヲ定メ之ヲ告示ス

示ス

第二條 揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リアルコイル混入計畫ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

政府必要アリト認ムルトキハアルコイル混入計畫ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第三條 政府ハ揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ニ對シアルコイル混入計畫ノ實施ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四條 本法ニ依リアルコイルヲ混入シタル揮發油ヨリアルコイルヲ分離スルコトヲ得ズ

第五條 揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者第一條第一項但書ノ規定ニ依リアルコイルヲ混入セズシテ揮發油ヲ搬出シ又ハ引渡サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ揮發油ニ付アルコイルヲ混入セザル揮發油ナルコトヲ識別シ得ベキ標章ヲ附スベシ

前項ノ規定ニ依リ附シタル標章ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ抹消シ、除却シ又ハ隱蔽スルコトヲ得ズ

第六條 政府ハ揮發油ノ製造、輸入若ハ移入ヲ業トスル者又ハ業務上揮發油ノ使用、販賣其ノ他ノ取扱ヲ爲ス者ニ對シ第一條第一項但書ノ規定ニ依リアルコイルヲ混入セザル揮發油ノ搬出、引渡、使用、販賣其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第七條 行政官廳取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ揮發油ノ製造、

輸入若ハ移入ヲ業トスル者又ハ業務上揮發油ノ使用、販賣其ノ他ノ取扱ヲ爲ス者ノ事務所、營業所、工場、貯油所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示シ證票ヲ携帯セシムベシ

第八條 揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者第一條ノ規定ニ違反シアルコイルヲ混入セズシテ揮發油ヲ搬出シ、使用シ又ハ引渡シタルトキハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條第一項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケザルアルコイル混入計畫ヲ實施シタルトキ

二 第二條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シアルコイル混入計畫ヲ變更セズシテ之ヲ實施シタルトキ

三 第五條第一項ノ規定ニ違反シ標章ヲ附セズシテアルコイルヲ混入セザル揮發油ヲ搬出シ又ハ引渡シタルトキ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ違反シタル者

二 第五條第二項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタル者

要ナル命令若ハ處分ニ違反シタル者

二 第七條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢査ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第十三條 揮發油ノ製造、輸入若ハ移入ヲ業トスル者又ハ業務上揮發油ノ使用、販賣其ノ他ノ取扱ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

揮發油ノ製造、輸入又ハ移入ヲ業トスル者ハ本法施行ノ日ヨリ命令ヲ以テ定ムル期間ヲ限リ第一條ノ規定ニ拘ラズ揮發油ニアルコイルヲ混入セザルコトヲ得

貿易組合法案

第一章 貿易組合

第四條 貿易組合ハ其ノ名稱中ニ其ノ種類ニ從ヒ輸出組合又ハ輸入組合ナル文字ヲ用フベシ

貿易組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ輸出組合、輸入組合又ハ貿易組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第五條 主務大臣ハ本法ニ依ル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第六條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第七條 本法ニ依リ登記スベキ事項ハ其ノ事實ノ生ジタル後二週間以内ニ之ヲ登記スベシ

登記スベキ事項ニシテ主務大臣ノ認可ヲ要スルモノハ其ノ認可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

第八條 非訟事件手續法第四百一條乃至第四百五十一條ノ六、第四百五十四條乃至第四百五十八條及第四百五十五條並ニ産業組合法第五條、第六條、第九十六條、第九十七條及第四百四條ノ規定ハ貿易組合ニ之ヲ準用ス

第九條 同一種類ノ重要輸出品ノ輸出ヲ業トスル者又ハ同一市場ヲ目的トシテ商品ノ輸出ヲ業トスル者ハ輸出組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ取扱商品ヲ異ニスル重要輸出品ノ輸出ヲ業トスル者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

第十條 同一又ハ重複スル地區ニ於テ二箇以上ノ同種ノ輸出組合ヲ設立スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事情アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 輸出組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 組合員ノ營業ニ關スル統制  
 二 組合員ノ取扱商品ノ委託輸出、輸出ノ斡旋、保管、選別、包裝、荷造  
 其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施設

三 海外市場ノ調査、新販路ノ開拓其ノ他組合員ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

組合員ノ前項ノ事業ノ外組合員ノ取扱商品ノ買取輸出、組合員ニ對シ其ノ營業ニ必要ナル資金ノ貸付、組合員ノ爲ニスル其ノ營業上ノ債務ノ保證又ハ組合員ノ貯金ノ受入ヲ併セ行フコトヲ得

第一項ニ掲グル組合員ノ施設ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限り組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第十二條 營業上ノ弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲メ又ハ貿易ノ振興上必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ輸出組合ニ對シ必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

第十三條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第十四條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十五條 輸出組合定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ營業ニ關スル統制ヲ行フ場合ニ於テハ總會ノ議決ヲ經テ之ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ其ノ規程ヲ變更セントスル場合亦同シ

第十六條 輸出組合第十一條第一項第一號ノ事業ニ關スル定款ノ規定又ハ前條ノ規程ヲ定メ又ハ變更セントスル場合ニ於テ總會ノ可決セザリシトキト雖モ貿易ノ振興上組合員ノ營業ノ統制ヲ圖ル必要アルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受

ケ總會ヲ開キ總組合員ノ三分ノ一以上ニシテ其ノ輸出高ヲ總組合員ノ輸出高ノ三分ノ二以上ヲ占ムル組合員ノ同意ヲ以テ之ガ議決ヲ爲スコトヲ得但シ第九條第一項但書ノ規定ニ依リ設立シタル組合員ニ在リテハ取扱商品毎ニ各總組合員ノ三分ノ一以上ニシテ其ノ輸出高ガ總組合員ノ輸出高ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第十七條 輸出組合第十五條ノ規程ニ基キ組合員ハ組合員ノ輸出數量、輸出價格其ノ他命令ノ定ムル事項ニ付決定ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク之ヲ主務大臣ニ届出ツベシ

第十八條 營業上ノ弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲メ又ハ貿易ノ振興上特ニ必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ輸出組合ノ組合員、其ノ組合員ノ組合員ニ非ズシテ其ノ組合員ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ其ノ組合員ノ組合員タル資格ヲ有セザル者ニシテ其ノ組合員ノ地區内ニ於テ其ノ組合員ノ組合員ノ取扱商品ト同種ノ商品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ輸出ヲ爲スモノ若ハ其ノ組合員ノ組合員ト同一市場ヲ目的トシテ商品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ輸出ヲ爲スモノニ對シ其ノ組合員ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十九條 前條ノ規定ニ依リ主務大臣輸出組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズル場合ニ於テ其ノ統制ニ從ヒ輸出スベキ商品ノ輸出ヲ爲サントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ商品ガ其ノ統制ニ從ヒテ輸出セラルルモノナルコトニ付行政官廳ノ檢閲ヲ受クベシ

第二十條 主務大臣第十八條ノ規定ニ依リ輸出組合ノ統制ニ從フベキコトヲ命ズル場合ニ於テ其ノ統制ニ從ヒ輸出

スベキ商品ノ輸出ニ關シ取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ保税地域内ニ於テ又ハ店舗、倉庫、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏ハ輸出組合ノ檢査員ヲシテ必要ナル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ當該官吏第十八條ノ規定ニ依ル命令又ハ前條ノ規定ニ違反シテ商品ノ輸出ヲ爲シ又ハ輸出ヲ爲サントシタル者アリト認ムルトキハ被疑者若ハ參考人ヲ尋問シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スベキ物件ヲ搜索シ若ハ之ガ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、尋問、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

第二十一條 同一種類ノ重要輸出品ノ輸出ノ業トスル者ヲ以テ設立セル輸出組合又ハ其ノ組合員ハ其ノ營業ニ關スル重要物產同業組合法ニ依ル同業組合ニ加入セズ又ハ之ヨリ脱退スルコトヲ得

第二十二條 輸出組合ヲ設立セントスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ノ過半數ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ但シ第九條第一項但書ノ場合ニ於テハ取扱商品毎ニ各組合員タル資格ヲ有スル者ノ過半數ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ同意ヲ得ルコト能ハザルトキト雖モ特別ノ事由アル場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ創立總會ヲ召集スルコトヲ得

第二十三條 創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス但シ第九條第一項但書ノ場合ニ於テハ取扱商品毎ニ各

設立同意者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第二十四條 設立同意者ハ創立總會ニ於テ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得

前項ノ代理人ハ設立同意者タルコトヲ要ス但シ法人タル設立同意者ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スベシ

第二十五條 輸出組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ第七號乃至第九號、第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ第六號乃至第九號及第十五號ニ掲グル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

一 目的  
 二 名稱  
 三 地區  
 四 事務所ノ所在地  
 五 組合員タル資格ニ關スル規定  
 六 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定  
 七 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法  
 八 剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定

九 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法  
 十 組合員ノ權利義務ニ關スル規定  
 十一 事業及其ノ執行ニ關スル規定  
 十二 役員ニ關スル規定  
 十三 會議ニ關スル規定  
 十四 會計ニ關スル規定  
 十五 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第二十六條 輸出組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第四十五條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第二十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有

スルコトヲ要ス

第二十八條 輸出組合ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ第七號乃至第九號、第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ第六號乃至第九號及第十五號ニ掲グル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セズ

一 目的  
 二 名稱  
 三 地區  
 四 事務所ノ所在地  
 五 組合員タル資格ニ關スル規定  
 六 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定  
 七 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法  
 八 剩餘金ノ處分及損失分擔ニ關スル規定

九 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法  
 十 組合員ノ權利義務ニ關スル規定  
 十一 事業及其ノ執行ニ關スル規定  
 十二 役員ニ關スル規定  
 十三 會議ニ關スル規定  
 十四 會計ニ關スル規定  
 十五 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第二十六條 輸出組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第四十五條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第二十七條 組合員ハ出資一口以上ヲ有

スベシ

組合員ノ有スベキ出資口數ハ五十口ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第二十八條 第十一條第一項第二號及第二項ノ事業ヲ行ハザル輸出組合ニ在リテハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノト爲スコトヲ得

第二十九條 組合員ノ責任ハ第十三條ノ規定ニ依ル費用負擔ノ外其ノ出資額ヲ限度ス

第三十條 輸出組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ其ノ出資額ノ外一定ノ金額(保證金額)ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルモノト爲スコトヲ得

第三十一條 輸出組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ但シ第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ其ノ成立後二週間以内ニ之ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ但シ第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ第三號及第四號ニ掲グル事項並ニ第二十五條第七號ニ掲グル事項、第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ第三號及第四號ニ掲グル事項並ニ第二十五條第七號及第十五號ニ掲グル事項ハ之ヲ登記スルコトヲ要セズ

一 第二十五條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ掲グル事項

二 事務所

三 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額

四 第三十條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名又ハ名稱、住所及保證金額

五 成立ノ年月日

六 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ掲グル事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 組合員ハ總組合員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ會議ノ目的タル事項及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ理事ニ提出シテ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

理事ガ正當ノ理由ナクシテ前項ノ規定ニ依リ請求アリタル後二週間以内ニ總會招集ノ手續ヲ爲サザルトキハ請求者ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ招集スルコトヲ得

第三十三條 輸出組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員又ハ組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ第二十二條第一項ノ場合ニ在リテハ設立同意者又ハ設立同意者タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ、第四十五條第一項ノ場合ニ在リテハ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員タル資格ヲ有スル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定

ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第三十四條 第十一條第一項第一號ノ事業ヲ行フ輸出組合ニシテ全國ヲ地區トスルモノ若ハ第十八條ノ規定ニ依ル命令アリタルモノ又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ノ理事ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

組合ガ前項ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テ現ニ其ノ職ニ在ル理事ハ其ノ選任ニ付前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一項ニ掲グル組合ノ理事ノ選任ニ付テハ前條第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ受クルコトヲ要セズ

第三十五條 組合員ハ總會ニ於テ各一箇ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ三ヲ超エザル範圍内ニ於テ出資口數ニ應ジ二箇以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第三十六條 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス

前項ノ代理人ハ組合員タルコトヲ要ス但シ法人タル組合員ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スベシ

第三十七條 經費ヲ組合員ニ分賦スル輸出組合ニ在リテハ其ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ總會ノ議決ヲ經ベシ但シ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ハ創立總會ニ於テ之ヲ議決スベシ

アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十八條 組合員タル資格ヲ有スル者輸出組合ニ加入セントスルトキハ組合ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得

第三十九條 組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ輸出組合ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得

組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得

第四十條 検査ヲ行フ輸出組合ニ在リテハ検査員ヲ置クベシ

検査員ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四十一條 輸出組合ハ検査員ノ服務ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第四十二條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ検査員ノ選任又ハ解任ヲ爲スコトヲ得

第四十三條 主務大臣必要アリト認ムルトキハ輸出組合ニ對シ經費ノ收支豫算、其ノ分賦收入方法、定款又ハ第十五條ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

六七三

ル所ニ依リ地區及組合員タル資格ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ輸出組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者主務大臣ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ主務大臣ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 前條第一項ノ規定ニ依リ輸出組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第四十七條 主務大臣第四十五條第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ輸出組合ノ理事及監事ヲ命ズ

前項ノ理事ハ遲滞ナク總會ヲ招集スベシ

前項ノ總會ニ於テハ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ヲ議決スベシ

第三十七條第二項ノ規定ハ前項ノ議決ニ之ヲ準用ス

第四十八條 第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ハ第十一條第一項第二號及第二項ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第四十九條 第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合成立シタルトキハ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第五十條 第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ハ其ノ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得ズ

第五十一條 第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第五十二條 設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ

申請書ニハ定款及創立總會又ハ總會ノ決議録ノ謄本、組合ノ設立アリタルコトヲ證スル書面、出資ノ總口數ヲ證スル書面、出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面並ニ理事及監事ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スベシ但シ第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニシテ主務大臣ノ處分ニ因リ成立シタルモノニ在リテハ創立總會又ハ總會ノ決議録、出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面、第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニシテ主務大臣ノ處分ニ因ラズシテ成立シタルモノ又ハ第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ在リテハ出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面ハ之ヲ添附スルコトヲ要セズ

第五十三條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事又ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ但シ合併又ハ出資一口ノ金額若ハ保證金額ノ減少ニ因ル變更ノ登記ハ理事及監事ノ全員ヨリ之ヲ爲スベシ

申請書ニハ申請人ノ資格ヲ證スル書面及登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附スベシ但シ前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル申請人ガ同一登記所ニ前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セズ

出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ登記申請書ニハ前項ノ規定スル書面ノ外本法ニ依リ催告ヲ爲シタルコト及異議ヲ述ベタル債權者アル場合ニ於テハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第五十四條 解散ノ登記ハ合併ニ因ル解散ノ場合ニ於テハ解散シタルトキノ理事及監事ノ全員、其ノ他ノ場合ニ於テハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及理事ガ清算人タラザル場合ニ於テハ申請人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スベシ

前條第三項ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

輸出組合ガ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ主務大臣ノ囑託ニ因リテ登記ヲ爲スベシ

第五十五條 清算終了ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲スベシ

第五十六條 民法第四十四條第一項、第四十五條第二項第三項、第四十八條、第五十條、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第五十九條、第六十條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條、第六十六條、第七十條及第七十三條乃至第八十三條、非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條、第三十七條ノ二、第三百三十六條乃至第三百三十八條、第三百三十八條ノ三、第三百七十五條、第三百七十六條及第三百七十八條並ニ産業組合法第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第二十四條、第二十六條乃至第三十一條ノ二、第三十三條、第三十四條ノ二第一項、第三十五條、第三十六條、第三十八條ノ二乃至第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十八條、第六十條、第六十條ノ二、第六十二條(第一項第四號ヲ除ク)、第六十三條第一項、第六十三條ノ二乃至第六十五條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條、第七十條乃至第七十三條、第七十四條第一項、第七十四條ノ二第一項、第七十七條第三項及第七十八條ノ規定(第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ付テハ産業組合法第十條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十三條、第四十四條第二項、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第五十三條乃至第五十八條、第六十二條第二項但書、第六十八條及第七十七條第三項ノ規定ヲ、第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ付テハ産業組合法第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十三條、第四十四條第二項、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第五十一條第三號乃至第五十二條第一號第三號、第六十三條ノ二、第六十四條、第六十六條、第六十七條、第六十七條、第六十八條及第七十七條第三項ノ規定ヲ除ク)ハ輸出組合ニ準用ス但シ民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ二週間トシ産業組合法中地方長官又ハ監督官廳トアルハ主務大臣トス

第三節 輸入組合

第五十七條 同一種類ノ重要輸入品ノ輸入ヲ業トスル者又ハ同一市場ヨリノ商品ノ輸入ヲ業トスル者ハ輸入組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ取扱商品ヲ異ニスル重要輸入品ノ輸入ヲ業トスル者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

前項ノ重要輸入品ハ主務大臣之ヲ指定ス

第五十八條 輸入組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

一 組合員ノ營業ニ關スル統制  
二 組合員ノ取扱商品ノ委託輸入、輸入ノ斡旋其ノ他組合員ノ營業ニ關スル共同施設

第七十八條ノ規定(第二十八條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ付テハ産業組合法第十條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十三條、第四十四條第二項、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第五十三條乃至第五十八條、第六十二條第二項但書、第六十八條及第七十七條第三項ノ規定ヲ、第四十五條ノ規定ニ依ル輸出組合ニ付テハ産業組合法第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十三條、第四十四條第二項、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第五十一條第三號乃至第五十二條第一號第三號、第六十三條ノ二、第六十四條、第六十六條、第六十七條、第六十七條、第六十八條及第七十七條第三項ノ規定ヲ除ク)ハ輸出組合ニ準用ス但シ民法第四十五條第三項及第四十八條第一項中一週間トアルハ二週間トシ産業組合法中地方長官又ハ監督官廳トアルハ主務大臣トス



三 海外市場ノ調査其ノ他組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

組合ハ前項ノ事業ノ外組合員ニ賣渡ス目的ヲ以テ爲ス其ノ取扱商品ノ輸入、組合員ニ對シ其ノ營業ニ必要ナル資金ノ貸付、組合員ノ爲ニスル其ノ營業上ノ債務ノ保證又ハ組合員ノ貯金ノ受入ヲ併セ行フコトヲ得

第一項ニ掲グル組合ノ施設ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限り組合員ニ非ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第五十九條 前條第一項第二號及第二項ノ事業ヲ行ハザル輸入組合ニ在リテハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノト爲スコトヲ得

第六十條 第六十二條ノ規定ニ依リ準用シタル第四十五條ノ規定ニ依リ輸入組合ハ第五十八條第一項第二號及第二項ノ事業ヲ行フコトヲ得ス

第六十一條 第五十八條第一項第一號ノ事業ヲ行フ輸入組合ニシテ全國ヲ地區トスルモノ若ハ第六十二條ノ規定ニ依リ準用シタル第十八條ノ規定ニ依リ命令アリタルモノ又ハ第六十二條ノ規定ニ依リ準用シタル第四十五條ノ規定ニ依リ輸入組合ノ理事ノ選任及解任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

組合ガ前項ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テハ現ニ其ノ職ニ在ル理事ハ其ノ選任ニ付前項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス  
第一項ニ掲グル組合ノ理事ノ選任ニ付テハ第六十二條ノ規定ニ依リ準用シタル第三十三條第三項ノ規定ニ依リ認可ヲ受クルコトヲ要セズ  
第六十二條 第二節ノ規定ハ輸入組合ニ之ヲ準用ス

第二章 貿易組合聯合會

第六十三條 貿易組合聯合會ハ輸出組合聯合會、輸入組合聯合會及輸出入組合聯合會ノ三種トス

第六十四條 貿易組合聯合會ハ所屬ノ貿易組合及貿易組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達成スルヲ以テ目的トス

第六十五條 貿易組合聯合會ハ法人トス

第六十六條 貿易組合聯合會ハ其ノ名稱中ニ其ノ種類ニ從ヒ輸出組合聯合會、輸入組合聯合會又ハ輸出入組合聯合會ナル文字ヲ用フベシ

貿易組合聯合會ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ輸出組合聯合會、輸入組合聯合會、輸出入組合聯合會又ハ貿易組合聯合會ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第六十七條 輸出組合聯合會ハ輸出組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス

輸入組合聯合會ハ輸入組合又ハ輸入組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス

第六十八條 貿易組合聯合會ヲ設立セントスルトキ又ハ第七十一條ノ規定ニ依リ準用シタル第四十五條ノ規定ニ依リ其ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各組合及聯合會ニ於テ選任シタル創立委員ヲ以テ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六十九條 創立委員會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ創立委員總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十四條ノ規定ハ創立委員ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ第七十一條ノ規定ニ依リ準用シタル第四十五條ノ規定ニ依リ

貿易組合聯合會ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七十條 貿易組合聯合會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ監事ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ聯合會設立當時ノ理事及監事ハ創立委員會ニ於テ之ヲ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第七十一條 貿易組合ニ關スル規定ハ第十六條及第五十六條ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第三十八條ノ二ノ規定ヲ除クノ外貿易組合聯合會ニ之ヲ準用ス但シ第十一條及第五十八條中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會及組合員トシ、第十八條中其ノ組合ノ組合員ニ非ズシテ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ其ノ組合ノ組合員タル資格ヲ有セザル者ニシテ其ノ地區内ニ於テ其ノ組合ノ組合員ノ取扱商品ト同種ノ商品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ輸出ヲ爲スモノ若ハ其ノ組合ノ組合員ト同一市場ヲ目的トシテ商品ヲ販賣ノ目的ヲ以テ輸出ヲ爲スモノトアルハ所屬ノ組合又ハ聯合會ニ非ズシテ所屬ノ組合又ハ聯合會タル資格ヲ有スル組合員トシ、第三十四條及第六十一條中全國トアル道府縣ノ區域ヲ超ユル區域トス

第三章 貿易組合中央會

第七十二條 貿易組合中央會ハ貿易組合及貿易組合聯合會ノ普及、發達及聯絡ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第七十三條 貿易組合中央會ハ法人トス

第七十四條 貿易組合中央會ハ其ノ名稱中ニ貿易組合中央會ナル文字ヲ用フベシ

貿易組合中央會ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ貿易組合中央會ナル文字ヲ用フ

稱中ニ貿易組合中央會ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第七十五條 貿易組合中央會ハ全國ヲ通ジテ一箇トシ其ノ設立ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十六條 貿易組合中央會ハ貿易組合又ハ貿易組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス

第七十七條 貿易組合中央會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 目的
- 二 名稱
- 三 事務所ノ所在地
- 四 會員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 五 會員ノ權利義務ニ關スル規定
- 六 資産ニ關スル規定
- 七 事業及其ノ執行ニ關スル規定
- 八 役員ニ關スル規定
- 九 會議ニ關スル規定
- 十 存立ノ時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

第七十八條 貿易組合中央會設立ノ認可アリタルトキハ其ノ事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ

- 一 前條第一號、第二號及第十號ニ掲グル事項
- 二 事務所
- 三 資産ノ總額
- 四 成立ノ年月日
- 五 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲グル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ掲グル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後二月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第七十九條 貿易組合中央會ニハ理事及監事ヲ置クベシ

第八十條 貿易組合中央會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ會員タル貿易組合又ハ貿易組合聯合會ノ理事又ハ監事ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ中央會設立當時ノ理事及監事ノ選任方法ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第八十一條 第六條乃至第八條、第二十六條、第三十二條、第三十五條、第三十八條、第四十三條、第四十四條及第五十二條乃至第五十六條ノ規定ハ貿易組合中央會ニ之ヲ準用ス但シ第八條ノ規定ニ依リ準用シタル非訟事件手續法第四百四十一條並ニ第五十六條ノ規定ニ依リ準用シタル産業組合法第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十六條、第四十八條、第五十一條乃至第五十八條、第六十三條ノ二、第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條、第七十七條第三項及第七十八條ノ規定ヲ除ク

第四章 罰則

第八十二條 左ノ場合ニ於テハ貿易組合、貿易組合聯合會又ハ貿易組合中央會ノ理事、監事又ハ清算人ヲ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

- 一 本法ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ
- 二 本法ニ依リ登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ
- 三 本法ニ依リ届出ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタルトキ
- 四 行政官廳又ハ總會若ハ總代會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

五 本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サズ又ハ其ノ検査ヲ拒ミ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ

六 本法ニ依リ總會又ハ總代會ノ招集ヲ怠リタルトキ

七 本法ニ依リ事務所ニ備置クベキ書類ヲ備ヘザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閲覧ヲ拒ミタルトキ

八 本法ニ違反シテ組合員又ハ所屬ノ組合若ハ聯合會ノ持分ヲ拂戻シタルトキ

九 本法ニ違反シテ組合又ハ聯合會ガ組合員若ハ所屬ノ組合又ハ聯合會ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

十 本法ニ違反シテ破産ノ宣告ヲ請求セザルトキ

十一 本法ニ違反シテ出資一口ノ金額若ハ保證金額ヲ減少シ、脱退シタル組合員若ハ所屬ノ組合若ハ聯合會ノ責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合若ハ聯合會ノ合併ヲ爲シタルトキ

十二 本法ニ依リ公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

十三 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シテ辨濟ヲ爲シ又ハ財産ノ分配ヲ爲シタルトキ

十四 法令又ハ定款ニ違反シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ

十五 組合、聯合會又ハ中央會ノ目的ニ非ザル營利事業ヲ爲シタルトキ

第八十三條 第四條第二項、第六十六條第二項又ハ第七十四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス

第八十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス

第八十五條 第十八條ノ規定(第六十二條又ハ第七十一條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ違反シタル者又ハ其ノ命令ニ違反シテ商品ノ輸出若ハ輸入ヲ爲サントシタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 輸出又ハ輸入ヲ業トスル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第八十七條 第八十五條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第八十八條 正當ノ理由ナクシテ第二十条ノ規定(第六十二條又ハ第七十一條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依リ當該官吏ノ臨檢、検査、搜索又ハ差押ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 貿易組合又ハ貿易組合聯合會ノ證券若ハ検査證若ハ不正ニ使用シタル者、行使ノ目的ヲ以テ證券若ハ検査證ヲ偽造若ハ變造シタル者又ハ偽造若ハ變造ノ證券若ハ検査證ヲ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 貿易組合又ハ貿易組合聯合會ノ理事、監事若ハ清算人又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行為ヲ爲シ又ハ相當ノ行為ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若ハ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第九十一條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第九十二條 第八十九條ニ掲グル罪ハ刑法第三條ノ例ニ、第九十條ニ掲グル罪ハ刑法第四條ノ例ニ從フ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

輸出組合法ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リ設立セラレタル輸出組合又ハ輸出組合聯合會ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リ輸出組合又ハ輸出組合聯合會ト看做ス

本法施行ノ際貿易組合、貿易組合聯合會又ハ貿易組合中央會ニ非ズシテ其ノ名稱中ニ輸出組合、輸入組合、貿易組合、輸出組合聯合會、輸入組合聯合會、輸出入組合聯合會、貿易組合聯合會又ハ貿易組

合中央會ナル文字ヲ用フルモノハ本法施行後六月以内ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス

第八十三條ノ規定ハ前項ノ期間内之ヲ前項ニ掲グルモノニ適用セズ

舊法ニ依リテ爲シタル認可、處分、手續其ノ他ノ行爲ハ設立ノ認可ヲ除クノ外本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十四條第一項(第七十一條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ該當スル輸出組合又ハ輸出組合聯合會ノ理事ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者ハ其ノ選任ニ付同條ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

本法施行前舊法ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍舊法ニ依ル

登錄稅法第十九條第七號中「輸出組合、輸出組合聯合會」ヲ「貿易組合、貿易組合聯合會、貿易組合中央會」ニ、「輸出組合」ヲ「貿易組合」ニ改ム

印紙稅法第四條第一項第十一號中「輸出組合又ハ輸出組合聯合會」ヲ「貿易組合又ハ貿易組合聯合會」ニ改ム

商工組合中央金庫法中「輸出組合」ヲ「貿易組合」ニ、「輸出組合聯合會」ヲ「貿易組合聯合會」ニ改ム

貿易調整法案

貿易調整法案

第一條 政府ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ貿易審議會ノ議ヲ經テ期間及物品ヲ指定シ輸出又ハ輸入ノ制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

一 貿易ニ關スル條約若ハ之ニ準ズベキモノニ依リ又ハ特定國トノ輸出及輸入ノ均衡ヲ圖ル爲メ貿易ヲ調節セン

トスルトキ

二 貿易業者ノ不當ナル競争ニ因リ輸出品又ハ輸入品ノ海外市場ニ於ケル價格ノ著シキ低落又ハ騰貴其ノ他貿易上ノ弊害ヲ生ジ又ハ生ズルノ虞アル場合ニ於テ之ヲ矯正シ又ハ豫防セんとスルトキ

三 産業上必要ナル重要輸入品ノ供給ヲ適正ナラシメントスルトキ

第二條 政府ハ前條各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ輸出品若ハ輸入品ニ關スル營業者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ヲシテ輸出品又ハ輸入品ニ付統制ヲ行ハシムル必要アリト認ムルトキハ貿易審議會ノ議ヲ經テ貿易統制委員會ヲシテ其ノ統制ニ關シ必要ナル重要事項ヲ調査審議セシムルコトヲ得

第三條 政府ハ輸出品又ハ輸入品ニ關スル統制ニ付輸出品若ハ輸入品ニ關スル營業者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ノ間ノ共同ノ利害ヲ調整スル爲メ必要アリト認ムルトキハ貿易審議會ノ議ヲ經テ貿易統制委員會ヲシテ其ノ調整ニ關シ必要ナル重要事項ヲ調査審議セシムルコトヲ得

第四條 政府ハ前二條ノ場合ニ於テ貿易ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムルトキハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル營業者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ニ對シ貿易統制委員會ノ議決シタル事項ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第五條 輸出品若ハ輸入品ニ關スル營業者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ノ範圍ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 本法ニ定ムルモノノ外貿易審議會及貿易統制委員會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第一條ノ規定ニ依リテ爲ス制限若ハ禁止、第二條ノ統制又ハ第三條ノ利害調整ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徵シ又ハ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

第八條 第一條ノ規定ニ依リテ爲ス制限又ハ禁止ニ違反シテ輸出品若ハ輸入品ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ輸出品若ハ輸入品ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物品ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價格ヲ追徵スルコトヲ得

第九條 第四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第七條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ニ依ル報告若ハ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ政府ニ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第十一條 輸出品若ハ輸入品ニ關スル營業者又ハ輸出品若ハ輸入品ニ關スル事業ヲ行フ組合ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者若ハ其ノ業務ニ關シ前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十二條 本法ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

第十四條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行後五年間ヲ限リ其ノ效力ヲ有ス

前項ノ期間内ニ爲サレタル本法ニ依リ處罰セラルル行爲ニ付テハ本法ノ罰則ハ前項ノ期間經過後ト雖モ仍之ヲ適用ス

工業組合法中改正法律案

工業組合法中左ノ通改正ス

第一條 工業者ハ其ノ工業ノ改良發達ヲ圖ル爲メ共同ノ施設ヲ爲ス目的ヲ以テ工業組合ヲ設立スルコトヲ得但シ特別ノ事情アルトキハ二種以上ノ工業者ヲ以テ之ヲ設立スルコトヲ得

第三條第二項中「資金ノ貸付」ノ下ニ「組合員ノ爲ニスル其ノ營業上ノ債務ノ保證」ヲ加フ

第四條 工業組合ハ其ノ名稱中ニ工業組合ナル文字ヲ用フベシ但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ハ統制工業組合ナル文字ヲ用フベシ

工業組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ工業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ非ザルモノハ其ノ名稱中ニ統制工業組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第五條中「一部」ヲ削ル

第六條 工業組合ハ定款ノ定ムル所ニ依

リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ課シ又ハ其ノ違反ニ係ル工産品ニシテ違反者ノ所有スルモノニ付抑留其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ特ニ必要アルトキハ沒收ヲ爲スコトヲ得

第六條ノ二中「行方場合ニ於テハ」ノ下ニ「總會」ヲ議決ヲ經テ「ヲ加フ

第六條ノ三 工業組合前條ノ規程ニ基キ製造又ハ加工ノ數量、販賣價格、加工料金其ノ他命令ノ定ムル事項ニ付決定ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク之ヲ行政官廳ニ届出ヅベシ

第七條 營業上ノ弊害ヲ豫防シ若ハ矯正スル爲メ又ハ工業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メ必要アリト認ムルトキハ行政官廳ハ工業組合ニ對シ必要ナル施設ヲ命ズルコトヲ得

第八條中「又ハ矯正スル爲メ」ヲ「若ハ矯正スル爲メ又ハ工業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メ」ニ改ム

第八條ノ二 前條ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ於テ行政官廳取締上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ工場、倉庫、店舗其ノ他ノ場所ニ臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ當該官吏ハ工業組合ノ検査員ヲシテ必要ナル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第一項ノ場合ニ於テ當該官吏前條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者アリト認ムルトキハ被疑者若ハ參考人ヲ尋問シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スベキ物件ヲ搜索シ若ハ之ヲ差押ヲ爲スコトヲ得

臨檢、尋問、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス

ル命令ヲ遵守セシムル爲メ特ニ必要アリト認ムルトキハ其ノ命令ニ從フベキ者ニ對シ其ノ製造又ハ加工ノ設備ノ使用ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政官廳取締上必要アリト認ムルトキハ製造又ハ加工ノ設備ニ付封印ヲ施シ、其ノ要部ヲ取外シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條第一項但書ヲ削リ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第十五條ノ二 工業組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第二十八條ノ三第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第十六條 工業組合ハ出資ノ第一回ノ拂込アリタル後二週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ其ノ成立後二週間以内ニ之ヲ爲スベシ

登記スベキ事項左ノ如シ但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ第三號及第四號ニ掲ゲタル事項並ニ第十五條第七號及第十五號ニ掲ゲタル事項ハ之ヲ登記スルコトヲ要セズ

一 第十五條第一號乃至第三號、第七號及第十五號ニ掲ゲタル事項

二 事務所

三 出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額

四 第十八條ノ二ノ規定ニ依ル工業組合ニ在リテハ各組合員ノ氏名又ハ名稱、住所及保證金額

五 成立ノ年月日

六 理事及監事ノ氏名及住所

前項ニ掲ゲタル事項中ニ變更ヲ生ジタルトキハ其ノ登記ヲ爲スベシ但シ前項第三號ニ掲ゲタル事項ニ付テハ毎事業年度末日ノ現在ニ依リ事業年度終了後一月以内ニ登記ヲ爲スコトヲ得

第二十條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員又ハ組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立當時ノ理事及監事ハ創立總會ニ於テ第十二條第一項ノ場合ニ在リテハ設立同意者又ハ設立同意者タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ、第二十八條ノ四第一項ノ場合ニ在リテハ組合員タル資格ヲ有スル者又ハ組合員タル資格ヲ有スル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十條ノ二 第三條第一項第一號ノ事業ヲ行フ工業組合ニシテ全國ヲ地區トスルモノ若ハ第八條ノ規定ニ依ル命令アリタルモノ又ハ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ノ理事ノ選任及解任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

組合ガ前項ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至リタル場合ニ於テ現ニ其ノ職ニ在ル理事ハ其ノ選任ニ付前項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

付テハ前條第三項ノ規定ニ依ル認可ヲ受クルコトヲ要セズ

第二十一條ノ二 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス

前項ノ代理人ハ組合員タルコトヲ要ス但シ法人タル組合員ハ其ノ業務ヲ執行スル役員又ハ支配人ヲ代理人ト爲スコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スベシ

第二十二條第一項中「ノ一部」ヲ削リ第二十八條中「又ハ定款」ヲ「定款又ハ第六條ノ二ノ規程」ニ改ム

第二十八條ノ三 行政官廳當該工業ノ統制ヲ圖リ國民經濟ノ健全ナル發達ヲ期スル爲メ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ地區及組合員タル資格ヲ定メ其ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ニ對シ工業組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者行政官廳ノ指定スル期限迄ニ設立ノ認可ヲ申請セザルトキハ行政官廳ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第二十八條ノ四 前條第一項ノ規定ニ依リ工業組合ノ設立ヲ命ゼラレタルトキハ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ創立總會ニ於ケル議決及役員ノ選任ハ出席者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十八條ノ五 行政官廳第二十八條ノ三第二項ノ規定ニ依リ定款ヲ作成シタルトキハ工業組合ノ理事及監事ヲ命ズ

前項ノ總會ニ於テハ組合設立當時ノ經費ノ收支豫算及分賦收入方法ヲ議決スベシ

第二十二條第二項ノ規定ハ前項ノ議決ニ之ヲ準用ス

第二十八條ノ六 第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ハ第三條第一項第二號及第二項ノ事業ヲ行フコトヲ得ズ

第二十八條ノ七 第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合成立シタルトキハ其ノ組合ノ地區内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス

第二十八條ノ八 第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ハ其ノ組合員ヲシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得ズ

第二十八條ノ九 第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ハ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十條中「設立セムトスルトキ」ノ下ニ「又ハ第三十三條ノ規定ニ依リ準用シタル第二十八條ノ三ノ規定ニ依リ其ノ設立ヲ命ゼラレタルトキ」ヲ加フ

第三十一條ニ左ノ一項ヲ加フ  
前二項ノ規定ハ第三十三條ノ規定ニ依リ準用シタル第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合聯合會ニ付テハ之ヲ適用セズ

第三十二條第一項中「又ハ所屬ノ工業者」ノ下ニ「若ハ所屬ノ工業者タル法人ノ業務ヲ執行スル役員」ヲ加ヘ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十三條但書ヲ左ノ如ク改ム  
但シ第三條中組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會、工業者及組合員トシ第二

十條ノ二中全國トアルハ道府縣ノ區域ヲ超ユル區域トス

第三十四條第二項中「總會又ハ創立委員會ノ決議録」ヲ「又ハ總會ノ決議録ノ謄本、組合ノ設立アリタルコトヲ證スル書面」ニ改メ同項ニ左ノ但書ヲ加フ  
但シ第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニシテ行政官廳ノ處分ニ因リ成立シタルモノニ在リテハ創立總會又ハ總會ノ決議録ノ謄本、出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面、其ノ他ノモノニ在リテハ出資ノ總口數ヲ證スル書面及出資ノ第一回ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面ハ之ヲ添附スルコトヲ要セズ

第三十八條中「第三十五條乃至第三十七條」ヲ「第三十五條、第三十六條」ニ改メ「第四百條ノ規定」ノ下ニ「(第二十八條ノ三ノ規定ニ依ル工業組合ニ付テハ産業組合法第十條、第十一條第一項、第十二條、第十八條乃至第二十二條、第四十條乃至第四十三條、第四十四條第二項、第四十五條、第四十六條、第四十八條、第五十一條第三號乃至第五十二條、第五十二條乃至第五十八條、第六十二條第一項第一號第三號、第六十三條ノ二、第六十四條、第六十六條第一項、第六十七條、第六十八條及第七十七條第三項ノ規定ヲ除ク)」ヲ加フ

依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

販賣ノ目的ヲ以テ前項ノ犯罪ニ係ル工業品ナルコトヲ知りテ其ノ交付ヲ受ケタル者亦前項ニ同シ

前二項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル工業品ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第四十二條ノ二 工業品ニ關スル業ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十二條ノ三 第四十二條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十二條ノ四 正當ノ理由ナクシテ第八條ノ二ノ規定(第三十三條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル當該官吏ノ臨檢、檢査、搜索又ハ差押ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條中「五百圓」ヲ「千圓」ニ改ム  
第五十二條第三項中「一月」ヲ「二月」ニ改ム

第五十五條中「第十九條」ノ下ニ「第二十一條」ヲ加ヘ但書中「第三十八條ノ二」ヲ削リ「及第七十七條第三項」ヲ「第七十七條第三項及第七十八條」ニ改ム

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第二十條ノ二第一項(第三十三條ノ規定

ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ該當スル工業組合又ハ工業組合聯合會ノ理事ニシテ本法施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者ハ其ノ選任ニ付同條ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

(國務大臣伍堂卓雄君登壇)  
○國務大臣(伍堂卓雄君) 先以テ揮發油及「アルコール」混用法案ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、液體燃料ハ産業上並ニ國防上重要ナル資源デアリマシテ、是ガ供給確保ヲ圖リマスルコトハ、最モ緊急ヲ要スル所デアリマス、政府ニ於キマシテハ、我國内外ノ情勢ニ鑑ミマシテ、從來ノ諸施設ノ外、新ニ人造石油工業ヲ確立シテ、液體燃料ノ自給ヲ圖ルト共ニ、其合理ナル消費節約ヲ爲スコトガ、極メテ緊要デアルト考ヘルノデアリマス、液體燃料中揮發油ハ、其需要ガ頗ル多量デアルノミナラズ、逐年著シク需要増加ノ趨勢ニアリマスノデ、此際政府ニ於キマシテハ、國內ニ於テ生産スル代用燃料デアリマス「アルコール」ノ使用ヲ普及セシメテ、揮發油ノ消費料ヲ節約スルト共ニ、液體燃料ノ自給ヲ促進スルノ目

的ヲ以テ、揮發油「アルコール」ヲ混用セシムルノ制度ヲ創設セントスル次第デアリマス、而シテ「アルコール」ハ、農産物ヲ原料ト致シマス關係上、本制度ノ實施ハ農村ノ振興ニ資スル所モ、亦尠クナイト考ヘルノデゴザイマス、尙ホ「アルコール」ノ供給ヲ確保スル爲メ、既ニ「アルコール」專賣法案ヲ本議會ニ提出致シマシタコトハ御承知ノ通りデアリマス、以上申述ベマシタ理由ニ依リマシテ、揮發油及「アルコール」混用法案ヲ提出致シマシタ次第ゴザイマス、何卒御審議ノ上御協賛アランコトヲ希望致シマス

次ニ貿易組合法案及ビ貿易調整法案ノ提案理由ヲ御説明申上ゲマス、貿易ノ伸張ヲ圖リマスコトハ、我國財政經濟ノ現狀ニ鑑

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第二十條ノ二第一項(第三十三條ノ規定

ミ、最モ緊急ナル所デアアルコトハ、茲ニ申述ブル迄モアリマセヌ、然ルニ近時國際貿易ノ實情ヲ見マスルニ、諸外國ハ相種イデ、自國産業ノ保護等ヲ理由トシテ、外國品ノ輸入ヲ防遏セントシ、特ニ本邦商品ノ急激ナル進出ニ對シテ其甚シキモノガアルノデアリマス、此情勢ニ對應シ、政府ハ從來諸般ノ對策ト共ニ、輸出組合制度ノ運用ニ依リ、輸出統制ヲ行ハシメ、以テ貿易ノ伸張ヲ圖ツテ參シタリマス、併ナガラ諸外國方或ル高率關稅ヲ設定シ、或ハ輸入ノ割當ヲ行ヒ、或ハ求償主義ニ依リ自國物産ノ買付ヲ要求スル等、極端ナル保護主義ヲ採ルモノ益々多キヲ加フル現下ノ實情ニ對應スル爲メ、輸出統制ヲ一層強化スルコトト致シマシタ、同時ニ輸入品ノ買入先ヲ分散シ、又ハ片貿易ヲ是正スル等爲メ、輸入ノ統制ヲ爲サシムルノ必要ガアリマスノデ、新ニ輸入組合ノ制度ヲ設ケ、輸入業者ヲ組織化スルコトト致シマシタ、又求償貿易國ニ對シ、輸出組合ト輸入組合ト相提携シテ、其國ノ物産買付ヲ圖ラシムル等ノ必要ガアリマスノデ、是ガ爲メ兩組合ノ聯合會ヲ設クル途ヲ開イタノデアリマス

以上ノ如ク貿易組合法ヲ制定シ、貿易業者ノ組合制度ニ改善ヲ加フルコトト致シマシタガ、國際貿易ノ情勢ハ貿易ノ統制ヲ複雑多岐ナラシメ、其影響スル所極メテ大ナルモノアルニ至リ、單ニ貿易業者ノ組合制度ノミヲ以テシテハ、尙ホ十分ナラザルモノガアリマスノデ、貿易組合法案ト共ニ新ニ貿易調整法案ヲ制定スルコトト致シタノデアリマス

整セントスル時ニハ、貿易統制委員會ヲ設ケマシテ、貿易及ビ國內産業ヲ通ズル統一的見地ヨリ、最モ適當ナル統制、又ハ利害調整ノ方法ヲ調査審議セシメ、其審議決定セラレタル所ニ基キ、關係業者ヲシテ自治的ニ必要ナル貿易其他ノ統制ヲ實施スルノ途ヲ開キ、又特ニ必要ト認ムル場合ニハ、是等業者ニ對シ委員會ノ審議決定シタル事項ノ實施ヲ命ジ得ルコトト致シタノデアリマス、是ト同時ニ、貿易ノ維持伸張ヲ圖ル爲メ、特ニ緊要ナル特定ノ場合ニ於テ、以上ノ如キ關係業者ノ統制ノミニ俟ツコトヲ得ナイ事情アル場合ニハ、政府ガ直接輸出輸入ノ制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得ル途ヲモ開クコトト致シタノデアリマス、尙ホ以上ノ如キ貿易調整法ノ實施、其他貿易調整ニ關スル重要ナル事項ヲ審議セシムル爲メ、貿易審議會ヲ設ケ、特ニ慎重ヲ期スルコトト致シマシテ、而シテ本法案ハ現下ノ國際情勢ニ對處スル臨時ノ措置デアリマスカラ、其有効期間ヲ五箇年ト限定シタ次第デアリマス

即チ貿易調整法案ニ依リマスレバ、内外ノ情勢ニ依リ貿易ノ維持伸張ヲ圖ル爲メ、特ニ緊要ナル特定ノ場合ニ於テ、貿易業者、生産業者等ヲシテ統制ヲ行ハシメントスル時、又ハ貿易品ニ關スル統制ニ付テノ貿易部門ト、國內産業部門トノ間ノ利害ヲ調

機能ヲ擴充致シマスト共ニ、統制確保ノ方法ヲ講ジ、同時ニ之ニ伴フテ工業組合ニ對スル監督規定ヲ補フ等、工業組合制度ヲ整備シ、以テ産業ノ振興ト貿易ノ進展ニ資セントスル次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレシコトヲ希望致シマス

○副議長(岡田忠彦君) 質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許シマス——小林三郎君

(小林三郎君登壇)

○小林三郎君 私人只今上程サレテ居リマスル四法案中ノ工業組合法中改正法律案ニ付キマシテ、一二質問ヲ致シテ見タイト思フノデアリマス

先ヅ政府ガ本案ヲ提出スルニ至リマシタ理由ヲ見マスルニ「我國中小工業ノ實態ニ鑑ミ工業組合ノ統制機能ノ強化ヲ圖ルト共ニ工業組合ニ對スル監督ヲ更ニ徹底スル爲メタカラデアアルトナツテ居ルノデアリマス、ソコデ私ハ第一ニ御尋致シタイコトハ、我國ノ中小工業ノ實情ニ付キマシテ、政府ハ如何ナル觀察ヲ致シテ居ラレカト云フコトデアリマス、即チ我國ノ中小工業ノ實情ガ、工業組合ノ力ヲ藉リルニアラザレバ發達シナイト云フコトハ、如何ナル點ヲ指シテ居ラレルノデアリマスカ、私ノ見解ヲ以テ致シマスレバ、現在商工省ノ執リツ、アル所ノ統制主義、工業組合主義ハ、各種工業狀態ニ於テ一様ニハ申サレマセヌガ、概シテ中小工業ニ對シテハ、現行法規ノ示ス程度ニ止ムベキデアツテ、是レ以上此統制主義ヲ徹底強化スベキモノデハナイト思フノデアリマス、是ハ寧ろ當業者ノ實情ニ應ジテ、適當ニ取捨按排スベキデアルト思フノデアリマス、然ルニ近時商工省ハ各種工業ノ業態ヤ地方ノ實情如何ヲ顧ミズ、一様ニ工業組合ヲ設立シヨウトシテ、之ヲ勸奨シテ居ルノデアリマス、其結果ハドウデアアルカト申シマスルニ、私ノ知り得タ範圍ニ於キマシ

テハ、其悉クトハ申シマセヌガ、多クハ失敗ニ終ツテ居ルノデアリマス、即チ從來重要物産同業組合法ニ依リマシテ、同業組合ガ出來テ以來、各種業者ハ同業組合ヲ組織シテ、此公益團體タル同業組合ハ、多年當業者間ノ調和統制ヲ圖ツテ、産業ノ獎勵ニ當リマシテ結果、各種ノ事業ハ穩健ナル發達ヲ致シテ來タノデアリマス、然ルニ此中小工業者ニ向ツテ、政府ハ近頃頻リニ工業組合ノ設立ヲ勸奨致シマシテ、甚シキハ業界ノ實情ヲ無視シテ、當業者ニ強要シ壓迫致シテ居ル事實ガアルノデアリマス、何ガ故ニ斯ク致シテマデモ工業組合ヲ設立サセルカト申シマスルニ、是レ全ク商工省ノ一部官吏ガ、統制病ト云フ一種ノ流行病ニ冒サレテ居ル爲デアアルト云フコトヲ思フノデアリマス

一體統制ト云フコトハ、時ト場合ニ依リマシテハ、産業ノ保護又ハ其發達助成ノ爲ニ必要ナコトデアリマス、政府ノ力ニ依ッテ業界ノ不當ナル競争ヲ是正シ、生産ヲ調節シ、品質ノ向上、價格ノ維持ヲ爲シマシテ、生産力ヲ旺盛ナラシメ、以テ産業ノ發展ヲ期セネバナラスコトガアルノデアリマサルガ、又反對ニ此統制強化ノ爲ニ、却テ産業ノ發達ヲ阻碍スル場合モ亦少クナイノデアリマス、之ヲ例ヘテ申シマスナラバ、米ノ如ク國民全體ノ食糧ニ供セラルベキモノガ、其收穫ノ豊凶如何ニ依ッテ値段ノ高低著シク、其結果生産者ト消費者ト利害相反シ、國民經濟上其影響スル所ガ甚大デアアル、或ハ又肥料デアアルトカ、繭ノ如ク、米ト同様ニ多數國民ノ經濟ヲ支配スルモノ、又生絲其他ノ重要輸出品ノ統制ノ如キハ、何レモ前者ニ屬スルモノデアリマシテ、是等ノモノハ強力ナル統制管理ニ依ッテ一定ノ價格ヲ維持シ、價格高低ノ開キヲ減少スルノデアリマシテ、何レモ其影響スル所ガ普遍的デアリ、一般的デアアルノデアリマスカラ、

スル場合ハ政府ノ力ニ依ッテ、常ニ均勢ヲ保  
タシメナケレバナラヌト思フノハ當然デア  
リマスガ、單ニ一地方ニ限ラレテ産出スル  
所ノ特殊工業品ニシテ、而モ外國貿易ヲ目  
的トスルニアラズ、又其需要供給關係ト其範  
圍トガ、全國民ノ日常生活ニ普遍的ニ影響  
スルコトナキモノハ、ソレトシテ、其地方ノ  
特有ノ事情ト、工業自體ノ發達過程ニ依リ  
マシテ、其榮枯盛衰ノ歴史ニ顧ミ、又生産  
物ノ需要供給關係等ニ鑑ミマシテ、多クハ  
同業者ノ自治的處理ニ任ズル所ノ機關ノ、  
自發的經營ニ依テネバナラヌコトガ多クイ  
デアリマス、斯ル見易キ事實ノ存在スルニ  
拘ラズ、商工省ハ全國ノ工業者ニ對シマシ  
テ劃一的ニ、一律一體ニ工業組合法ヲ適用  
シテ、工業組合ヲ強行セントスルハ、全ク  
統制病ニ冒サレテ居ルカラデアルト申サナ  
ケレバナリマセヌ、殊ニ今ヤ從來ノ法文ヲ  
以テ足レリトセズ、更ニ官憲ノ干渉ヲ一層  
強化センガ爲ニ、本改正案ヲ提出シテ恬ト  
シテ憚ル所ナキハ、餘リニ官僚獨善ノ思想  
ニ囚ハレタルモノト斷言セザルヲ得ナイノ  
デアリマス

是ニ於テ私ハ伍堂商工大臣ニ更ニ御尋致  
シタイノハ、商工大臣ハ最近マデ實業界ニ  
在ラレタノデアリマシテ、民間業界ノコト  
ハ能ク知ツテ居ラレル筈デアリマス、茲ニ提  
案サレタ改正法律案ニ依ル工業組合ノ統制  
強化ニ依ッテ、果シテ我國中小商工業者ノ健  
全ナル經濟的發達ヲ期シ得ルト御考ニナラ  
レルカ、恐ラク商工大臣モ的確ニ斯ル斷定  
ハ下シ得ヌト思フデアリマス、若シ實情  
ニ即スル如ク本法ヲ適用スルト云フ御考デ  
アツタナラバ、其想定ハ大體如何ナル範圍ニ  
於テ、如何ナル程度ニヤラレルノデアアルカ  
ヲ御説明ヲ願ヒタイノデアリマス

序ニモウツ商工大臣ニ御同致シタイコ  
トハ、私ノ知り得ル範圍ニ於テハ、從來商  
工省ノ御役人中ニ極端ナル統制主義者ガ居

ラレテ、此統制主義ノ方々ハ、其思想ニ囚  
ハレ過ギテ、産業其モノノ實際的發達ト云  
フコトヨリモ、其管掌スル有ル範圍ノ事業  
ニ對シテ、其主義ヲ徹底シタイノデアリマシ  
テ、今回改正案ノ如キモノモ、全ク此主張  
ニ發足シタモノニ外ナラヌト思ハレル節ガ  
アルノデアリマス、一體産業省ノ官吏ガ、實  
際ノ指導的立場ヲ離レマシテ、其思想ニ囚  
ハレテ、産業界ノ實情ヲ無視シテ、總テノ  
施設ヲ致スト云フコトハ、甚ダ宜シクナイ  
ノデアリマス、斯ル考ヲ産業獎勵ノ仕事ニ  
當ル人ガ持ツタ場合ニ、是ハ産業獎勵上、産  
業上ニ甚ダ危險ヲ齎スノデアリマス、場合  
ニ依ッテハ産業ノ基礎ヲ破壊スルコトニナ  
ルノデアリマス、私ハ其生々シキ實例ヲ握ッ  
テ居リマス

今茲ニ一々其例ヲ擧ゲル時間ヲ持チマセ  
ヌガ、唯一ツダケ簡單ニ申上ゲテ見マスレ  
バ、現在ノ事實ニ付テ申上ゲマシタナラバ、  
アノ本場大島郡ノ産地デアアル所ノ、鹿兒島  
縣ノ大島郡ノ紬同業組合ト云フモノニ對ス  
ル工業組合ノ織込ミ、工業組合ヲ紬同業組  
合ニ代ラシムル爲ニ執ツタ所ノ商工當局ノ  
態度デアリマス、アレガ爲ニ此大島郡ノ實  
情ヲ無視致シマシテ、商工當局ガ工業組合  
ヲ無理押付ケテ致シマシタガ爲ニ、數年ノ間  
ニ莫大ナ損害ヲ受ケテ居リマス、サウシテ  
現ニ昭和十一年度ノ産額ニ於キマシテモ、  
六万反九千九百圓ト云フ所ノ生産減ニナツ  
テ居ル、一郡ノ僅カ五六百圓ニシカ滿タナ  
イ所ノ産額ノ中カラ、百万圓近クノ莫大ナ  
減産ヲ致スト云フコトハ、何ガ爲ニ起ツ  
カト申シマスト云フト、全ク此實情ニ即サ  
ナイモノヲ無理押ニ付ケテシマツテ、同業  
組合ヲ解散シテ工業組合ヲ設立セヨト云フ  
所ノ強硬ナル當局ノ態度、即チ強制、此強  
制ノ爲ニ非常ナル賛成反對ノ論ガ起リマシ  
テ、實質的ニ於キマシテモ、其數ニ於キマ  
シテモ、多數ノ反對ガアツタニ拘ラズ、官憲

ノ強制ニ依ッテ工業組合ヲ設立シヨウトシ  
タ所ノゴトノ爲ニ、此損害ヲ蒙ツテ居  
ルノデアリマス、唯ソレバカリデアアリマ  
セヌ、獨リ大島郡ノ例ニ依ラズトモ、各地  
ニ於キマシテ斯ノ如キコトハアルノデアリ  
マス、單ニ經濟上ノ損失ノミナラズ、人ノ  
和合ヲ攪亂シ、同業者ガ互ニ相扶ケ合ッテ  
サウシテ親睦ヲ圖ツテ、同業組合ノ指導ニ  
從ッテ進ンデ居ルニ拘ラズ、之ヲ攪亂シ、將  
來永遠ニ救フベカラザル所ノ禍根ヲ貽シタ  
ト云フコトハ、全ク商工當局ノ無定見ノ結  
果デアアル、或ハ官僚獨善ノ爲デアアル、斯ウ  
申サナケレバナラヌノデアリマス、商工省  
ノ御役人中ニ、斯ノ如ク統制ノ一點張りデ  
行カウトスル所ノ、所謂工業組合萬能主義  
ヨリ發足シテ、官憲ノ力ヲ濫用シテ、無理  
ヲ通サウトスル所ノ人々ガアリマシタ時ニ  
ハ、是ガ爲ニ澤山ノ經濟的犠牲ハ出ルノデ  
アリマス、私ハ斯ル御役人ガ、假令一部ト  
ハ申シマシテモ、産業省ニ蟠居シテ、常ニ  
其獨善的思想ニ基イテ畫策サレル所ノ、産  
業施設ノ總テトハ申シマセヌガ、其多クハ  
机上ノ遊戲デアツテ、實際的ニハの外レノ鐵  
砲トナリハセヌカト云フコトヲ疑フ者デア  
リマス

要スルニ斯ル方々ハ、總テ統制第一主義  
デ、重要工業ハ勿論、中小工業ヲ通ジマシ  
テ、輸出工業或ハ國內工業ヲ問ハズ、悉ク  
之ヲ統制シテ見タイトノ理想ヲ持ツテ居ラ  
レルノデアリマス、而シテ其内容トスル所  
ハ、第一ニ生産ノ調節デアリマス、第二  
ニハ價格ノ協定デアリマス、第三ニハ  
販賣方法ノ強制統一デアリマス、第四  
ニハ取引方法ノ指定、更ニ進ンデハ原料材  
料等ノ指定統一等、巨細ニ互ツテ一ツノ準則  
ニ據ラシメテ、悉ク杓子定規ニ當嵌メヨウ  
トスルノデアリマス、實業界ノ動向ハ微妙  
デアツテ、日々ノ工程ト經濟的業績ト一致  
セシムル爲ニ、當業者ハ言現ハスコトノ出

來ナイ苦心經營ヲ要スルノデアリマス、之  
ニ對シテ官吏ガ一カラ十マデ規則ヅクメ  
デ、事業内容ニ干渉スルト云フコトハ甚ダ  
不當デアアル、斯ルコトハ却テ産業ノ發達ヲ  
阻碍スルモノデアツテ、必シモ當局ノ唱  
ヘル所ノ、生産組織ノ綜合整理ニ依ル企業  
ノ合理的經營ニ依ッテ、産業ノ發達助長ヲ期  
スルトハ認メラレヌノデアリマス、之ニ對  
スル商工大臣ノ御所見ヲ御伺シタイノデア  
リマス第四ニハ、同業組合ト工業組合トノ  
關係ニ付テ御伺シタイノデアリマスルガ、  
明治三十三年重要物産同業組合法ガ制定セ  
ラレマシテ、各種ノ産業ノ上ニ同業組合ガ  
出來マシタ、其指導獎勵ニ依リマシテ、我  
國ノ産業ハ著シキ發達ヲ遂ゲタノデアリマ  
ス、所ガ大正十四年三月ニ重要輸出品工業  
組合法ヲ制定セラレマシタ、此場合ニハ唯  
重要輸出品ニ對スル工業組合ヲ作りマシテ、  
サウシテ一般ニ及ンデ居ナカッタノデアリ  
マス、同業組合トノ關係ガ餘リニ煩瑣デナ  
カッタノデアリマスガ、同業組合ガ重要輸  
出品ニ關係致シテ居リマシテモ、唯重要輸  
出品ニ對スルダケハ、工業組合ガ關係シテ  
行クト云フノデアリマスカラ、其間ニ何等  
複雑シタル問題ハ起ラナカッタ、然ルニ昭  
和六年ノ四月一日ニ法律第六十二號ヲ以  
テ、輸出品ト内地品トクルト云フコトニ  
一般ニ工業組合法ヲ適用スルト云フコトニ  
ナリ、其名モ工業組合法ト改メタノデアリ  
マス、ソコデ段々ト工業組合ト云フモノガ  
同業組合ノ領分ニ進ミ、從來同業組合ニ於  
テ爲シ得タ所ノ大部分ノ仕事ヲ工業組合ガ  
ヤル、斯ウ云フコトニナツテ居リマシテ、同  
業組合ガ其本來ノ仕事ヲ工業ニ關スルモノ  
ニ付テハ致サナクテモ宜イ、斯ウ云フコト  
ニナツテ居ル、ソレデアリマシテ工業組合  
ガ、全部ノ産業ノ中ノ工業ニ屬スルモノダ  
ケハ、同業組合ヲ全然必要トシナイト云フ  
積リテ獎勵ヲ致サレテ居ルノデアリマス、

若シサウト致シマシタナラバ、ハッキリソレヲ規則ニ謳フ方ガ宜シト思フノデアリマス

殊ニ同業組合ニ依ツテ非常ニ穩健ナル發達ヲ致シテ來タ所ノ産業界ニ、此改正法律案ノ第二十八條ノ三ヲ見テミマス、實ニ驚クベキコトヲ計畫シタ、全ク是ハ私共ガ考ヘマスル時ニ、從來政府ノ執ツタ、商工當局ノ執ラレタ所ノコトガ、アナタ方ノ理想ウテ、或ハ此經濟團體ニ對スル金ヲ貸ス、或ハ補助ヲスル、サウ云フ所ノ口車ニ乗ッテ、サウシテ總テ工業組合ニ易々トシテ入ッ

タナラバ、斯ノ如キ法案ハ出サズトモ、或ハ宜カッタト云フコトニナルノデアリマセウ、併ナガラ全國ノ中小工業業者ノ實情ヲ見マス、決シテ口車ニ乗ラナイ、喧々囂囂トシテ到ル處ニ問題ヲ起シテ居ル、同業組合ニ工業組合ヲ織込ミ、同業組合ヲ廢シテ工業組合ヲ設立セヨト云フコトハ、非常ニ地方々々ニ問題ヲ起シテ居ル、ソレガ爲ニアナタ方ハ實ニ手古摺ツタト云フ問題ガアルコトハ、茲ニ例ヲ申上ゲマセス、ハッキリ商工當局ハ知ツテ居ラレル、アナタ方自體ニ於テサヘモ多大ノ犧牲ヲ拂ヒ、實ニ言フニ忍ビナイ犧牲ヲ拂ツタ、最近ニ於テモア、云フコトヲ致シテモ、アナタ方ノ思フヤウナ、所謂獨善的ノコトハ出來ナイ、ソコデ今度ハ法文化シテ、改正法ヲ出シテ二十八條ノ三ヲ入レタト云フコトハ、實ニ陰險デアリ、其ノ手段ガ洵ニ陋劣デアル、私ハ産業ノ發達ヲ獎勵スベキ所ノ商工省ノ方々ガ産業其モノノ實際トハ離レテシマツテ、此自分達ノ頭ヲ持ッテ行ッテ地方々々ニ押賣ヲスル、實情ニ全ク即シナイモノガ幾ラモアル、ソレヲ法ヲ以テ強行スルト云フコトハ、私ハ本當ノ伍堂商工大臣ノ御考デヤナイカト思フ、當局ノ人々ガ之ヲ商工大臣ニ色々進言シテ、サウシテ自分達ノ理想ヲ實現シヨ

ウト云フ状態デアリマシタナラバ、私ハ産業ヲ非常ニ壓迫スルモノデアル、斯ウ云フコトヲ思フノデアリマス、是等ノ點ニ付キマシテ商工大臣ノ御明答ヲ戴キタイ(拍手)

(國務大臣伍堂卓雄君登壇)

○國務大臣(伍堂卓雄君) 工業組合ヲ現状以上ニ擴張スル必要ガナイノデハナイカト云フ御意見デアッタト思ヒマスガ、工業組合ト同業組合トハ自ラ性質ヲ異ニシテ居リマシテ、同業組合ハ工業ト商業ガ一緒ニナツテ居ル所モアリマス、ソレデ時世ノ進展ニ連レマシテ、工業組合ト商業組合ガ分レマシテ、工業組合ハ特ニ共同施設等ヲ設ケテヤルヤウニナツタノデアリマス、自ラ性質ガ違フテ居リマスカラ、政府ハ同業組合ト工業組合ト、各、其長所ヲ採ッテ發達サシテ行キタイト思フノデアリマス、ソレカラ今度ノ改正ニ依リ適用ノ範圍ハドウデアアルカト云フ御質問デアリマシタガ、是マデノ指定制度ヲ廢シマシテ、希望ニ依リマシテドウ工業デモ組合ヲ作レルコトニナツタノデアリマスガ、決シテ強制スル譯デハナイノデアリマス、先程一寸大島純同業組合ノ御話ガゴザイマシタガ、是トモ工業組合ヲ決シテ政府ガ強制シタノデハナイノデアリマシテ、地方廳カラノ申請ニ依リマシテ認可ヲ與ヘタノデアリマス、ソレカラ同業組合ト工業組合トノ關係ハ、只今申シマシタ通りデアリマスガ、畢竟工業組合ニ依ル統制運用方法ノ内容ハ、各産業ノ事情ニ即シマシテ、自治的ニ適當ナル統制ヲ爲サシムル方針デアリマス、工業組合ノ設立ニ付キマシテハ、決シテ官廳ガ強制スルコトノナイヤウニ、地方ノ實情ヲ考慮致シマシテ、之ヲ認可スル方針デゴザイマス

○小林三郎君 簡單デアリマスカラ自席カラ御許ヲ願ヒマス

○副議長(岡田忠彦君) 許シマス

○小林三郎君 只今商工大臣ノ御説明ニ付

キマシテ、實際ト大分離レタル所ガアルノデアリマス、併ナガラ細カニ申上ゲマスト討論ニナリマスノデ、私ハ委員會ニ於キマシテ細カナ點ヲ申上ゲマシテ、其際ニ十分ニ大臣及ビ主務官ノ御意見ヲ伺ッテ見タイト思フノデアリマス

○副議長(岡田忠彦君) 中井一夫君

(中井一夫君登壇)

○中井一夫君 我ハ只今上程ニナツテ居リマス貿易關係法案ニ付テ、六點ノ質疑ヲ致サントスル者デアリマス、其第一ハ我國貿易政策ノ根本問題デゴザイマシテ、其第二ハ我國ト對外諸國トノ貿易關係ニ付テデアリマス、第三ハ我國ノ海運ニ關スル英國ノ壓迫ニ付テデアリマシテ、第四ハ貿易行政機構ノ整備強化、第五ハ貿易法制ノ統一整理、第六ハ貿易調整法案ニ規定セラレテ居リマスル委員會ノ構成等ニ付テデアリマス

先ヅ第一ニ伺ヒタイト思ヒマスルコトハ、我國ノ貿易ノ現狀ト云フモノハ、世界各國ノ經濟「ブロック」ノ對立ノ間ニ伍シマシテ、今ヤ到ル處障壁ヲ設ケラレテ居ルノデアリマス、申ス迄モナク貿易ハ有無相通ズルノ世界ノ大道デゴザイマスルカラ、吾吾ハ飽マデ貿易自由ノ大旗ヲ掲ゲテ、世界各國ニ當ラナケレバナラスト信ズルノデアリマス、然ルニ此問題ニ付キマシテ、從來政府ノ執ラレマスル所ヲ見マスルニ、常ニ相手方ノ出テ參リマスルコトニ對シテノミ、臨機應變ノ處置ヲ執ッテ居ラレルト云フニ過ギナイノデアリマシテ、我國ノ獨自ノ確固タル主義主張ヲ以テ、相手方ニ臨ムト云フ態度ヲ見ルコトガ出來ナカッタコトハ、私ノ洵ニ遺憾トスル所デアリマス(拍手)

隨ヒマシテ茲ニ政府ハ此際對外貿易關係ニ付テハ、五惠主義ヲ採ッテ行カウトスルノデアルカ、ソレトモ又求償主義ニ依ラントセラレルノデアルカ、之ヲ明ニ茲ニ言明セラレタイノデアリマス、而モ諸外國ハ此

五惠主義ノ不利益ヨリ免レマス爲ニ、年來條約廢棄ノ非常手段ニ出ヅル例ヲ間々見ルノデアリマスルガ、此條約廢棄ノ非常手段ニ出デマスル諸外國ニ對シマシテハ、我國ニ於テハ複關稅ノ方策ヲ採用致シマシテ、是等ノ不都合ナル諸外國ニ對シテ、大イニ期スル所ガナケレバナラスト思フノデアリマス、此點亦政府ノ所信ヲ伺ヒタイト存ズルノデアリマス

次ニ我國ト對外諸國トノ貿易關係ニ付テデアリマスガ、先ヅ第一ニ御伺シタイノハ對支問題デアリマス、我國ノ貿易ガ世界到ル處ノ障壁ニ依リマシテ、昨年來其増進ノ傾向ガ鈍化ヲ致シタト云フコトハ事實デアリマス、殊ニ舊市場ニ於テ其障壁ノ偉大ナルコトヲ見ルノデゴザイマスガ、是ガ爲ニ政府モ民間モ一緒ニナリマシテ、所謂新市場ノ開拓ト云フコトニ御努力ヲ拂ハレルニ至ツテ居ルノデアリマス、併ナガラ、我國ノ隣ニハ一衣帶水支那四億ノ國民ガアルコトヲ考ヘテ見マスルナラバ、新市場ノ遠クシテ不便デアツテ、而モ其事情ノ分ラナイモノニ、色々努力ヲ拂フト云フコトヨリハ、寧ロ此支那市場コソハ、之ヲ確保シ、維持シ、更ニ大イニ日支間ノ貿易ヲ振興セシムルト云フコトガ、刻下ノ急務デアルト思フノデアリマス、然ルニ從來政府ノ對支貿易ニ對シテ執ッテ居ラレマシタ事柄ハ、殆ド茲ニ言フヲ憚ル程ノ狀態デゴザイマシテ、其遺憾ナル點ハ吾々國民ノ齊シク長年叫ンデ參リマシタ所デアリマス、幸ニ致シマシテ廣田内閣ガ倒レテ、茲ニ林内閣ガ成立致シタノデゴザイマスルカラ、從來ノ險惡ナル空氣ヲ一掃シテ、氣持ヲ新ニシテ、對支貿易振興ノ途ニ邁進セラレルコトガ、今日ヲ措イテ其機會ハ再び來ナイト信ズルノデアリマス、殊ニ數日前我國ノ經濟界ノ所謂長老トモ申スベキ人々ガ、經濟使節トシテ支那ニ參リマシテ、支那ノ要人ト會見致シ



マシタル結果、支那ノ經濟再建ニ付テ、日本ノ積極的ノ援助ヲ彼等ガ待構ヘテ居ルト云フ趣旨ノ意思ヲ、明ニ致シタイト傳ヘラレテ居ルノデアリマス、サウ致シマスルナラバ此際、從來政府ガ支那ニ對シマシテハ、常ニ政治的ノ外交ヲ是レ事トセラレテ居リ、經濟外交ニ其主力ヲ注ガレルト云フコトガ、洵ニ望マシイコトデアルト信ズルノデアリマス、外務大臣ハ先般此壇上ニ於キマシテ、日支間ノ平等主義ヲ唱ヘラレタノデアリマスガ、吾々ハ百尺竿頭一步ヲ進メラレテ、更ニ支那ノ經濟再建ニ對シテ積極的ナル援助ヲ爲サルベキガ、此際最モ必要ナコトト存ズルノデアリマス、政府ノ所信如何デゴザイマスルカ、之ヲ承リタイト思ヒマス

米國ノ問題ニ付テ御伺ヲ致シマスルガ、承ル所ニ依リマスルト、數年前同國ガ求償通商政策ヲ確立致シマシテカラ、中南米ハ固ヨリ歐羅巴各國トノ間ニモ、隨時互惠協定ヲ締結致シテ參ツノデアリマス、而シテ我國ニ對シマシテモ、近ク此互惠主義ニ依リ所ノ協定ヲ申出ヅルヤノ說ヲ承ハルノデアリマスルガ、政府ハ之ニ對シテ如何ナル用意ト態度ヲ以テ臨マレント致シテ居リマスルカ、此點ヲ承リタイト思ヒマス

又印度ノ關係ニ付テデゴザイマスルガ、印度ト我國トノ通商協定ト云フモノハ、本月ノ三十一日ヲ以テ終了致ス管デアリマス、是ガ爲ニ昨年以來印度政廳トノ間ニ協商ヲ重ネツ、アルト云フコトデゴザイマスルガ、或ハ前同ノ協定ヨリハ一層讓歩セラレノデハナイカ、又「ビルマ」ノ分離問題ニ付キマシテ、行惱ミヲ致シツ、アルト云フヤウナコトノミ聞エマシテ、トント其内容ヲ明ニスルコトハ出來ナイノデアリマス、政府ハ此際日印間ノ協定ガ如何ニ進ミツ、アルカト云フコトニ付キマシテ、其實

情ヲ披瀝セラレシコトヲ願フノデアリマス  
次ニ蘭領印度トノ關係デアリマスルガ、之ニ付キマシテハ、桑島公使ハ和蘭本國ヘ赴任ノ途中、蘭領印度ニ上陸致シマシテ、實地ニ就テ各種ノ事情ヲ調査研究セラレテ居ルト云フコトデアリマス、私共ハ此用意アツテ初メテ日蘭間ノ貿易ノ協定ガ、圓滿ニ成功ラ致スモノデアルト信ズルノデアリマスルガ、日蘭協定ニ關シマシテ政府ノ執ラレントスル態度ニ付キマシテ、此際御伺ヲ致シテ置キタイノデアリマス、尙ホ此機會ニ於テ、加奈陀、埃及、中南米諸國等ニ對スル通商貿易上ノ紛議ト其解決方策、竝ニ將來ノ見透シ等ニ付キマシテモ、政府ノ所信ヲ承ルコトガ出來レバ幸ヒデゴザイマス

第三ニハ海運ノ問題デアリマスルガ、海運ト貿易ト云フモノガ離レルコトノ出來ナイト云フコトハ申上ゲル迄モゴザイマセヌ、而シテ我國ノ貿易ガ段々進展致シマスルニ連レマシテ、海運モ亦異常ナル勢ヲ發達ヲ致シマシタ、而シテ貿易ガ到處ニ防遏ヲ喰ヒマスルト同様ニ、海運モ亦世界到ル處ニ於テ諸外國ノ海運ト摩擦ヲ始メツツアルノデアリマス、而シテ最近最モヤカマシク言ハレマスルモノハ英國トノ關係デアリマシテ、殊ニ印度竝ニ濠洲航路ニ付キマシテハ、今ヤ英國ハ海運委員會ト云フモノヲ設定致シマシテ、サウシテ日本ニ致シマシテ重大ナル一ツノ行動ニ出デント計畫シツ、アリト傳ヘラレテ居ルノデアリマス、而シテ此問題ハ既ニ外務省ニ於キマシテモ、政府ヨリ發行サレマスル所ノ週報ナルモノニ、最近其一部ヲ御發表ニナツタノデアリマスガ、海運界ニ於キマシテハ、此問題ハ最近ノ重大事トシテ非常ナル關心ヲ持ツテ居ルノデアリマス、故ニ政府ハ此際此問題ノ成行ト其對策ニ付キマシテ、如何ナル用意ヲ持タレルカト云フコトヲ伺ツテ置キタイト思ヒマス

置キタイト思ヒマス

次ニハ貿易行政機構ノ整備強化デアリマスルガ、我國内外ニ於キマスル政府ノ貿易機關ヲ整備統一スルト云フコトト、更ニ其機能ヲ擴大強化致シマシテ、我國貿易發達ノ情勢ニ適應セシメナケレバナラヌト云フコトハ、國民年來ノ希望デゴザイマス、然ルニ此度ノ議會ニ於テ政府ノ爲サントセラレマスル所ハ、唯一ツ貿易局ヲ擴張セラレルト云フコトノ外ニハ、何等ノ案ヲ持タレナイノデアリマシテ、私共ハ貿易ノ現勢ト其將來ニ對シマシテ、洵ニ心細イ感ジガアルノデアリマス、寧ロ此際政府ハ我國ニ貿易省トデモ申スベキ、貿易通商ニ關スル一切ノ問題ヲ所管致シマスル一省ヲ置カレテ、サウシテ日々夜々ニ増進發展致シマスル所ノ、貿易ノ現勢ニ對應スルノ施設ヲ採ラレルト云フコトガ、最モ急務デアルト信ズルノデアリマス、政府ノ所信ヲ伺ヒタイト存ジマス

次ニハ貿易關係法規ノ整理統一ト云フコトデゴザイマスルガ、此度御提案ニナリマシタ所ノ貿易組合法案、貿易調整法案等ニ依リマスルト云フコトト、從來存シマシタ所ノ輸出組合ト云フモノハ、之ニ依テ廢止セラレルト云フコトハ明カデアリマス、併ナガラ貿易ノ統制ノ法規ニ付キマシテハ、或ハ通商擁護法モゴザイマス、又重要産業統制法ト云フモノモアリマス、又重要物産同業組合法、工業組合法、産業組合法等、其他在來ノ法令ニ關係致シマスル所ノモノガ、隨分多數アルノデアリマス、隨テ是等法令ノ規定ヲ其々ノ場合ニ御適用ニナルト云フコトデゴザイマスルナラバ、互ニ其規定ノ錯綜混亂ヲ生ジマシテ、貿易ノ統制ガ出來ル前ニ、先以テ法規ノ混亂ガ起ルノデハナイカト思ハザルヲ得ヌノデアリマス、故ニ此際貿易組合法案、貿易調整法案等ヲ設定セラレルト云フコトデゴザイマスルナラ

係法規ノ總テヲ、整理統一セラレルコトガ必要デアルト存ズルノデアリマス、政府ハ之ニ對シテ如何ナル御考ヲ御持チニナツテ居ラレマスルカ、御伺ヲ致シタイト存ジマス

最後ニ此委員會ニ關スル問題デアリマス、貿易……(田淵豐吉君、議場ノ空氣ガ良クナイ、議長ハ整理ヲスル方法ヲ知ツテ居ルカ)ト呼ビ「黙レ」(靜ニシロ)ト呼フ者アリ)貿易調整法案ヲ見マスルト、其第一條以下多數ニ於キマシテハ……  
(田淵豐吉君、議長、議場ノ空氣ガ妙ニ私ハ感ズル、議長「ト呼フ」)  
○副議長(岡田忠彦君) 田淵君、靜ニ  
○中井一夫君(續) 貿易調整ノ目的ヲ達スルノ機關ト致シマシテ、貿易審議會及ビ貿易統制委員會ナルモノヲ置カレルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、併ナガラ是等ノ兩委員會ノ構成組織等ニ付キマシテハ、一切勅令ニ讓ラレテ居ルノデアリマシテ、此法案ソレ自體ニ依リマシテハ、是等ノ委員會ノ如何ナルモノデアアルカト云フコトヲ知ルコトガ出來ナイノデアリマス、此委員會ハ隨テ内閣ノ中ニ置カレルノデアアルカ、又ハ商工省ノ中ニ置カレルノデアリマスルカ、更ニ此委員會ノ委員ト云フモノハ、如何ナル方面ヨリ選定セラレルノデアリマスルカ、又此兩委員會ノ職能ト云フモノハ、如何ナル差異ヲ持ツテ居ルノデアリマスルカ、殊ニ委員會自ラガ發案權ヲ有シテ居リマスルカドウカ、是等ノ諸點ヲ承リタイト思フノデアリマス、尙ホ私ハ此委員會ノ問題ニ付キマシテハ、從來政府ノ部内ニ於キマスル所ノ委員會ガ、常ニ政府ノ諮問機關ニ過ギナイノデアリマシテ、形式的デ、微力デ、殆ド爲ス所ノナイコトヲ遺憾ニ存ジテ居リマス、如何ナル重要ナル問題ガ起リマシテモ、委員會自ラガ發案ヲシテ、政府ニ迫ツテ之ヲヤラセルト云フコトハ出來ナ

係法規ノ總テヲ、整理統一セラレルコトガ必要デアルト存ズルノデアリマス、政府ハ之ニ對シテ如何ナル御考ヲ御持チニナツテ居ラレマスルカ、御伺ヲ致シタイト存ジマス

イト云フ、實情デアルノデアリマス、隨ヒマシテ茲ニ言フガ如ク、此重要ナル貿易統制ト云フガ如キ委員會ニ付キマシテハ、少クトモ此委員會ニ發案權ヲ與ヘラレルト云フコトガ必要デアルト思フデアリマス、更ニ又此委員會ハ、事有モ貿易全體ノ統制ニ關係致シマスルカラシテ、單ニ商工省ヲケノ所管デ止マルベキモノデハゴザイマセヌ、或ハ外務省ニ、或ハ大藏省ニ關係スルコトガ多クアルベキ管デアリマス、隨ヒマシテ此委員會ハ商工省内ニ置カレルト云フコトデハ、其機能ヲ發揮スルコトハ出來ナイノデアアル、斯ノ如キモノハ内閣ノ下ニ置カレテ、此委員會ニ於テ貿易全體ノ問題ヲ統制セシメラレルト云フコトガ、其最モ當ヲ得タルモノデアラウト考ヘテ居ルノデアリマス、此點ニ付キマシテモ併セテ御答辯ヲ得タイト存ジマス(拍手)

○國務大臣(伍堂卓雄君登壇)

○國務大臣(伍堂卓雄君登壇) 中井君ノ御質問ニ御答致シマス、第一ハ對外貿易ノ根本方針ニ付テデゴザイマシタガ、我國ノ對外貿易ノ根本方針ハ、申ス迄モナク從來通り自由通商主義デアリマシタ、唯今日ノ國際關係カラ、相手國ノ要求ニ依ツテ、或ハ互惠トナリ、又求償主義ヲ採ルヤウニナリツ、アルノデアリマス、ソレカラ對支貿易ニ付テハ、洵ニ御同感スベキ御意見デアリマシタ、從來非常ニ閉却サレテ居ルト云フ御話デゴザイマスガ、決シテ閉却サレテ居ツタ譯デナク、色々兩國間ノ政治的關係カラ、已ムヲ得ズ疎遠ニナリ勝ニナツテ居ルノデアリマスルガ、今回提案シマシタ輸出補償法ノ改正ノ如キモノ、從來ノ舊市場ヲ確保スル爲メ、特ニ支那方面ニ向テ重點ヲ置イテ居ルノデアリマス、尙ホ此對支貿易關係ニ付キマシテハ、私ハ將來熱心ニ是ガ改善ヲ圖リタイト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ米國、日印、日蘭等ノ關係ニ付テハ、外務省政府委員カラ御答スル方ガ至當デア

ト考ヘマス、貿易局ヲ設ケルダケデ満足スルカ、貿易省ヲ設クル必要ハナイカト云フ御意見デゴザイマス、御趣意ニ於テハ私モ同感デアリマスルガ、是ハ將來問題トシテ考究ノ必要ガアルト考ヘルノデアリマス、ソレカラ貿易關係ノ法規ガ非常ニ多クテ、相交錯シテ、其適用上困難デハナイカ、或ハ不都合ヲ生ズルコトハナイカ、是等ヲ統一スル考ガナイカト云フコトニ對シマシテハ、大イニ考究シテ見タイト考ヘルノデアリマス、最後ニ貿易統制委員會、貿易審議會ノ所屬等ニ付テデゴザイマシタガ、只今ノ所デハ貿易統制委員會ハ省内ニ置クコトニ致シテ居リマスルガ、貿易審議會ハ省内ニ置クカ、或ハ省外ニ之ヲ設ケルカト云フコトニ付テハ、目下考慮中デアリマス、尙ホ其後委員ノ選定ニ付キマシテハ、申ス迄モナク非常ニ重大ナコトデアリマスルカラ、普ク其道ノ權威者ヲ集メマシテ、委員ヲ御願シタイト考デ居ルノデアリマス

○政府委員(松島鹿夫君登壇)

○政府委員(松島鹿夫君登壇) 只今ノ御質問ノ中ニ、米國トノ互惠條約ノ議ハアルカ、政府ハ如何ニ考ヘテ居ルカト云フ御質問デアリマシタガ、マダ米國政府カラハ何等ノ意思表示ハアリマセヌ、アリマセヌガ、若シ米國ヨリ此種提議ガアリマスル場合、政府ハ慎重考慮致シタイト考ヘテ居リマス、又日蘭會商ハ如何ナル程度ニ進捗シテ居ルカト云フ御質問デアリマシタガ、御承知ノ通り日蘭會商ハ隨分長ク掛ツテ居ルノデアリマシタガ、昨年六月以降餘程進捗シテ參リマシテ、最近ニ於キマシテ、遠カラズ妥協シ得ル機運ニナツテ居ルノデアリマスルカラ、左様御承知ヲ御願致シマス

○副議長(岡田忠彦君) 渡邊玉三郎君(渡邊玉三郎君登壇) ○渡邊玉三郎君 只今議題トナリマシタル四法案中、貿易組合法案、貿易調整法案、工業組合法中改正法律案ノ三案ニ付キマシテ質疑ヲ試ミタイト思ヒマス、此三案ガ貿易ノ振興上、且又貿易ノ調整上ニモ、我國重要工業品ノ進展ノ爲ニモ、最モ重要デアルコトハ申ス迄モアリマセヌ、躍進産業日本ノ根幹ヲ成スモノデアアルノデアリマス、隨テ此三法案ノ完璧ヲ期シ、其運行宜シキヲ得ルナラバ、敢テアノ不合理ニシテ反對ノ多イ輸出統制稅ノ如キモノヲ設ケル必要ガナイ、此内容強化ニ依リ自治的ニ其目的ヲ達スルコトガ適當デアルト信ズルモノデアリマス、政府ハ此三案ノ完璧ヲ期シ、經濟生活ノ發達ニ伴ツテ統制、機能ノ強化ヲ圖ルト共ニ、各業者間ノ調和ニ十分ノ善處ヲ望ムモノデアリマス、此觀點カラ數項ノ質疑ヲ試ミマス

第一、工業組合ハ自治的ニ製品検査ヲ爲スベキモノデアアルノニ、政府自ら此検査ヲ阻止スルガ如キ實例ガアルガ、是ハ如何ナル理由デアアルカ、第二ハ製品検査手數料ト云フモノハ検査費以上ニ徵收スベカラズト認ムルガ、工業組合ノ精神如何、第三ハ工業組合ハ工業組合中央會ニ強制加入ノ必要アリト認ムルガ、當局ノ所見如何、第四ハ組合ノ專業範圍ヲ擴充シ、金融ノ十全ヲ期スル必要アリ、是ガ政府ノ所見如何、第五ハ毛織物輸出品ハ國家統一アル検査ヲ爲スベシ、第六、輸入組合ト輸入原料ニ依ル中小工業ノ關係、第七、輸出組合ト中小工業ノ關係、以上七點ニ付テ質問ヲ致シマス

材料ノ共同購入、或ハ共同設備、其他組合員ノ指導、研究調査等デアリマス、此工業組合ガ自治的ニ其組合ノ製品検査ヲ爲スコトハ最モ重要デアアル、其検査ニ依ツテ統制モ、調整モ、品質ノ向上モアルノデアリマス、提案サレタル改正法案中ニモ、其第八條ノ二ニ於テハ「當該官吏ハ工業組合ノ検査員ヲシテ必要ナル補助ヲ爲サシムルコトヲ得、所謂工業組合ニ検査員ガアルコトハ當然必要ナラザル、然ルニ愛知縣ノ毛織物ハ縣營検査デ、工業組合ノ検査ヲ阻止シテ居ルノデアアル、是ガ縣營検査ハ、明治四十三年ノ五月十八日、農商務省令第六號、重要物産検査手數料ニ關スル件、之ニ依ツテ昭和六年商工省ト農林省トガ相談シテ、此省令ニ毛織物ヲ追加シテ、サウシテ愛知縣カラハ此省令第三條ニ依ツテ検査ヲ必要トスル事由、及ビ検査施行ニ對スル當業者ノ意向等ヲ一札入レテ、商工省ハ之ヲ認可シテ居ルノデアアル、其當業者ハ全部反對デアリマシテ、其當業者ノ意向ハ認可ノ條件ニナツテ居ル管デアリマス、其當業者ハ既ニ商工省ニ向ツテ、全部ガ記名調印シテ反對ノ意見ヲ述ベテ居ル、之ニ依ツテモ明カデアアル、此工業組合ハ重要工業品ノ製造ニ關スル工業者ヲ以テ組織スルモノデアアルコトハ勿論デアリマス、然ルニ明治四十三年ノ此古イ而モ農商務省令デアリマス、經濟生活ハ駸々トシテ發達シツ、アルニモ拘ラズ、此明治四十三年ノ農商務省令——是ハ商工當局ニ聽イテ見テモ中々分ラナイ、農林省ハ行クトヤット分ルヤウナ省令デアアル、此商工省ノ役人ニモ分ラヌヤウナ古臭イ省令ヲ持出シテ之ヲ認可サレテ居ル、丁度自動車ノ運轉ヲスルニ人力車夫ヲ連レテ來ルヤウナ、ソナナ規則ヲ以テ此工業組合ノ検査ヲ取扱ハウト云フノハ、以ノ外デアアルト思フノデアリマス、是ハ商工省自ら工業組合法ニ反逆シテ居ルト言フモ、私ハ敢テ過言デナイト思フ(拍手)

第一問、工業組合ノ製品検査ニ付テハ、大體工業組合ノ事業ハ、大別シテ消極的事業ト積極的事業ガアルノデアリマス、消極的事業トハ、検査、取締、統制等ヲ指スモノデアリ、又積極的事業ナルモノハ、原料、

商工省ハ速ニ此工業組合法ノ精神ニ則ツテ愛知縣ニ警告ヲ發シ、關係工業組合又ハ大日本毛織物工業聯合會ニ組合員ノ製品検査ヲ行ハシメ、以テ本邦毛織物工業進展ノ爲ニ適當ナル指導監督ヲ望ムモノデアリマス

第二問、検査手数料ニ關スル件デアリマス、検査ノ事業ハ消極的の事業デアアル、勿論之ニ依ツテ利益ヲ得ルコトハ有リ得ベカラザルコトデアアルニモ拘ラズ、愛知縣ニ於キマシテハ、縣營検査ヲ其毛織物ヲ検査スル爲ニ、年々十萬圓近クノ利益ヲ擧ゲテ居ル、業者ガ此手数料ノ引下ヲ要望致シマシテモ中々容易デハナイ、所謂官債獨善ノ聲ハ斯ウ云フ所カラ起ルノデアリマス、是ハ今申上ゲマシタ農商務省令第六號ノ第三條ノ運行ヲシテ居ルノデアリマス、其第三條ノ運行ハ、即チ明治四十三年五月二十四日、農商務省ノ次官通牒「重要物産ノ検査ニ關スル取扱方ノ件」デアアル、斯ウ云フ古イモノヲ引張り出シテ、サウシテ是利益ヲ擧ゲテ居ル、コナナ不都合ナ得テ手勝手ノコトヲ商工當局ガ默認スルト云フコトハ、實ニ遺憾千萬デアルト思フノデアリマス、相手ガ縣デアアルカラ、商工當局ガ法ノ運行上臆病デ今日ニ至ツタモノデアルト認ムルノデアリマス、取締ハ官僚デモ民間デモ同様ニ取扱フベキモノデアルト思フガ、此點如何、御答辯ヲ要求致シマス

第三問、工業組合ノ中央會ハ強制加入デナケレバ、統制強化或ハ調整ノ萬全ヲ期スルコトハ出來ナイト信ジマス、輸出貿易ノ進展ヲ圖ルニハ工業者間ノ連絡緊密ヲ圖ル必要ガアリマスルガ、之ヲ自由ニ委シテ置キマシテハ、容易ノコトデハナイ、殊ニ中小工業ノ現狀ニ鑑ミテ、企業ノ統制ノ徹底ヲ期スル爲ニ、工業組合中央會ヲ法制上根據アル團體トシ、工業組合ノ普及發達及ビ連絡機關トシテ、企業ノ改善合理化及ビ其

統制ノ確立ニハ、各工業組合ハ中央會ニ強制加入スルコトノ制度ヲ必要トスルノデアリマス、現在我が工業組合ノ數ハ九百七十組合アルト思ヒマス、其中デ工業組合中央會ハ加入シテ居ルモノガ六百五組合、所謂加盟シテ居ル組合ノ五〇％ニ相當スル非加盟ノ組合ガアル、斯ウ云フコトデ以テ、總テノ統制調整及ビ連絡ヲ圖ルコトハ極メテ至難デアアル、故ニ私ハ御提案ニナツタ第五十條ノ第一項ヲ左ノ如ク改メルノ政府ハ意思アリヤ否ヤ、即チ工業組合及ビ工業組合聯合會ハ工業組合中央會ニ加入スベシ、工業組合法ハ御提案ヲ斯様ニ訂正スベキデアアル、當局ノ御所見如何ヲ御尋スルノデアリマス

第四、組合ノ金融ノ點デアリマス、我國ノ産業上……(細カイコトハ委員會デヤレ)ト呼フ者アリ、我國ノ産業上中小工業者ハ重要ナル地位ヲ占メテ居ルニ拘ラズ薄資微力デアアル、商工組合中央會ノ活動等ヲ以テ金融ヲ圓滿ナラシメ、内ニアツテハ債務ノ保證ヲ確立シ、手形割引ヲモ爲シ得ルコトトシ、産業組合同族家族貯金ヲモ出來ルヤウニセラレタイト思フノデアリマス、即チ第三條第二項ヲ左ノ如ク改メルノ當局ハ意思ナキヤ、組合ハ前項ノ事業ノ外組合員ニ對シテ、其營業ニ付キ資金ノ貸付若クハ手形ノ割引、組合員ノ爲ニスル其營業上ノ債務ノ保證、又ハ組合員若クハ其家族、從業者ノ貯金ノ受入ヲ併セテ行フコトトスルコトヲ得ルトスベキデアルト思フ、政府ハ其意思アリヤナキヤ(委員會デヤレ)「默シテ居ラレカ」ト呼ヒ其他發言スル者多シ)君等ハ靜ニ能ク聽キナサイ

第五問、毛織物ハ國家統一アル検査ヲスベシ、我國ノ毛織物産業ハ、羊毛ノ輸入過去三箇年間平均約八十万俵デ、輸入ノ金額モ二億萬圓ニ及ンデ居ルノデアリマス、今ヨリ僅ニ十年前ニハ、マダ殆ド毛織物ハ輸入品デアッタ、然ルニ此近々十年間ニ輸入

ヲ防遏シテ、サウシテ輸出ハ、昨年ノ如キハ五千萬圓ノ多キニ達シテ居ルノデアリマス、今日デハ本邦毛織物生産ノ八割ハ、愛知縣ノ數千ノ中小工業者ノ手ニ依ツテ生産サレテ居ルノデアリマス、此飛躍的發展ノ毛織物ハ、所謂愛知縣ノ業者ノ研鑽努力ノ賜物デアリマスルガ、此毛織物ハ生活ノ必需品ナルノミナラズ、國民健康保險ノ上ニ於キマシテモ、國防上ニモ重要デアアル、平和産業デアリ、共ニ又一面軍需産業デアリマス、毛織物ナクテハ戰爭モ出來ス、又貿易上ニ於テモ近々數年間ニ、今マデハ輸入國デアッタモノガ輸出國トナツタ、國民ノ中ニハ、舶來萬能ノ夢ガ未ダ覺メズニ、國産品ノ洋服ヲ著テ居リナガラ、俺ハ舶來物ヲ著テ居ルト、斯ウ云フヤウナコトヲ言ツテ居ル人多イ、實ニ笑フベキデアアルト思ヒマス(拍手)我國ノ毛織物ノ大飛躍ハ英國ノ脅威デアアル、由テ以テ日濠問題ノ如キモ惹起シタト思フノデアリマス、此重要ナル毛織物ニ對シテ國家ガ統制アル検査ヲ、國家ノ十分ナル監督ノ下ニ統一アル検査ヲ望ム者デアリマス

第六問、輸入組合ト輸入品原料トスル中小工業者トノ關係ニ付デアリマス、其原料ノ賣買ガ圓滿ナ運ビガ付テ、中小工業ノ操業ノ出來ルコトヲ、ドシナ風ニ御心配下サレテ居ルノデアアルカ、例ヲ羊毛ノ小紡績紡毛工場ニ付テ申シマスルト、現ニ輸入協會ハ商工省ノ斡旋デ昨年出來タト記憶シテ居リマス、此羊毛輸入協會ハ、有力ナル大資本ヲ持ツテ居ル羊毛ノ輸入業者ノ團體デアアル、同時ニ羊毛紡績工場ノ經營者デアアル、國策ノ上カラ買付分散スルノデアアルガ、其「アウト・サイダー」ノ紡績工場ハ、原料ノ割當ガ不當デ、殆ド經營ガ不能ノモノモアルト聞イテ居リマス、貿易組合法ガ出來テ、一層經營困難トナルノデアアルト心配スル者ガ有ルノデアアル、英國ノ「ブラッドフォード」ノ毛織物ガ世界中ニ信用ヲ博シテ居ルノモ、毛織物ハ中小工業ニ適シテ居ルト云フコトガ如實ニ現レテ居ルト思ヒマス、我國ノ纖維工業中毛織物ガ英國ニ及ナイ管ガナイノデアリマス、其紡毛工業ノ如キハ、小規模デ優良ナル特殊ノ紡毛ヲ造ルノデアリマスカラ、其小工場ハ羊毛工業ノ進展ノ上ニモ重要ナル存在デアアル、國策ノ上カラ原料ノ買付分散ガ行ハレテ居ルコトハ、種々ナル情勢ヨリ見テ決シテ反對スルモノデハナイ、併シ其結果ハ、一番困ツテ居ルノハ小紡績工場デ、原料割當ガ少ク、買入ガ困難デアリ、又値段ヲ高ク買ハナケレバナラス、即チ小工場ハ、高イ原料ヲ而モ買入レ困難デ經營不能ニナツテ困ツテ居ル、斯ウ云フコトヲ聞イテ居ルガ、其事實ニ對シテ當局ハ如何ニ善處セントスルノデアアルカ

第七問、輸出組合ト中小工業ノ關係デアリマス、先ニモ御話ガアリマシタカラ、唯簡單ニ申シマス、日印、日蘭、或ハ日濠ノ如ク、割當制度ヲ以テ我國商品ノ輸入ヲ制限シテ居ル、此割當ハ輸出組合、即チ有力ナル貿易商ガ、中小工業者ニ競争的ニ其商品ノ見積リヲ出サセ、其輸出商ハ必ズ利益ヲ得ルノデアアルガ、中小工業者ハ遂ニ五ニ競争シテ安ク引受ケル、茲ニ良品廉價デ中小工業經營困難ノ聲ガ生レルノデアリマス、割當ヲ得ク輸出商ハ利益ガナケレバ、割當ノ權利ヲ他ヘ權利金ヲ以テ讓渡スル、是デハ中小工業者ハ何時マデ經ツテモ頭ノ上ル時ガナイ、故ニ工業組合ニモ割當ノ時相談ヲスル必要ガアルト思フ、輸出貿易ニ於テハ、輸出商ト製造業者トノ連絡緊密ヲ圖ツテ、共存共榮ノ下ニ進ムベキデアルト思フノデアリマス、本日御提案ニナツテ居リマスル貿易調整法ニ依リマシテ、貿易審議會、或ハ統制委員會ヲ設ケラレラ答デアリマスガ、斯ウ云フコトデ此弊害ヲ本當ニ除去ス

下ノ毛織物ガ世界中ニ信用ヲ博シテ居ルノモ、毛織物ハ中小工業ニ適シテ居ルト云フコトガ如實ニ現レテ居ルト思ヒマス、我國ノ纖維工業中毛織物ガ英國ニ及ナイ管ガナイノデアリマス、其紡毛工業ノ如キハ、小規模デ優良ナル特殊ノ紡毛ヲ造ルノデアリマスカラ、其小工場ハ羊毛工業ノ進展ノ上ニモ重要ナル存在デアアル、國策ノ上カラ原料ノ買付分散ガ行ハレテ居ルコトハ、種々ナル情勢ヨリ見テ決シテ反對スルモノデハナイ、併シ其結果ハ、一番困ツテ居ルノハ小紡績工場デ、原料割當ガ少ク、買入ガ困難デアリ、又値段ヲ高ク買ハナケレバナラス、即チ小工場ハ、高イ原料ヲ而モ買入レ困難デ經營不能ニナツテ困ツテ居ル、斯ウ云フコトヲ聞イテ居ルガ、其事實ニ對シテ當局ハ如何ニ善處セントスルノデアアルカ

第八問、輸出組合ト中小工業ノ關係デアリマス、先ニモ御話ガアリマシタカラ、唯簡單ニ申シマス、日印、日蘭、或ハ日濠ノ如ク、割當制度ヲ以テ我國商品ノ輸入ヲ制限シテ居ル、此割當ハ輸出組合、即チ有力ナル貿易商ガ、中小工業者ニ競争的ニ其商品ノ見積リヲ出サセ、其輸出商ハ必ズ利益ヲ得ルノデアアルガ、中小工業者ハ遂ニ五ニ競争シテ安ク引受ケル、茲ニ良品廉價デ中小工業經營困難ノ聲ガ生レルノデアリマス、割當ヲ得ク輸出商ハ利益ガナケレバ、割當ノ權利ヲ他ヘ權利金ヲ以テ讓渡スル、是デハ中小工業者ハ何時マデ經ツテモ頭ノ上ル時ガナイ、故ニ工業組合ニモ割當ノ時相談ヲスル必要ガアルト思フ、輸出貿易ニ於テハ、輸出商ト製造業者トノ連絡緊密ヲ圖ツテ、共存共榮ノ下ニ進ムベキデアルト思フノデアリマス、本日御提案ニナツテ居リマスル貿易調整法ニ依リマシテ、貿易審議會、或ハ統制委員會ヲ設ケラレラ答デアリマスガ、斯ウ云フコトデ此弊害ヲ本當ニ除去ス

ルコトが出来ルカ、其委員ノ額觸レガ大頭デ、實情ノ認識ガ少イト思フ、私ハ工業組合等ガ其協議ニ與ラナケレバ、實際ノ圓滿ナル運行ハ出来ヌノデアリマス、以上七點ニ付テ商工大臣ノ親切明快ナル御答辯ヲ要求スル者デアリマス、御答辯ニ依リマシテハ更ニ質疑ヲ繼續スルコトニ致シマス（拍手）

（國務大臣伍堂卓雄君登壇）

○國務大臣（伍堂卓雄君） 渡邊君ノ御質問ニ御答致シマス、第一ハ工業組合ハ自治的ニ製品検査ヲシタラ宜イノニ、政府ガ自ラ其ノ検査ヲスルノハドウカト云フ御質問デアリマスルガ、是ハ一般的ニハ組合ヲシテ自治的ニ行ハシメル方ガ宜イト思ヒマスガ、特殊ノ場合ニハ検査ノ統一ヲ圖ル爲ニ、組合以外ノ機關ヲ以テスルコトガ必要デアルト思フデアリマス、第二ハ、製品ノ検査手数料ハ検査費以上ニ徴收シテハイケナイト思フガ、ドウカト云フ御質問デアリマスガ、御説ノ通りデアリマス、検査ニ必要ナ經費ヲ標準トシテ定ムベキモノデアルト思ヒマスガ、若シ實情之ニ副ハナイモノガアリト致シマスレバ、之ニ對シテハ善處シナケレバナラヌト思ヒマス、第二ハ、中央會ニ強制加入ノ必要ガアルト認メルガ、ドウカト云フ御意見デアリマスガ、只今デハ中央會ハ組合又ハ組合聯合會ノ普及、發達、連絡等ノ爲ニ出来テ居ルノデアリマシテ、多數ノ組合及ビ組合聯合會ガ、先刻御話ニナツテ居リマシタ通りニ、九百餘ニ對シテ六百幾ラ入ツテ居ル、之ヲ強制加入スル方ガ宜イカドウカト云フコトハ、慎重ニ考慮スル必要ガアルト思フデアリマス、ソレカラ次ハ組合金融ノコトデアリマスガ、此點ニ付キマシテハ其必要ヲ認メマシテ、今回ノ改正ニモ新ニ組合ノ債務ノ保證ヲ爲シ得ルヤウニ致シタノデアリマス、次ハ毛織物ノ検査ヲ國營ニシロト云フ御話デアリマ

スガ、是ハ御意見見ヨリ御同感デアリマシテ、検査ノ統一、製品ノ向上ヲ圖ル爲ニハ、慎重ニ考慮シテ見タイト思フデアリマス、ソレカラ其次ノ輸入組合對工業組合、又輸出組合對輸入組合、或ハ中小工業デアリマシタカ、工業組合デアリマシタカ、其點甚ダ恐縮デスガハッキリシマセヌデシタガ、私ハ之ヲ輸入組合ト中小工業、輸出組合ト中小工業ト云フ風ヲ御質問ト解釋致シマシテ、之ニ對シマシテハ輸入組合、輸出組合ニ於キマシテ、貿易ノ統制ヲ實施スル場合ニ、生産者ト緊密ナ連絡ヲ取ルコトハ最も必要デアリマシテ、殊ニ中小工業者ニ付テハ、工業組合ヲシテ之ニ對應サセマシテ、生産統制ヲ實施サセマシテ、統制ノ點ヲ擧ゲタイト思フデアリマス、是レ以上具體的ノ色々御話ガアリマシタガ、是ハ私資料ヲ持チマセヌカラ、委員會ニ於テ御答シタイト思ヒマス

○渡邊玉三郎君

簡單デアリマスカラ自席ヨリ發言ノ御許ヲ願ヒマス

○副議長（岡田忠彦君）

許シマス

○渡邊玉三郎君

只今商工大臣ノ御答辯ハ、満足ノ出来ナイ點モアツタノデアリマスケレドモ、總テハ委員會ニ於テ十分承ルコトニ致シマシテ、私ノ質疑ハ是デ打切りマス（拍手）

○副議長（岡田忠彦君）

田中彌助君

（田中彌助君登壇）

○田中彌助君 私ハ本日上程ノ日程中、工業組合法中改正案ニ關聯シテ商工大臣ニ御伺ワ致シタイト存ジマス、改正法律中ノ各般ニ互リマシテハ、先刻小林君並ニ渡邊君ニ依ツテ質問セラレタノデアリマシテ、私ハ其重複スル點ヲ全部避ケマシテ、他ノ機會ニ質問ヲ申上ゲルト致シマシテ、只今ハ極メテ簡潔ニ唯二點ダケノ質問ニ止メタイト存ジマス

其第一ハ、工業組合又ハ商業組合ノ設置認可權ヲ商工大臣ノ直轄カラ離シテ、地方長官ニ委任スルノ御考ガアルヤ否ヤ、其第二ハ、工業組合ト商業組合トノ分岐點ガ、從來ハ明瞭ヲ缺ク場合ガアツタノデアリマス、其限界ヲモット明確ニスルコトガ必要ト思フデアリマスガ、此點ニ對スル御考ハドウデアアルカ、先ヅ此二點ニ付テ質問ヲ申上ゲタイノデアリマス

而シテ其第一ニ付テノ質問理由ハ、工業組合ニセヨ、商業組合ニセヨ、其認可申請ヲシタル場合ニ於テハ、當然行政官廳ハ敏速ニ調査詮議スベキデアリマス、若シ遲延スルガ如キコトガアリマスレバ、當初ノ計畫ニ齟齬ヲ來シ、折角組合設立ノ熟シタル機運ヲ失ヒ、事業執行ノ順調ヲ期スルコトヲ得ナイ結果ニナルコトハ今更申ス迄モナイノデアリマス、然ルニ是マデノ實情ヲ檢討致シマスルニ、半年モ一年モ掛ル實情デアアル、又書式等マデモ既ニ完備シタモノデモ、早キモ三箇月以上ヲ要スルノミナラズ、其間尙ホ商工省ニ御百度詣リマスルノ實情デアリマス、言フ迄モナク、法律バカリ出来マシテモ、其運用ニ當ラ得ナケレバ、龍ヲ畫イテ目玉ノナイヤウナモノデアリマス、工業ノ地方分散化ハ國防上、産業上、將又工業原動力利用上等々ノ觀點カラ致シマシテ、一般大衆ノ熱望スル聲デアアルコトハ、是亦今更申ス迄モナイノデアリマス、又國策ノ見地カラ當然斯クアラネバナラスト信ズルノデアリマス、而シテ工業ノ地方分散化ハ、中央ノ大工業ノ地方分散ノ方法ト、地方自體ニ工業ヲ發達振興セシムルモノト、此二様ニ見ルコトガ出来ルノデアリマス、爾方致シマシテ、後者ノ目的ニ於テ工業組合ヲ行ハントスル場合、地方事情ニ暗キ中央政廳ガ許可ノ主體タルハ、實情ニ副ハザルコトガ多イト考ヘザルヲ得ナイノデアリマス、又事務主體ガ中央政廳ナル故、自然工業組合ニ關心ヲ有スル者ハ、唯中央

政廳ノ官吏ノミデアリマシテ、地方官吏ハ僅ニ一二ノ係員ヲ除イテハ、現在デハ關心ヲ持ツ者ガ皆無ト云フ有様デアリマスルカラ、地方分散化ハ殆ド期待シ得ラレナイ結果トナルノデアリマス、私共ガ常ニ考ヘサセラレルモノノ一ツト致シマシテハ、經濟方面ニセヨ、教育方面ニセヨ、其他各方面ニ互ツテ、漸次中央集權ノ傾向ガ其度ヲ深メツ、アリマスルコトガ、國家將來ニ思ヒテ致ス時、又國運ノ發展ノ上カラ致シマシテモ、ドウ云フモノデアアルカ、爲政家ノ考慮ヲ要スル重大ナル點デアリマシテモ、工業ノ地方分散化ヲ期圖トセナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、尙又組合ノ指導ハ、地方長官ガ地方事情ニ明ルキ地方自治團體、或ハ商工會議所等々ニ關聯ヲ取リマシテ、地方政廳ガ主體トナツテ直接之ヲ行フコトガ最良ノ方法ナル故、隨テ組合認可權モ亦地方長官ニ委任スベキガ、一番自然ノ歸趨デアアルコトヲ信ズル者デアリマスガ、此點ニ對スル御所見ヲ伺ヒタイノデゴザイマス

次ニ第二ノ質問理由ハ、其業種ニ依リマシテ商業組合ヲ組織スベキモノナリヤ、將又工業組合ヲ組織スベキモノナリヤ、此疑問ガ生ズル場合ガ過去ニ於テ折々繰返サレタル實情デアアルノデゴザイマス、即チ商業組合設立ヲ目的トスル場合ハ、工業組合ニ關スル事業部分ヲ現ハサナイ、又工業組合設置ヲ目的トスル場合ハ、工業組合ニ關スル事業部分ノミヲ強調致シマシテ、其申請書ヲ提出スルガ故ニ、書類ノミニ就テハ業者ノ實情ヲ明ニスルコトヲ得ナイ次第デアリマス、從來組合ヲ組織スル側カラ致シマシテモ、商工何レガ適切ナリヤト云フコト居ツタヤウニ思フデアリマスルガ、之ヲ明ニ致シマシテ指導スルコトガ、主務省トシテハ當然爲スベキ緊要ナ事務デアルト信ズ

ルノデアリマス、時間ガアアリマセヌカラ、極メテ簡單ナル實例ヲ申上ゲマスルナラバ、我が長野縣ニ於キマシテ洋服商ガ洋服商業組合ヲ作ツタ、所ガソレガ商業組合ト云フ名ハ冠シマシテモ、其仕事ガ、或ハ洋服ノ仕立、或ハ裁縫ト云フヤウナ仕事ガ屬スルガ爲ニ、是ハ寧ロ工業組合デアルト、斯様ナ見解ヲ持チ、又松本市ノ菓子卸商組合ノ如キハ、ヤハリ商業組合ト稱シマシテモ、工場デ菓子ヲ製造シテ居ルカラ、其當時可ナリ迷ハサレタノデアリマスルガ、商工省ノ中デモ、亦商務局ハ商業組合ナリト主張スル、工務局デハ工業組合ガ當然デアルト云フ見解ヲ爲ス、一貫セル方針、指導標準ガ今マデナカッタノデアリマス、工業組合法ノ第八條ノ統制命令發動ニ關シマシテハ、及ブベキダケ簡易迅速ニ之ヲ行ハナケレバナラヌモノデアリマスノニ、前述ノ如キ見解等デ徒ニ時日ノ遷延ヲ致シ、機會ヲ失フノミナラズ、工業組合ノ普及發達竝ニ地方分散化ノ實績ヲ擧ゲ得ザル點ヲ遺憾ニ思フノデアリマス、之ヲ要スルニ、統制ノ確立ハ我國工業界ノ急務デアツテ、是ガ目的ノ達成ノ爲ニハ、機ニ臨ンデ行政官廳ノ敏捷活潑ナル統制命令ノ發動ヲ必要トスルガ故ニ、地方長官ニ發動權ヲ委任シ、時機ヲ失スルコトノナキヤウニスルト共ニ、工業組合ニ對スル監督ヲ更ニ徹底スルニハ、組織ノ認可、指導監督、法律運用竝ニ事務等、總テ直接主體ヲ地方廳ニ置カザレバ、其目的ヲ完全ニ達成スルコトガ得ナイト考ヘテ居ルノデアリマスルガ、此點ニ對シマシテ當局ノ御答辯ヲ得タインデアリマス

○國務大臣(伍堂卓雄君) 田中君ノ御質問ニ御答致シマス、商業組合、工業組合ノ設立認可權ヲ、地方長官ニ委譲スル考ヘナイカト云フ御質問デゴザイマスガ、是ハ洵ニ御尤ナ御意見デアリマシテ、私ハ委譲シテ差支

ナイト思フノデアリマス、サウ云フ御趣意ニ副フヤウニ考究シテ見タイト思ヒマスガ、是ハ私ダケノ考デゴザイマスカラ、篤ト研究シテ見タイト思ヒマス、ソレカラ工業組合ト商業組合ノ分界ガハッキリ分ラヌ、是ハ其或モノニナリマスト、ドツチヘ入レテ宜イモノカ分ラヌモノガ實際アルト思フノデアリマス、併シ工業組合ハ工業者ヲ以テ成立チ、商業組合ハ商業者ヲ以テ成立ツコトニ、無論ナツテ居ルノデアリマシテ、實際ノ個々ノ場合ニ付テ之ヲ判斷シテ行ツテ居ルノデアリマス、但シドツチニ取ツテ宜イカ分ラヌモノガアルコトハ勿論デゴザイマス

○岡幸三郎君 只今ノ御答辯ニ對シマシテハ不徹底ナ點モゴザイマスルガ、何レ他ノ機會ニ發言ヲ要求致シマス、本員ノ質問ハ是デ打切りマス

○岡幸三郎君(岡幸三郎君登壇) 本員ハ只今上程致シテ居リマス、商工大臣ニ質問ヲ試ミタイト存ジマス、工業組合ノ現在ノ數ハ九百七組合ノ多キニ達シテ居リマシテ、其一年間ノ生産力ハ二十六億圓ノ巨額ニ達シテ居ルノデアリマス、而シテ此九百七組合、二十六億圓ノ生産力有シテ居リマス、此工業組合ノ指導精神ニ付キマシテハ、商工當局ヨリ是非トモ承ツテ置カナケレバナリマセヌ、從來此工業組合ニ對スル「カルテル」ノ如キハ、自主的「カルテル」ヲ以テ臨ンデ居ラレマシタケレドモ、最近ニ於キマシテハ著シク國家「カルテル」ニ變テ居ルヤウニ考ヘテ居ルノデアリマスルガ、只今上程シテ居ラレマス所ノ此工業組合法中改正法律案ノ如キ、多分ニ此官憲ノ干渉ト云フモノガ含まレテ居ルノデアリマス、此統制ノ方針、即チ國家「カルテル」ト云フコトナラバ私ハ何モ申シマセヌ、併シナガラ「カルテル」ノ方針

ガ自主的ニ委セルト云フコトデアリマスルナラバ、之ニハ相當ノ異論ヲ挾ム者デアリマス、先ツ此「カルテル」ノ方針ニ付キマシテ商工大臣ノ御答辯ヲ煩シタイト存ジマス

次ニハ先日來同僚ヨリ御尋ニナリマシタ所ノ、アノ工業組合中央會ノ問題デアリマス、現在ニ於キマシテハ道府縣ヲ通ジマシテ、工業組合中央會ノ支部ガ二十四アルノデアリマス、而シテ其他ノ組合ニハ、此工業組合中央會ト關係ヲ有クナイ組合ガ澤山アルノデアリマス、是ハ要スルニ其工業組合中央會ニ對スル加入ハ、任意ト云フコトデアリマスルカラ、經費ノ關係上加入シナイモノガ澤山アル、果シテサウデアリマスルナラバ、我が工業組合ヲ此工業組合中央會デ全部指導シテ行クト云フコトニ對シテハ、甚ダ遺憾ガアルノデアリマス、農村ニ於ケル農會アリキハ、農村業務ニ對シマシテ系統農會アリキ、相當ナル事業上ノ實績ヲ擧ゲテ居ルノデアリマス、又産業組合ガアリマシテ、農村經濟ノ爲ニ多大ナル寄與貢獻ヲ致シテ居ルノデアリマス、果シテサウデアリマスルナラバ、我が工業界ノ爲ニモ、系統的機關ヲ設ケテ、一貫シタル筋ノ通ツタ所ノ統制ノ必要ガ、大イニアルト私ハ考ヘル次第デアリマス、然ルニ工業組合中央會ノ如キハ統制ノ保障ノ下ニ出來テ居リマスルガ、工業組合トシテハ任意加入ト云フ形式ヲ採ツテ居ルノデアリマスルカラ一貫シタル統制ノ上ニ非常ニ不便不利ガアルト存ズル次第デアリマス、同僚ノ質問ニ對シマシテハ、商工大臣ハ左様ヲ必要ハナイカノ如クニ御答辯ニナリマシタガ、是ハ要スルニ工業組合中央會ヲ御認めニナツタ時ニ、既ニ全體ノ工業組合ヲ統制スルト云フ目的ノ爲ニ、此中央會ト云フモノハ御認可ニナツタノデアリナイ、果シテ左様デアリマスルナラバ、工業組合中央會ニ對シマシテハ、佛作ツテ魂ヲ入レナイヤウナ結論

ノデアリマスルカラ、明確ナル御答辯ヲ承リタイト存ジマス(拍手)

〔國務大臣伍堂卓雄君登壇〕

○國務大臣(伍堂卓雄君) 岡君ノ御質問ニ御答致シマス、第一ハ「カールテル」ハ自主的デアルカ、或ハ國家的デアルカト云フ御質問デアリマスガ、屢次申上ゲマシタ通りニ、政府ノ統制方針ハ自主的ヲ本トシテ、内外ノ情勢ニ應ジテ、適當ナ統制ヲ加ヘヨウトスルノデアリマス、第二ノ中央會ヘノ強制加入ニ關シマシテハ、渡邊君ニ御答申シマシタ私ノ言葉ガ足ラナカッタノカモ知レマセヌガ、私ハ慎重ニ考慮シテ見タイト申上ゲタノデアリマス

○岡幸三郎君 只今ノ答辯ノ中デ、此工業組合認可ニ對スル地方長官委任事項ノコトニ付テ、モウ一ツ承リタイト思ヒマス

○副議長(岡田忠彦君) 商工大臣、何カ落チテ居ルト云フコトデスガ、アナタノ御答辯ハ……岡君、何方落チテ居ルト云フノデスカ

○岡幸三郎君 地方長官ニ工業組合設立ノ認可ノ委任事項

〔國務大臣伍堂卓雄君登壇〕  
○國務大臣(伍堂卓雄君) ソレハ先程渡邊君ニ御答申シマシタカラ、私ハ宜イト思ッテ申サナカッタノデゴザイマスガ……

〔岡幸三郎君「違ヒマス」ト呼フ〕  
○國務大臣(伍堂卓雄君) 續 全ク同様デゴザイマシテ、地方長官ニ委任シテ差支ナイト私ハ考ヘテ居リマスガ、尙ホ法規等ヲ研究致シマシテ、善處シタイト思ヒマス

〔岡幸三郎君「個人ノ資格デスカ、商工大臣ノ資格デスカ」ト呼フ〕

○國務大臣(伍堂卓雄君) 續 商工大臣ノ資格デゴザイマス

○岡幸三郎君 私人ノ質問ハ是デ打切りマス  
○中山福藏君 澤田利吉君及ヒ原玉重君ハ、時間ノ都合上議事ノ進行ヲ迅速ナラシ

メル爲ニ、質問撤回ノ申出ガアリマシタ、仍テ質問通告順位カラ之ヲ省カレンコトヲ望ミマス

〔贊成「ト呼フ者アリ」〕

○副議長(岡田忠彦君) 然ラバ是ニテ質疑ハ終リマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○中山福藏君 日程第二ハ政府提出、アルコイル專賣法案委員ニ併セ付託シ、日程第三乃至第五ノ三案ハ、一括シテ政府提出、輸出補償法中改正法律案ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ「ト呼フ者アリ」〕  
○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○中山福藏君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第三十四ヲ繰上ゲ上程シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ「ト呼フ者アリ」〕  
○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第三十四、輸出補償法中改正法律案ノ第一讀會ヲ續ク開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——理事川橋豐治郎君

第三十四 輸出補償法中改正法律案

〔政府提出〕  
第一讀會ノ續(委員長報告)  
報告書  
一輸出補償法中改正法律案(政府提出)  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也  
昭和十二年三月十五日  
委員長 田島勝太郎  
衆議院議長富田幸次郎殿

〔川橋豐治郎君登壇〕

○川橋豐治郎君 只今議題ト相成リマシタ輸出補償法中改正法律案ニ關シマシテ、田島委員長ニ代リマシテ、簡單ニ委員會ノ經過及結果ヲ御報告申上ゲマス、本委員會ハ本月四日第一回委員會ヲ開會致シマシテ、田島勝太郎君ガ委員長ニ互選サレマシタ、爾來本月十五日マデ五回ニ互リマシテ、各委員ヨリ熱心ニ質問サレタノデアリマス、本案ハ輸出業者ノ損害補償ノ率ヲ高メ、以テ輸出振興ヲ圖ル趣意ニ依ル提案デアリマシテ、既ニ第六十四議會及第六十五議會ニ於テ建議案ガ通過シテ居リマス、更ニ第六十七議會ニ於キマシテハ、議員提出法律案ト致シマシテ提案サレマシタガ、遂ニ審議未了ト相成ツタノデアリマス、斯ル経緯ニ依リマシテ本議會ニ提出サレマシタノデアリマシテ、隨テ委員會ニ於キマシテハ別段ノ異論ガナカッタノデアリマス、唯本案ニ關聯致シマシテ、宮本委員ヨリ本法案ノ運用地域、對滿貿易、各國關稅問題等ニ付テ、又岡崎君ヨリハ對「ソ」聯邦貿易ニ付キマシテ、木下君ヨリ日印會商等ニ付キマシテ、石坂君ヨリ綠茶輸出等ニ付キマシテ、政府當局トノ間ニ質問應答ガアツタノデアリマス、斯クテ十五日ニ至リマシテ質問ヲ打切り、直チニ討論ニ入りマシタガ、岡崎君ガ本案ニ對シマシテ贊否ノ態度ヲ保留サレマシタ外、大多數ノ贊成ノ下ニ原案通り可決決定致シマシタ、以上御報告申上ゲマス(拍手)

○副議長(岡田忠彦君) 討論ノ通告ハアリマセヌ、本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔贊成者起立〕

○副議長(岡田忠彦君) 起立多數、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○中山福藏君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ「ト呼フ者アリ」〕  
○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第三讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

輸出補償法中改正法律案 第三讀會

〔異議ナシ「ト呼フ者アリ」〕  
○副議長(岡田忠彦君) 別ニ御發議モアリマセヌカラ、第二讀會決議ノ通り可決確定致シマシタ(拍手)日程第六、橫莊鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——鐵道大臣伍堂卓雄君

第六 橫莊鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)  
第一讀會  
橫莊鐵道株式會社所屬鐵道外三鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案  
政府ハ左ノ鐵道買收ノ爲之ニ必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

一 橫莊鐵道株式會社所屬鐵道中前郷羽後本莊間

- 一 信濃鐵道株式會社所屬鐵道
- 一 藝備鐵道株式會社所屬鐵道
- 一 北九州鐵道株式會社所屬鐵道

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 本法ニ依リ公債ヲ發行スル場合ニ於テ地方鐵道法第三十六條ノ五ノ規定及昭和九年法律第二十二號ニ依リ大藏大臣ノ定ムル五分利附國債證券ノ時價ハ昭和十二年四月一日前六個月ノ平均相場ニ依リテ大藏大臣ノ定ムル價格ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

〔國務大臣伍堂卓雄君登壇〕

○國務大臣(伍堂卓雄君) 只今上程セラレマシタ法律案ノ提案理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、今回提案致シマシタル法律案ハ、地方鐵道ノ買收ノ爲ニスル公債發行ニ關スルモノデゴザイマス、買收セントスル鐵道ハ信濃、藝備及北九州ノ三鐵道ト横莊鐵道ノ一部トデアリマス、是等ハ何レモ國有鐵道ノ新線開業ニ伴ヒ、若クハ産業上、軍事上ノ必要ニ依リ之ヲ買收シマシテ、運輸ノ系統ヲ圖リ、地方産業ノ開發ニ資セントスルノデアリマス、何卒御協賛アラシコトヲ希望シマス

○副議長(岡田忠彦君) 本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○中山福藏君 本案ハ政府提出鐵道敷設法中改正法律案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○中山福藏君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、漁船保險法案、漁船再保險特別會計法案、森林火災保險法案、及ビ森林火災保險特別會計法案ノ四案ヲ一括シ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求め、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

災國營保險法案、及ビ森林火災保險特別會計法案ノ四案ヲ一括シ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求め、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 只今ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス仍テ日程ハ變更セラレマシタ、漁船保險法案、漁船再保險特別會計法案、森林火災國營保險法案、森林火災保險特別會計法案、右四案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求めマス——委員長紫安新九郎君

漁船保險法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

漁船再保險特別會計法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

森林火災國營保險法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

森林火災保險特別會計法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 漁船保險法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十二年三月十九日

委員長 紫安新九郎

衆議院議長富田幸次郎殿

附帶決議

- 一 海難防止並漁業従事者及其ノ遭難遺族救護ニ關スル施設ヲ講スヘシ
- 一 漁業組合中央金庫ヲ速ニ設置スヘシ
- 一 水産資源開發ノ爲沿岸魚介類ノ繁殖保護並遠洋漁業ノ振興ヲ計ルヘシ

報告書

一 漁船再保險特別會計法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十二年三月十九日

委員長 紫安新九郎

衆議院議長富田幸次郎殿

附帶決議

- 一 本法制定ノ趣旨ヲ徹底セシムル爲保險金額算定標準ヲ引上クルト共ニ保險料金ヲ引下クヘシ
- 一 漁船再保險特別會計ニ剩餘金ヲ生シタルトキハ保險料金引下ノ資ニ充當スヘシ
- 一 漁村ノ現状ニ鑑ミ本法運用ニ當リテハ中小漁船ニ對シテ特ニ意ヲ用フヘシ

報告書

一 森林火災國營保險法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十二年三月十九日

委員長 紫安新九郎

衆議院議長富田幸次郎殿

附帶決議

- 一 本法適用ノ範圍ヲ壯齡林ニモ擴大スルノ方途ヲ講スヘシ
- 一 人工植栽困難ニシテ天然ノ稚樹ヲ育成セル森林ニ付テモ保險ニ付スルノ方法ヲ開クヘシ

報告書

一 森林火災保險特別會計法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十二年三月十九日

委員長 紫安新九郎

衆議院議長富田幸次郎殿

附帶決議

- 一 本法制定ノ趣旨ヲ徹底セシムル爲保險料金ヲ引下ニ努ムヘシ

〔紫安新九郎君登壇〕

○紫安新九郎君 諸君、只今上程セラレマシタ漁船保險法案、漁船再保險特別會計法案、森林火災國營保險法案、森林火災特別會計法案、此四案ノ委員會ニ於ケル經過並ニ結果ヲ一括御報告致シマス

漁船保險ハ、漁船ノ所有者ラシテ漁船保險組合ニ依リ相互保險ヲ行ハシメ、政府ハ其再保險ヲ管理シ、以テ漁業經營ノ安全ヲ圖リ、延テハ漁業ノ改良發達ヲ促進セントスルノデアリマス、委員會ニ於キマシテハ、此保險ニ依ル損害ノ補填モ勿論必要デアアルガ、海難ノ防止、沿岸漁業ノ振興策ニ付テモ、速ニ充實ノ方策ヲ確立セラレタイ、又漁業ニ従事スル者ノ遭難救済ニ於テモ、適切ナル方策ヲ速ニ樹立セラレタイトノ御議論モアリマシタ、之ニ對シテ政府ハ是等ノ點ニ付テ、其必要ヲ認メ考慮スル旨ノ答辯ガアリマシタ、社會大衆黨ノ山崎君ハ、漁船保險ニ付キマシテハ、政府ハ漁業組合ノ全國的統一ヲ強メ、是ガ協同事業ノ發達ヲ助成シ、漁民經濟ノ自主的更生ニ資セラレタイ、次ニハ政府ハ漁業労働者ニ對シ、政府並ニ漁業主ノ全額負擔ニ依リ災害保險法ノ實現ニ努メラレタシトノ希望ヲ陳述セラレマシタ、尙ホ保險ノ目的タル漁船ノ範圍ニ付テハ、小漁船ヲ主トセラレタイトノ御議論ニ對シテハ、政府ハ百噸未満ノ小漁船ヲ原則トシ、例外ノ場合ト雖モ、一十噸ヲ超エナイコトニスル方針デアルトノ答辯ガアリマシタ、其他保險金額、保險料率等ニ付テモ、ソレノ質問應答ヲ重ネ、尙ホ此漁船保險制度ニ關聯シテ、一般水産振興ニ關スル施設ニ付テモ、政府ノ意圖ヲ質問致シマシタ

次ニ森林火災國營保險法案、森林火災保險特別會計法案ニ對スル委員會ノ經過並ニ

結果ヲ一括報告申上ゲマス、森林火災保險ハ、火災ノ被害最モ激甚ナル幼齡人工造林ニ付キ、國營火災保險ノ制度ヲ立テ、其損害ヲ補填シテ、再造林ヲ容易ナラシメ、森林資源ノ存續ヲ圖リ、以テ山村經濟ノ振興ヲ企圖シタモノデアリマス、委員會ニ於テハ森林保險ノ外ニ、農作物ニ對スル保險ノ必要ガ強調セラレマシタ、之ニ對シテ政府ハ更ニ研究ノ上成ベク次ノ議會ニハ提出致スト云フ考ヲ以テ、十分努力致シタキ旨ノ答辯ガアリマシタ、次ニ森林火災保險ニ付テハ、火災保險ニ依ッテ損害ヲ補填スルハ勿論必要デアルガ、火災防止等ノ對策ニ付キ、更ニ努力セラレタイトノ御議論モアリ、又保險金額ノ標準ニ付テハ質問ニ對シテ、政府ハ再造林ノ實費ヲ目安トシタモノデアルトノ答辯ガアリマシタ、次ニ本法ハ私法デアアル、國家ト人民ト對等ノ地位ニ立ツモノデアアル、然ルニ本法ニハ「申告ヲ忘リタルトキハ」云々「通知ヲ忘リタルトキハ」云々等ノ規定ガアツテ、一方ニ強イ權利ヲ與ヘ、一方ハ弱キ立場ニ在ルヤウナ感ガアルデハナイカトノ意味ノ質問ニ對シマシテ、政府ハ林業者ノ利益ヲ保護シ、保險ヲ繼續セシムルノ趣旨ヲ以テ、此保險ヲ運用スルコトトシ、出來得ル限り契約解除等ノ起ラナイヤウニ、林業家又ハ山村ノ實情ニ即シ、親心ヲ以テ實行スル旨ノ答辯ガアリマシタ、社會大衆黨ノ山崎君ヨリ、本案ニ對スル希望ト致シマシテ、政府ハ此營林地帯ニモ森林火災豫防ノ爲メ、官立ノ氣象觀測ト監視機關ヲ擴大シ、以テ森林被害ノ絶滅ニ努メラレタイト、又政府ハ次期議會ニ重要農作物保險法案ヲ必ズ提出セラレタイトノ陳述ガアリマシタ、又山村ノ經濟振興ニ付キ適當ナル指導者ノ養成ニ關スル御希望モアリマシタ、其他保險料、保險審査會ノ構成、無事戻等ニ付テ質問應答ガ重ネラレマシタ

而シテ本案ヲ採決スルニ當リマシテ、民政黨ノ多田君、政友會ノ登坂君、昭和會ノ今給黎君ヨリ、斯様ナル附帶決議ヲ提出セラレマシタ

- 一 海難防止並漁業従事者及其ノ遭難遺族救護ニ關スル施設ヲ講スヘシ
- 一 漁業組合中央金庫ヲ速ニ設置スヘシ
- 一 水産資源開發ノ爲沿岸魚介類ノ繁殖保護並遠洋漁業ノ振興ヲ計ルヘシ
- 一 本法制定ノ趣旨ヲ徹底セシムル爲保險金額算定標準ヲ引上クルト共ニ保險料金ヲ引下クヘシ
- 一 漁船再保險特別會計ニ剩餘金ヲ生シタルトキハ保險料金引下ノ資ニ充當スヘシ
- 一 漁船ノ現状ニ鑑ミ本法運用ニ當リテハ中小漁船ニ對シテ特ニ意ヲ用フヘシト云フノデアリマス

次ニ森林保險ニ對シマシテ斯様ナル附帶決議ガ提出セラレマシタ

- 一 本法適用ノ範圍ヲ壯齡林ニモ擴大スルノ方途ヲ講スヘシ
- 一 本法制度ノ趣旨ヲ徹底セシムル爲保險料金ノ引下ニ努ムヘシ
- 一 人工植栽困難ニシテ天然ノ稚樹ヲ育成セル森林ニ付テモ保險ニ付スルノ方法ヲ開クヘシ

ト云フノデアリマス、而シテ本法及ビ附帶決議トモニ全會一致ヲ以テ可決セラレマシタ、何卒委員會決定通り御贊成アランコトヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(岡田忠彦君) 四案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ四案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○中山福藏君 直チニ四案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 中山君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日は是ニテ散會致シマス

午後五時五十一分散會

○中山福藏君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、本日は是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 中山君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日は是ニテ散會致シマス

午後五時五十一分散會

○中山福藏君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、本日は是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 中山君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日は是ニテ散會致シマス

午後五時五十一分散會

○中山福藏君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、本日は是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

衆議院議事速記録第八號中誤植正誤

去月十九日衆議院議事速記録第八號一四八頁掲載法人資本稅法案中四段三行ノ次ニ左ノ第二十二條以下ヲ脱ス

第二十二條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本行地ニ於ケル資本ニ付テハ、法人資本稅ヲ課ス

第二十三條 第六條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本行地ニ於ケル資本ニ付テハ、法人資本稅ヲ課ス

第二十四條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ法人資本稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

附則

本法ハ昭和十二年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

去月十九日衆議院議事速記録第八號一四六頁掲載臨時租稅增徴法案第一條中「砂糖稅、消費稅」ハ「砂糖消費稅」ノ誤